

茨木市男女がともにつくるまちづくり  
市民意識調査報告書

平成 29 年（2017 年）3 月



茨木市



## 目 次

調査の概要.....	1
(1)調査目的 .....	1
(2)調査対象 .....	1
(3)調査期間 .....	1
(4)調査内容 .....	1
(5)報告書の見方.....	1
(6)回収状況 .....	2
(7)調査の精度 .....	3
調査結果.....	4
I あなた自身やご家族について.....	4
(1)性別.....	4
(2)年齢.....	4
(3)結婚の有無 .....	5
(4)家族構成 .....	6
(5)子どもの人数 .....	7
(6)末子の年齢 .....	8
(7)就労形態 .....	9
(8)職場の従業員規模 .....	10
(9)職種.....	11
(10)配偶者・パートナーの就労状態.....	12
II 子育てや学校教育について .....	13
(1)希望する子どもの育ち方 .....	13
(2)子育てについての考え方.....	15
(3)学校で男女平等を進めるうえで重要な取組 .....	19
III 家庭生活、仕事、社会活動、介護などについて.....	21
(1)仕事・家事時間 .....	21
(2)生活の中で優先したいこと、していること.....	24
(3)仕事の有無 .....	26
(4)職場において男女格差を感じること.....	27
(5)就労意向の有無.....	29
(6)働くことができない理由 .....	30
(7)地域の社会活動の参加状況.....	32
(8)参加している・参加したい社会活動.....	33

(9) 社会活動に参加するうえで支障となること .....	36
(10) 地域活動のリーダーの状況 .....	38
(11) 地域活動のリーダーに男性が多い理由 .....	39
(12) 介護の有無 .....	41
(13) 希望する介護 .....	42
(14) 介護を行う人 .....	43
<b>IV 男女の人権について .....</b>	<b>44</b>
(1) 職場や学校、地域における性的いやがらせの有無 .....	44
(2) 夫婦・恋人間で暴力だと思うこと .....	46
(3) 配偶者・恋人の有無 .....	49
(4) 配偶者・恋人からの暴力の有無 .....	50
(5) 配偶者からの暴力についての相談窓口の認知状況 .....	53
<b>V 男女共同参画に関する意識・政策及び茨木市の取組について .....</b>	<b>55</b>
(1) 性別役割分担意識 .....	55
(2) 性別役割分担に賛成する理由 .....	56
(3) 性別役割分担に反対する理由 .....	58
(4) 男女の地位の平等観 .....	60
(5) 女性が出産後も働き続けやすい社会をつくるために必要なこと .....	66
(6) 女性が再就職しやすい社会をつくるために必要なこと .....	68
(7) 男性が家事、子育てに積極的に参加していく社会をつくるために必要なこと .....	70
(8) 介護をしながらでも働き続けやすい社会をつくるために必要なこと .....	72
(9) 心と体の健康を保つために必要な取組 .....	74
(10) ローズWAMの利用経験の有無 .....	76
(11) ローズWAMの利用内容 .....	77
(12) 男女共同参画に関する言葉の認知度 .....	79
(13) 男女共同参画の進展に関する認識 .....	82

# 調査の概要

## (1) 調査目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、男女共同参画施策の推進・啓発を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

## (2) 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の市民2,000人

## (3) 調査期間

平成28年8月17日～9月2日

## (4) 調査内容

- ・子育てや学校教育について
- ・家庭生活、仕事、社会活動、介護などについて
- ・男女の人権について
- ・男女共同参画に関する意識・政策について
- ・茨木市の取組について

## (5) 報告書の見方

1. 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分率(%)の合計は100.0%を超える。
2. 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
3. 図中にある「n」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「n」を100.0%として表した。
4. クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明(無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

(6)回収状況

標本数	回収数(回収率)			
		女性	男性	不詳・無回答
2,000 票	1,018 票 (50.9%)	572 票	433 票	13 票

■ 母集団の人口構成

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	14,390	19,007	23,752	15,777	19,009	25,092	117,027
	%	12.3	16.2	20.3	13.5	16.2	21.4	100.0
男性	人数	14,235	18,309	23,481	15,716	16,913	18,898	107,552
	%	13.2	17.0	21.8	14.6	15.7	17.6	100.0
合計	人数	28,625	37,316	47,233	31,493	35,922	43,990	224,579
	%	12.7	16.6	21.0	14.0	16.0	19.6	100.0

■ 配布数

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	119	162	202	131	162	221	997
	%	11.9	16.2	20.3	13.1	16.2	22.2	100.0
男性	人数	126	173	221	150	156	177	1,003
	%	12.6	17.2	22.0	15.0	15.6	17.6	100.0
合計	人数	245	335	423	281	318	398	2000
	%	12.3	16.8	21.2	14.1	15.9	19.9	100.0

■ 回収数

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答	合計
女性	人数	46	91	119	89	110	115	2	572
	%	8.0	15.9	20.8	15.6	19.2	20.1	0.3	100.0
	回収率(%)	38.7	56.2	58.9	67.9	67.9	52.0		57.4
男性	人数	24	60	68	72	92	117	-	433
	%	5.5	13.9	15.7	16.6	21.2	27.0	-	100.0
	回収率(%)	19.0	34.7	30.8	48.0	59.0	66.1	-	43.2
合計	人数	70	153	189	162	202	235	7	1018
	%	6.9	15.0	18.6	15.9	19.8	23.1	0.7	100.0
	回収率(%)	28.6	45.7	44.7	57.7	63.5	59.0	-	50.9

注)合計には性別回答拒否・無回答を含むため女性と男性の計とは一致しない

## (7) 調査の精度

住民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができます。

調査結果の信頼度95%レベル(同一の調査を100回行った場合95回まではこの結果になるであろうという推定)における信頼区間は以下のとおりです。

主な%について求めたのが下表です。

この表から、例えば問「あなたは結婚していますか。(○は1つ)」の質問で女性は「結婚している」に約70%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が3.7%であるので100回調査すると95回までは66.3%から73.7%の間の答えが得られるということになります。

### 【主な標本における比率の信頼区間(信頼度95%)】

#### 今回調査の信頼区間(女性)

P(%)	信頼区間の 1/2 幅
50	4.1
45 55	4.1
40 60	4.0
35 65	3.9
30 70	3.7
25 75	3.5
20 80	3.3
15 85	2.9
10 90	2.5
5 95	1.8

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N=母集団(平成28年7月末現在満20歳以上)  
市の全人口(女性117,027人、男性107,552人)

n=標本数(女性の有効回答者=572人)  
(男性の有効回答者=433人)

P=回答率(標本測定値)

各設問での回答

(例:「そう思う」「どちらかといえばそう思う」など)

#### 今回調査の信頼区間(男性)

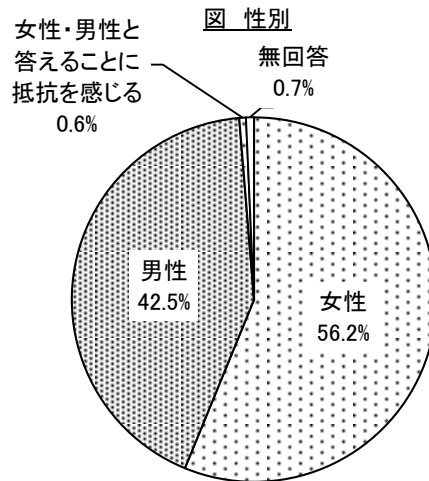
P(%)	信頼区間の 1/2 幅
50	4.7
45 55	4.7
40 60	4.6
35 65	4.5
30 70	4.3
25 75	4.1
20 80	3.8
15 85	3.4
10 90	2.8
5 95	2.0

# 調査結果

## I あなた自身やご家族について

### (1) 性別

回答者の性別は「女性」が56.2%、「男性」が42.5%となっており、「女性」の方がやや割合が高くなっている。

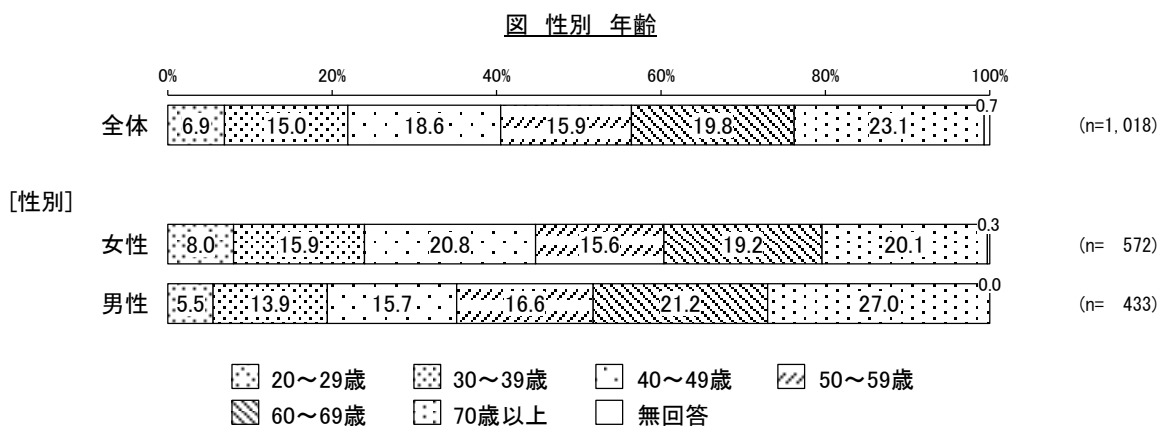


(N=1,018)

### (2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が23.1%、「60～69歳」が19.8%、「40～49歳」が18.6%などとなっており、60歳以上の回答者が4割強となっている。

性別にみると、50歳以上の割合は女性54.9%・男性64.8%と、男性の方が約10ポイント高くなっている。



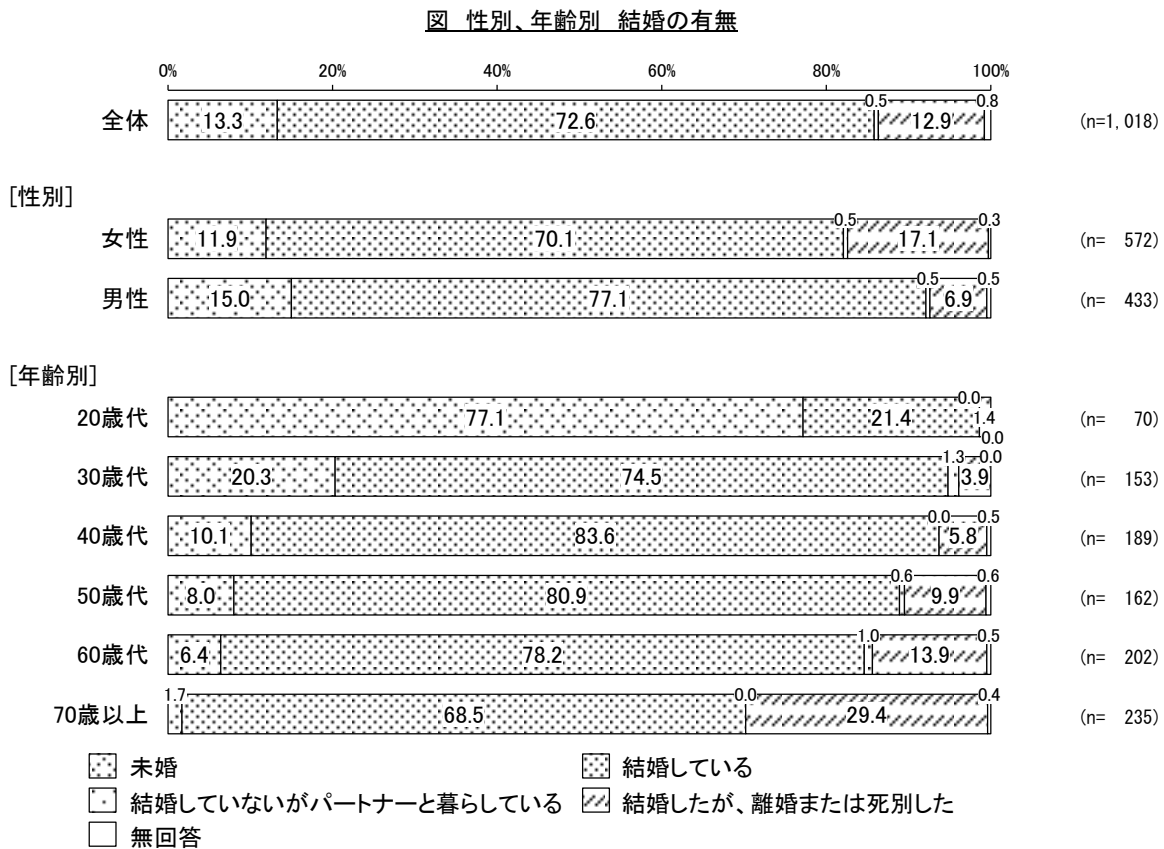


### (3) 結婚の有無

結婚の有無は、「結婚している」が72.6%を占め、「未婚」は13.3%、「結婚したが、離婚または死別した」は12.9%となっている。

性別にみると、女性の「結婚したが、離婚または死別した」は17.1%と、男性の6.9%より10ポイント以上高くなっている。

年齢別にみると、20歳代は「未婚」が77.1%を占めている。



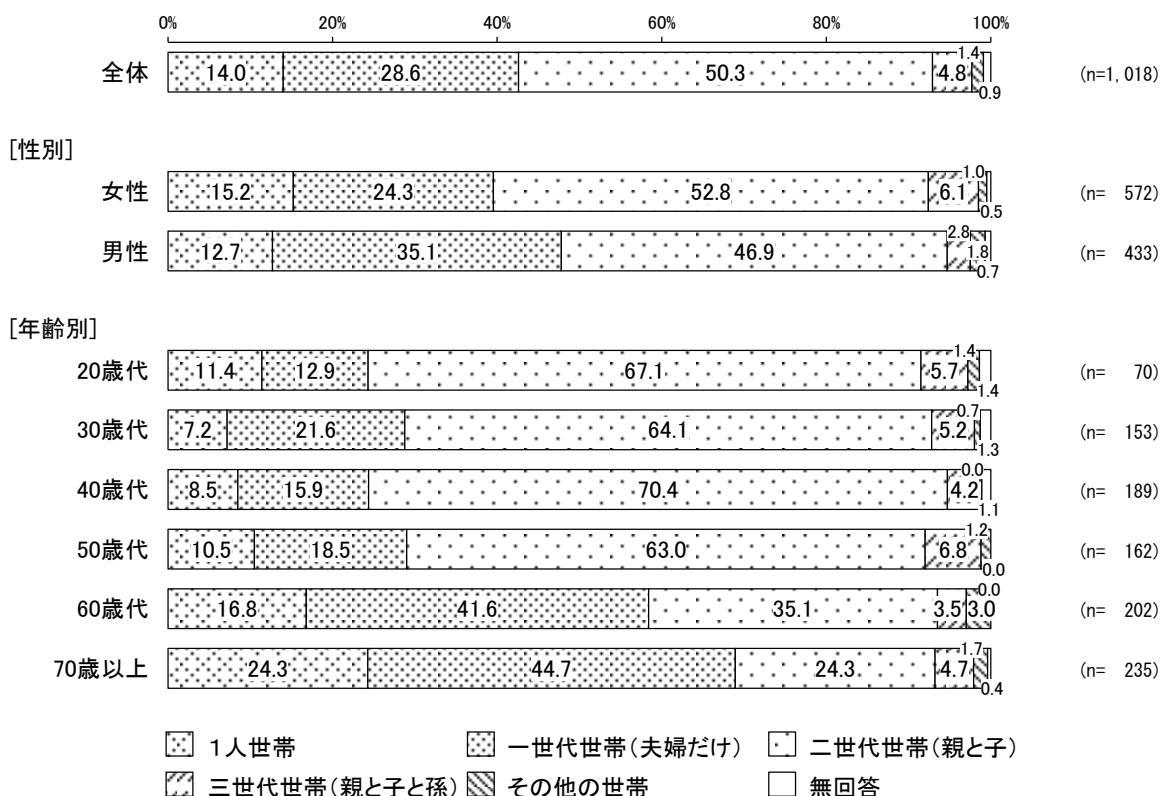
#### (4) 家族構成

家族構成は、「二世帯世帯(親と子)」が50.3%で最も高く、次いで「一世帯世帯(夫婦だけ)」(28.6%)、「1人世帯」(14.0%)、「三世帯世帯(親と子と孫)」(4.8%)の順となっている。

性別にみると、「一世帯世帯(夫婦だけ)」の割合は女性24.3%・男性35.1%と、男性の方が10.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60歳未満の年齢層では「二世帯世帯(親と子)」、60歳以上の年齢層では「一世帯世帯(夫婦だけ)」の割合が最も高くなっている。「1人世帯」の割合は60歳代では16.8%、70歳以上で24.3%となっている。

図 性別、年齢別 家族構成



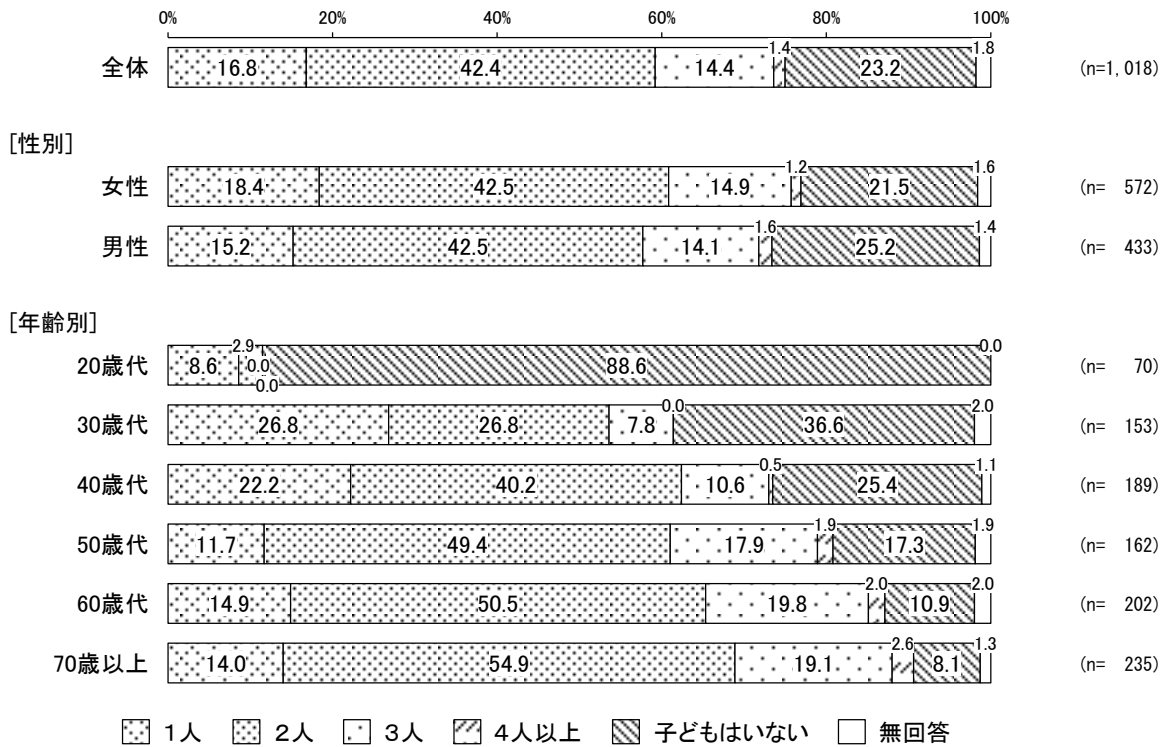
## (5)子どもの人数

子どもの人数は、「2人」が42.4%で最も高く、次いで「1人」16.8%、「3人」14.4%、「4人以上」1.4%となっており子どものいる人が合わせて75.0%、「子どもはいない」は23.2%となっている。

性別にみると、男性の方が「子どもはいない」の割合がやや高くなっている。

年齢別にみると、20歳代は「子どもはいない」が88.6%を占めているが、年齢が高くなるにつれて「子どもはいない」の割合は低くなっており、50歳以上の年齢層では「2人」が約5割を占めている。

図 性別、年齢別 子どもの人数



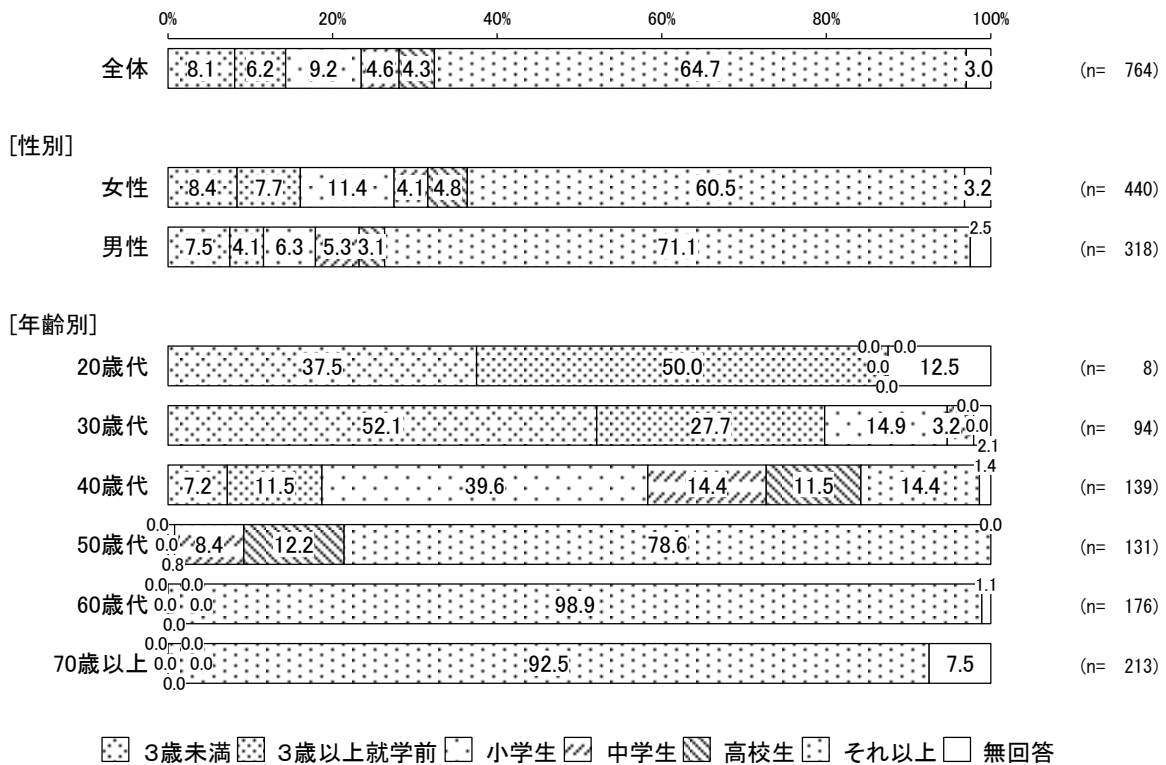
## (6) 末子の年齢

末子の年齢は、「それ以上」(高校生より上)が64.7%で最も高く、次いで「小学生」が9.2%、「3歳未満」が8.1%となっている。

性別にみると、女性では「小学生」以下が合計27.5%となっている。

年齢別にみると、20・30歳代は「3歳未満」と「3歳以上就学前」、40歳代は「小学生」、50歳以上の年齢層では、「それ以上」の割合が高くなっている。

図 性別、年齢別 末子の年齢



(7) 就労形態

就労形態は、「勤め人(正規の社員や職員)」が29.3%で最も高く、「家事専業(専業主婦・主夫)」(22.2%)、「無職(家事専業を除く)」(19.9%)、「勤め人(臨時・パートアルバイト等非正規社員や職員)」(19.1%)が約2割となっている。

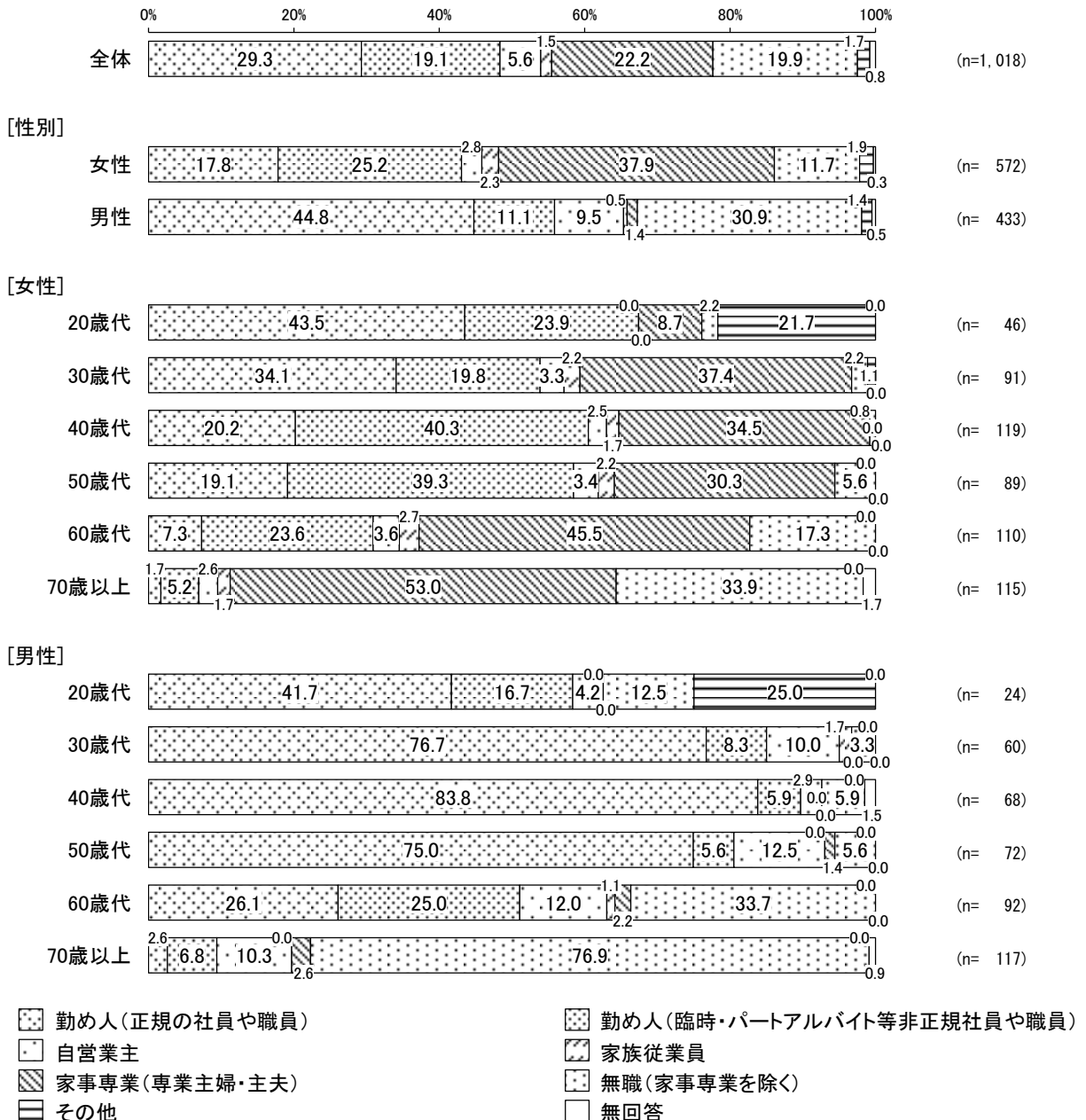
性別にみると、女性では、「家事専業(専業主婦・主夫)」の割合が37.9%で最も高く、次いで「勤め人(臨時・パートアルバイト等非正規社員や職員)」が25.2%となっている。

男性では、「勤め人(正規の社員や職員)」が44.8%で最も高く、次いで「無職(家事専業を除く)」が30.9%となっている。

年齢別にみると、女性の20歳代は「勤め人(正規の社員や職員)」、30歳代は「家事専業(専業主婦・主夫)」、40・50歳代では「勤め人(臨時・パートアルバイト等非正規社員や職員)」の割合が最も高くなっている。

男性では30～50歳代は「勤め人(正規の社員や職員)」が7割以上を占めている。

図 性別、性年齢別 就労形態



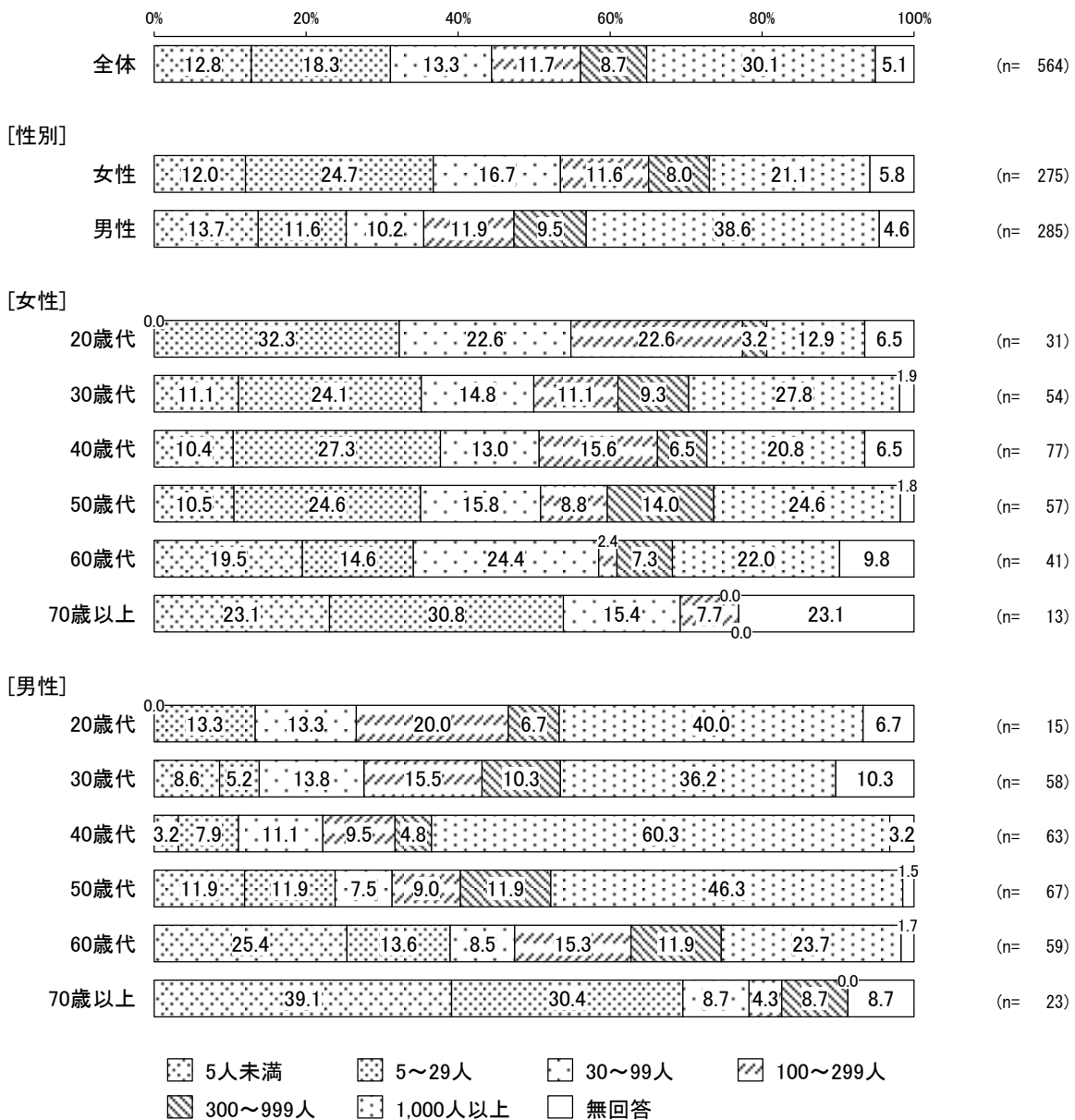
(8)職場の従業員規模

働いている人が勤める職場の従業員規模は、「1,000人以上」が30.1%で最も高く、「5～29人」が18.3%、「30～99人」が13.3%、「5人未満」が12.8%などとなっている。

性別にみると、女性は「5～29人」(24.7%)と「30～99人」(16.7%)の占める割合が男性よりも高くなっている。男性では、「1,000人以上」が38.6%となっている。

年齢別にみると、男性は60歳未満の年齢層では「1,000人以上」、60歳以上の年齢層では「5人未満」の割合が最も高くなっている。

図 性別、性年齢別 職場の従業員規模



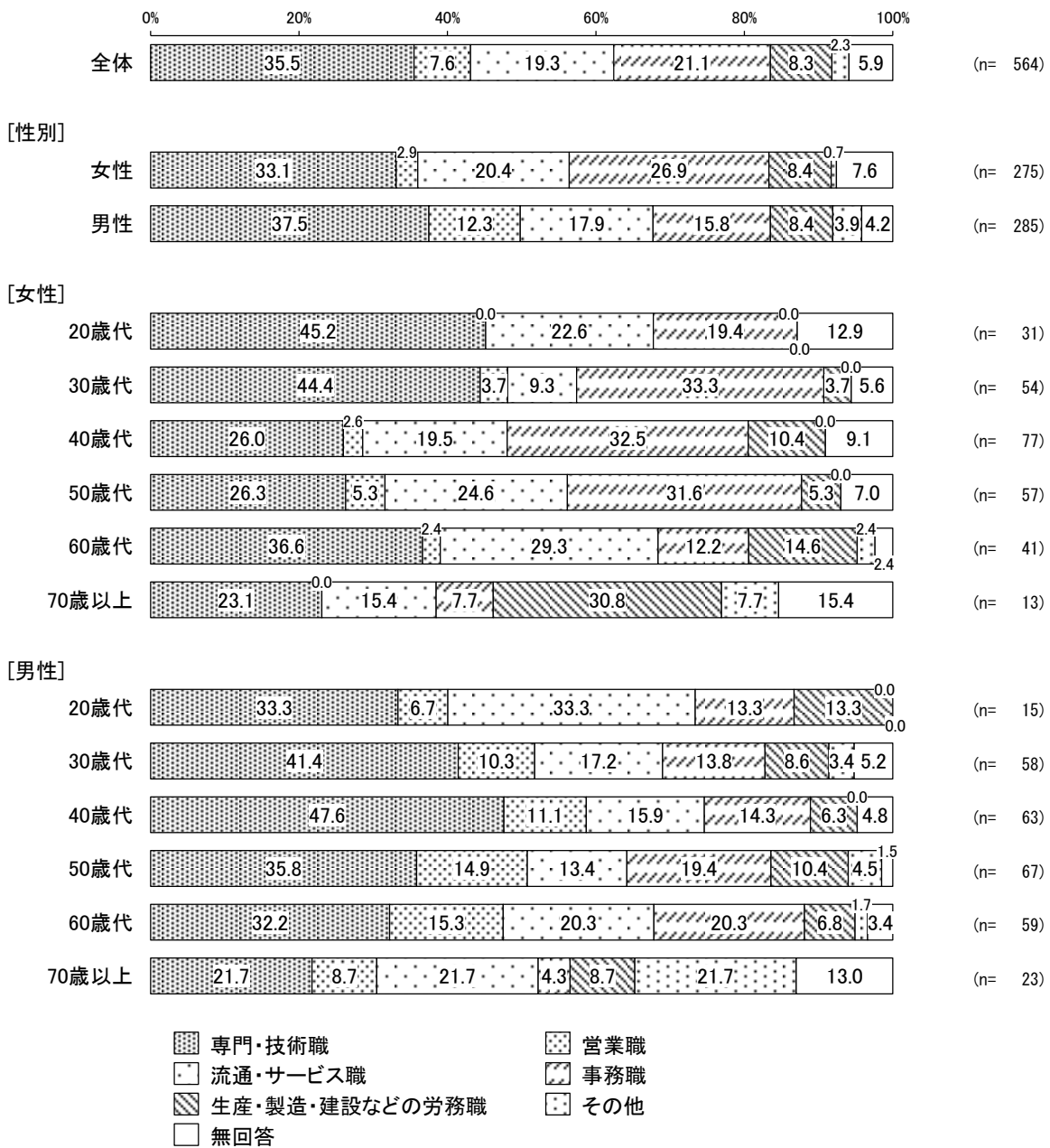
(9) 職種

働いている人の職種は、「専門・技術職」が35.5%、「事務職」が21.1%、「流通・サービス職」が19.3%となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「事務職」の割合が高く、男性は女性よりも「専門・技術職」と「営業職」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、女性の20・30歳代は「専門・技術職」の割合が最も高くなっているが、40・50歳代では「事務職」の割合が最も高い。

図 性別、性年齢別 職種



(10) 配偶者・パートナーの就労状態

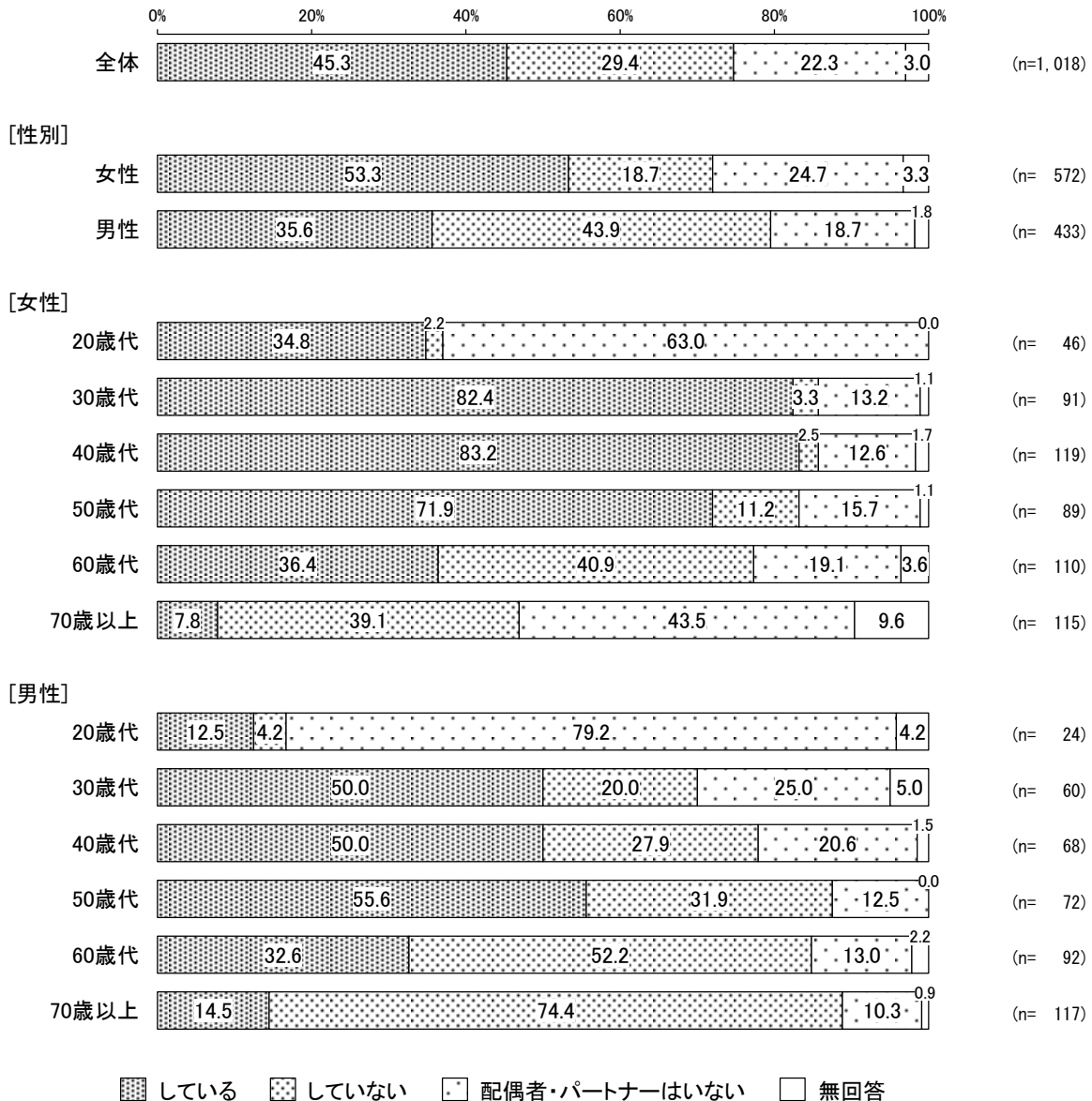
配偶者（パートナーを含む）の就労状態は、「している」が45.3%、「していない」が29.4%、「配偶者・パートナーはいない」が22.3%となっている。

性別にみると、「している」の割合は、女性の配偶者で53.3%、男性の配偶者で35.6%となっている。

年齢別にみると、20～40歳代の女性の配偶者は「していない」の割合が5%未満と低くなっている。

30～50歳代の男性の配偶者は「している」が5割台となっている。

図 性別、性年齢別 配偶者・パートナーの就労状態





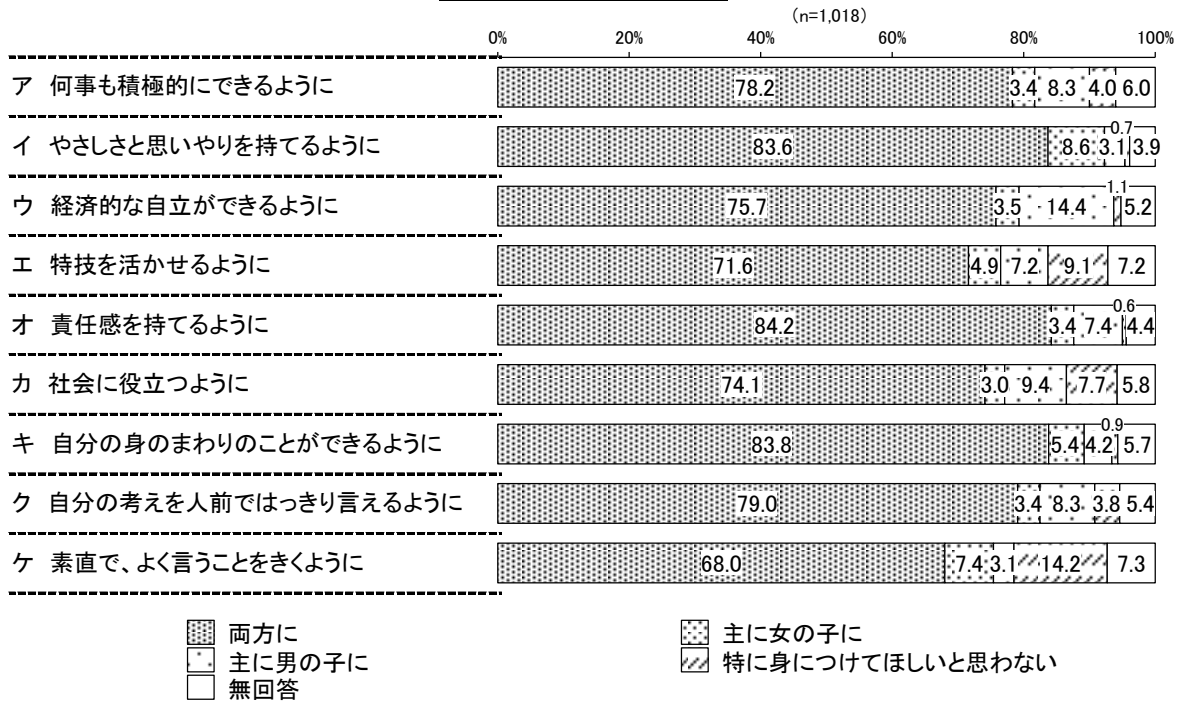
## II 子育てや学校教育について

### (1) 希望する子どもの育ち方

問1 あなたは、子どもにどのように育ててほしいですか（ほしかったですか。）子どものいない方も、仮にしていると想定してお答えください。（○はそれぞれ1つ）

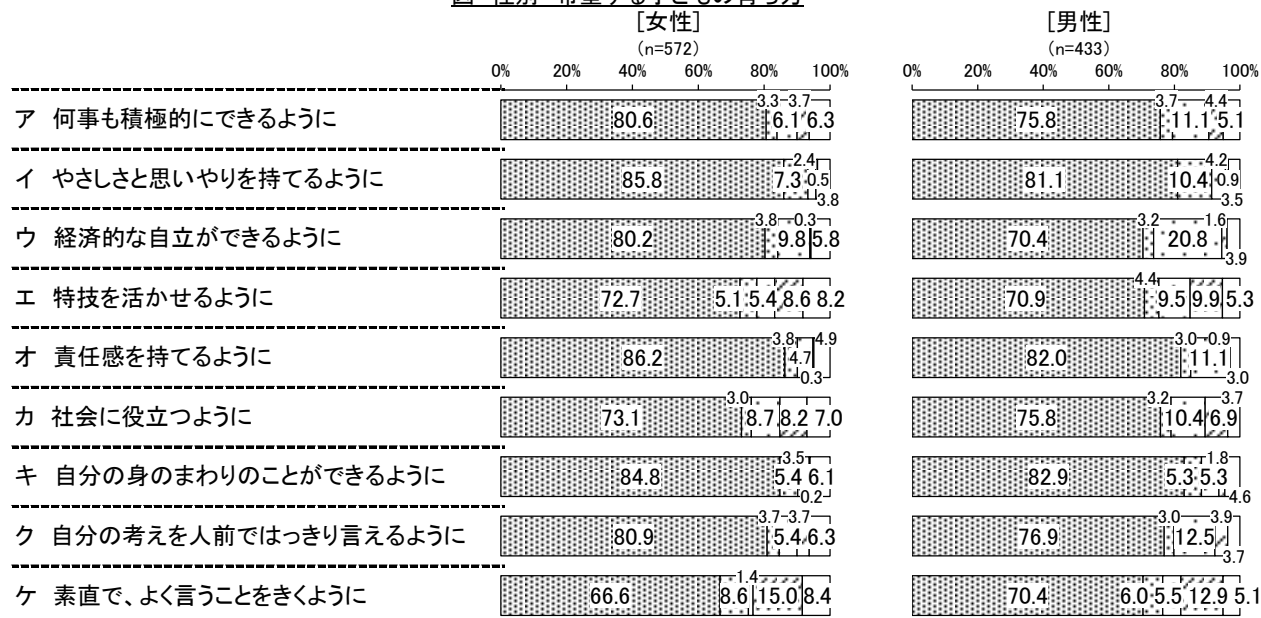
子どもにどのように育ててほしいかたずねたところ、どの項目でも「両方に」の割合が高くなっているが、「ウ 経済的な自立ができるように」「カ 社会に役立つように」「ア 何事も積極的にできるように」「ク 自分の考えを人前ではっきり言えるように」などの項目に対しては「主に男の子に」、「イ やさしさと思いやりを持てるように」などの項目に対しては「主に女の子に」の割合がやや高くなっている。

図 希望する子どもの育ち方



性別にみると、「ウ 経済的な自立ができるように」は「両方に」が女性80.2%・男性70.4%、「主に男の子に」が女性9.8%・男性20.8%となっており、男性では「主に男の子に」期待する割合が女性よりも約10ポイント高い。

図 性別 希望する子どもの育ち方



両方に  
 主に男の子に  
 無回答  
 主に女の子に  
 特に身につけてほしいと思わない

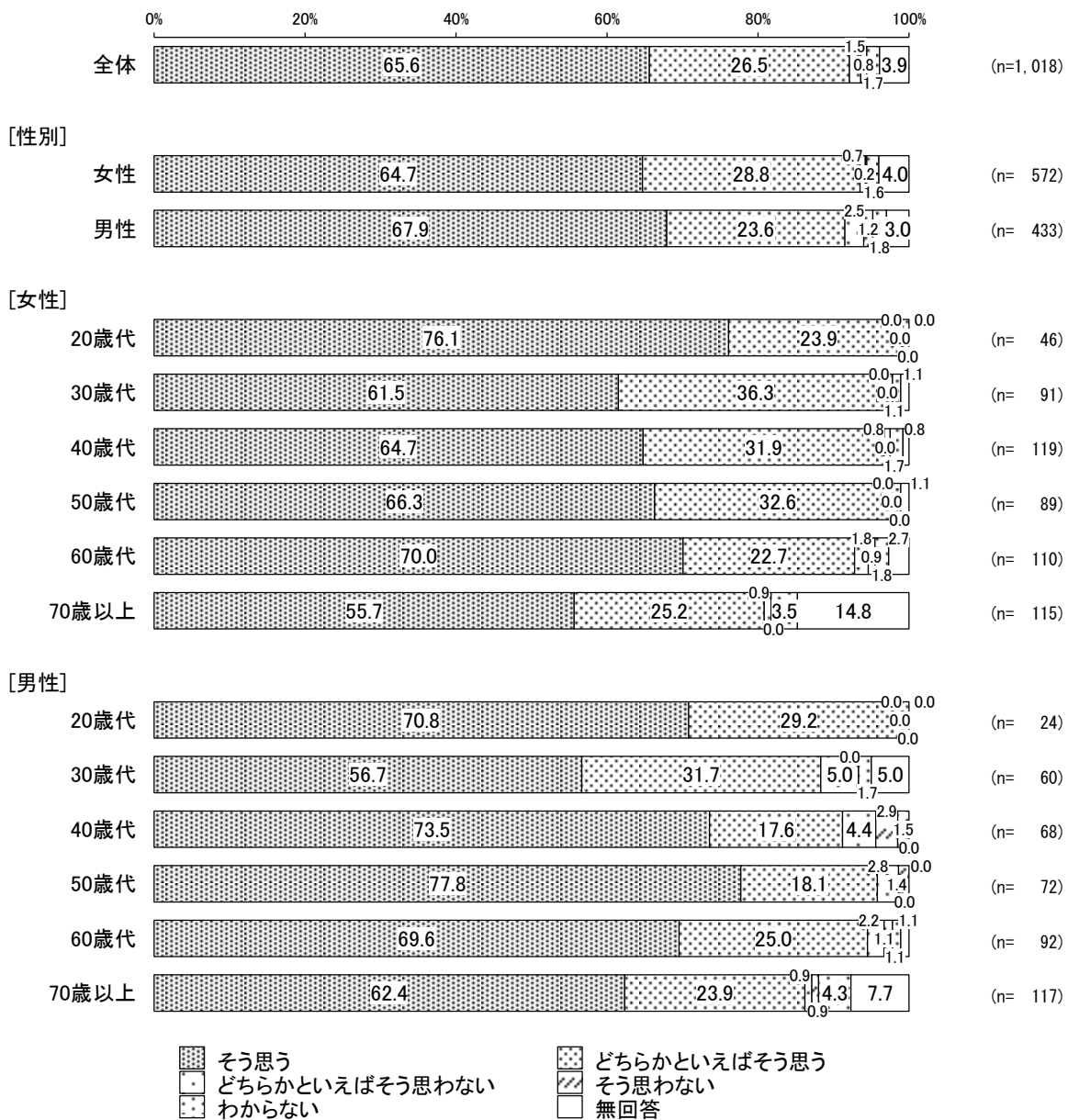
(2)子育てについての考え方

問2 子育てについて、あなたの考え方に近いものはどれですか。子どものいない方も、仮にいと想定してお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

子育てについての考え方についてたずねたところ、「ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい」という考え方については、「そう思う」が65.6%、「どちらかといえばそう思う」が26.5%となっており、『賛成』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が回答者の多くを占めている。

性別にみると、「そう思う」の割合は女性64.7%・男性67.9%となっており、男性の方がやや割合が高い。  
年齢別にみると、女性の30～50歳代と、男性の30歳代では「どちらかといえばそう思う」が3割を超えている。

図 性別、性年齢別 子育てについての考え方 (ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい)

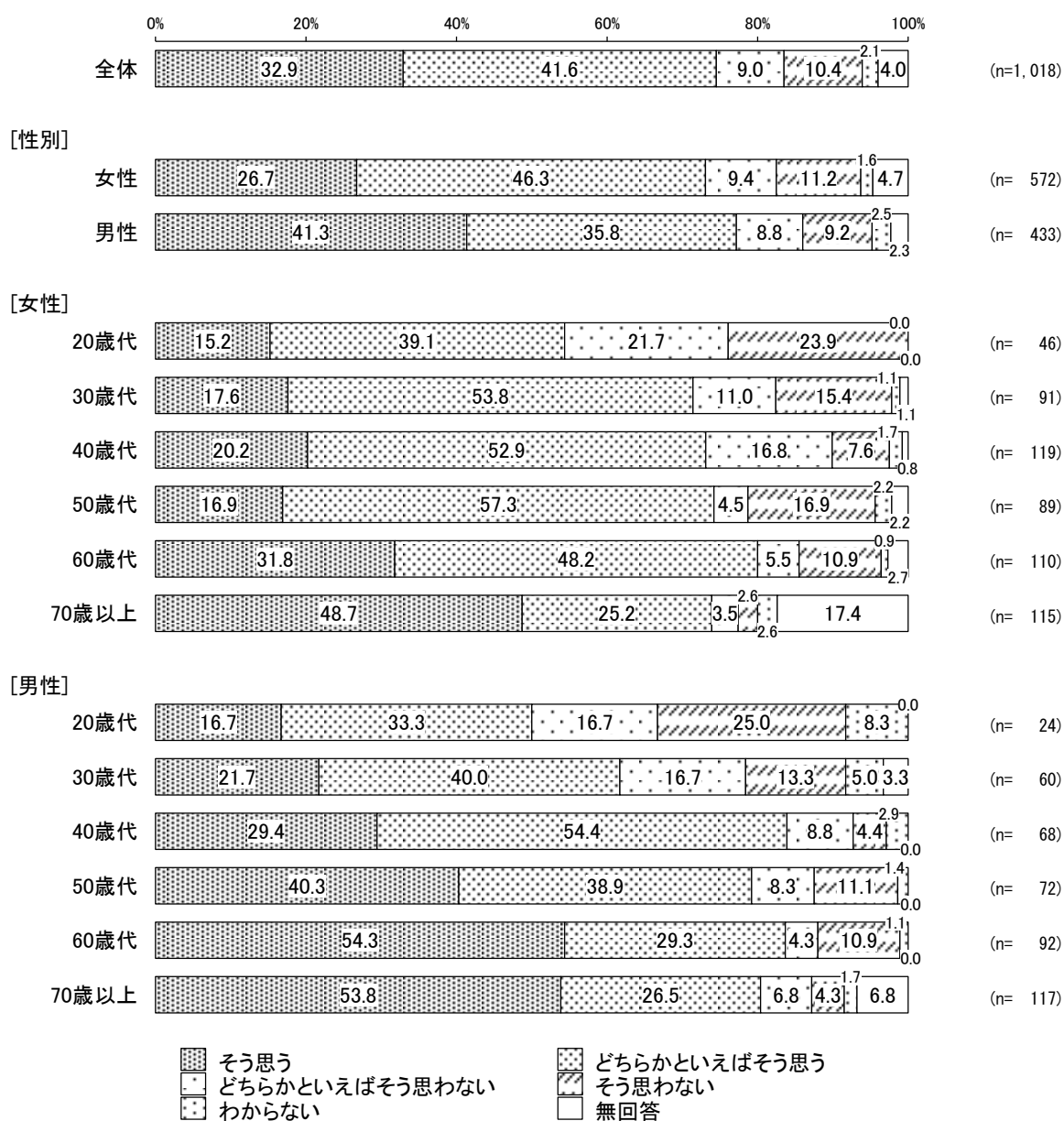


「イ 言葉使いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつめるのがよい」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が41.6%で最も高く、次いで「そう思う」が32.9%となっており、『賛成』が74.5%を占めている。対して『反対』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は19.4%となっている。

性別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」（46.3%）、男性では「そう思う」（41.3%）の割合が最も高くなっている。

年齢別にみると、20歳代の男女では『反対』が4割台と比較的高くなっているが、年代が高くなるにつれて『賛成』の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上の女性と60歳以上の男性では「そう思う」が約5割となっている。

図 性別、性年齢別 子育てについての考え方  
(イ 言葉使いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつめるのがよい)

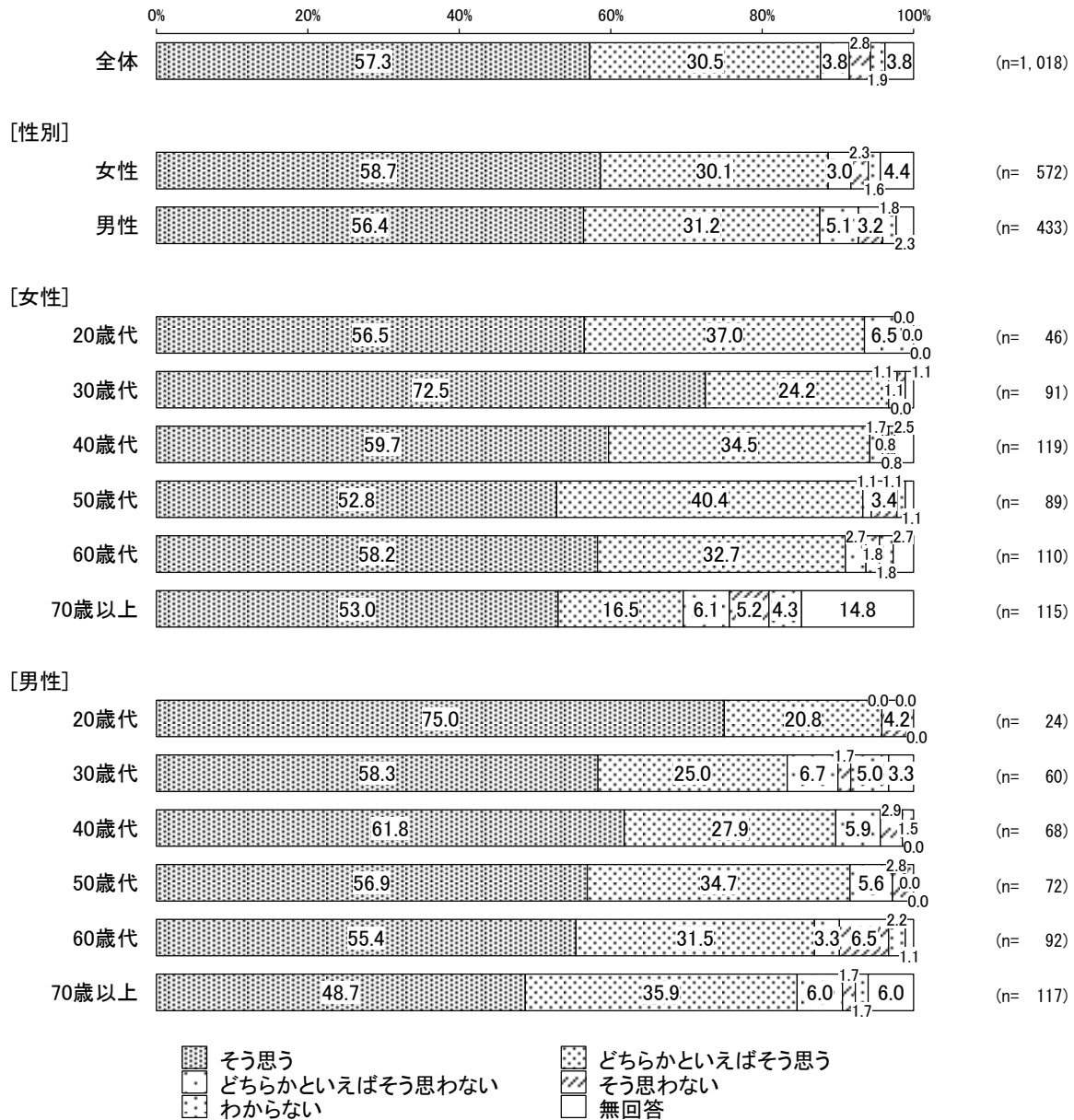


「ウ 親の生き方や考え方が、子どもに与える影響は大きい」という考え方については、「そう思う」が57.3%、「どちらかといえばそう思う」が30.5%を占め、『賛成』が87.8%となっている。

性別による意識の違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、女性の30歳代と、男性の20歳代では「そう思う」が7割を超えている。

図 性別、性年齢別 子育てについての考え方（ウ 親の生き方や考え方が、子どもに与える影響は大きい）

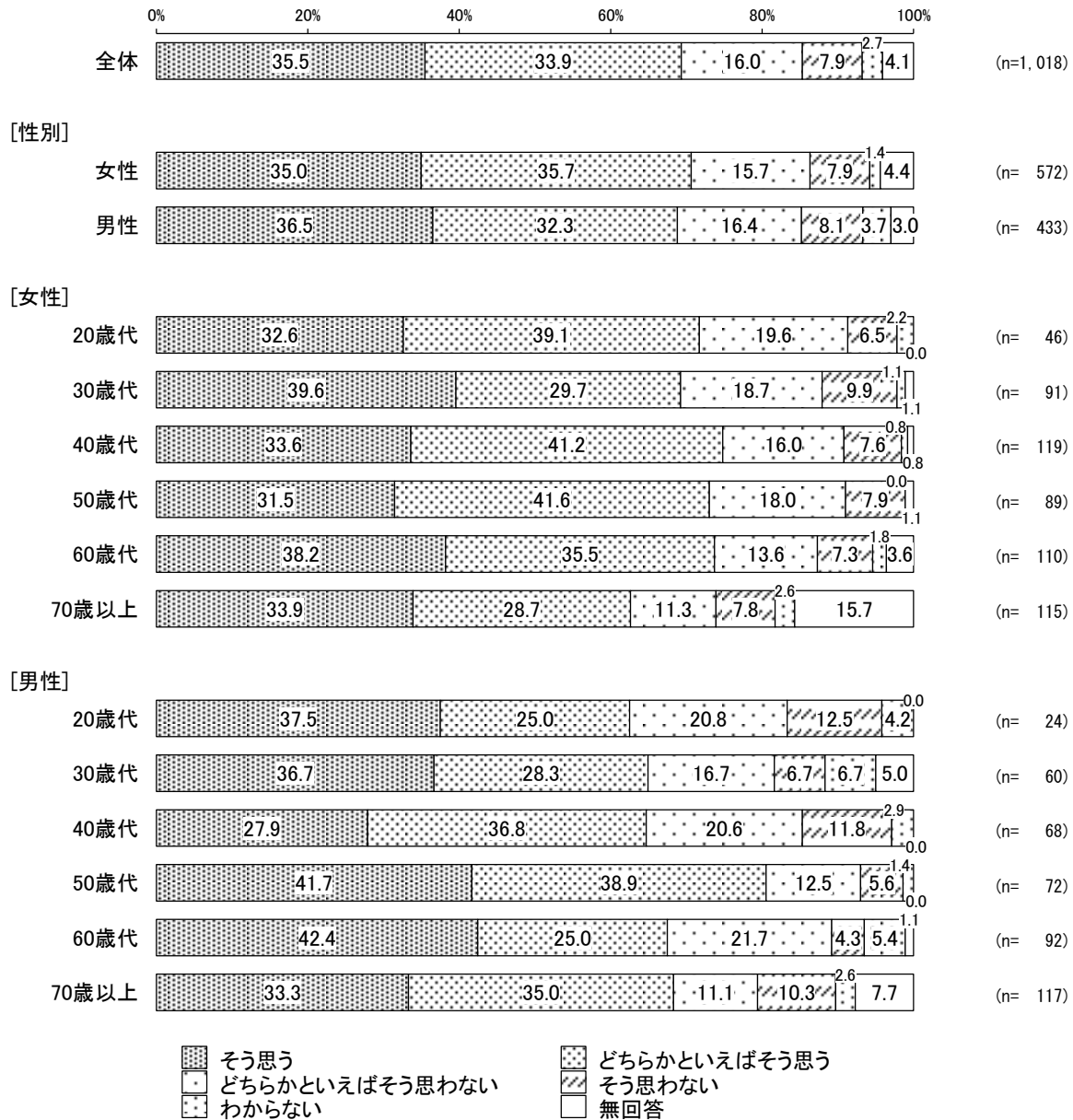


「エ 子どもの世話の大部分は、男性でも女性でもできる」という考え方については、『賛成』が69.4%、『反対』が23.9%となっている。

性別による意識の違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、「そう思う」の割合はいずれの年代でも3～4割程度を占めている。

図 性別、性年齢別 子育てについての考え方（エ 子どもの世話の大部分は、男性でも女性でもできる）



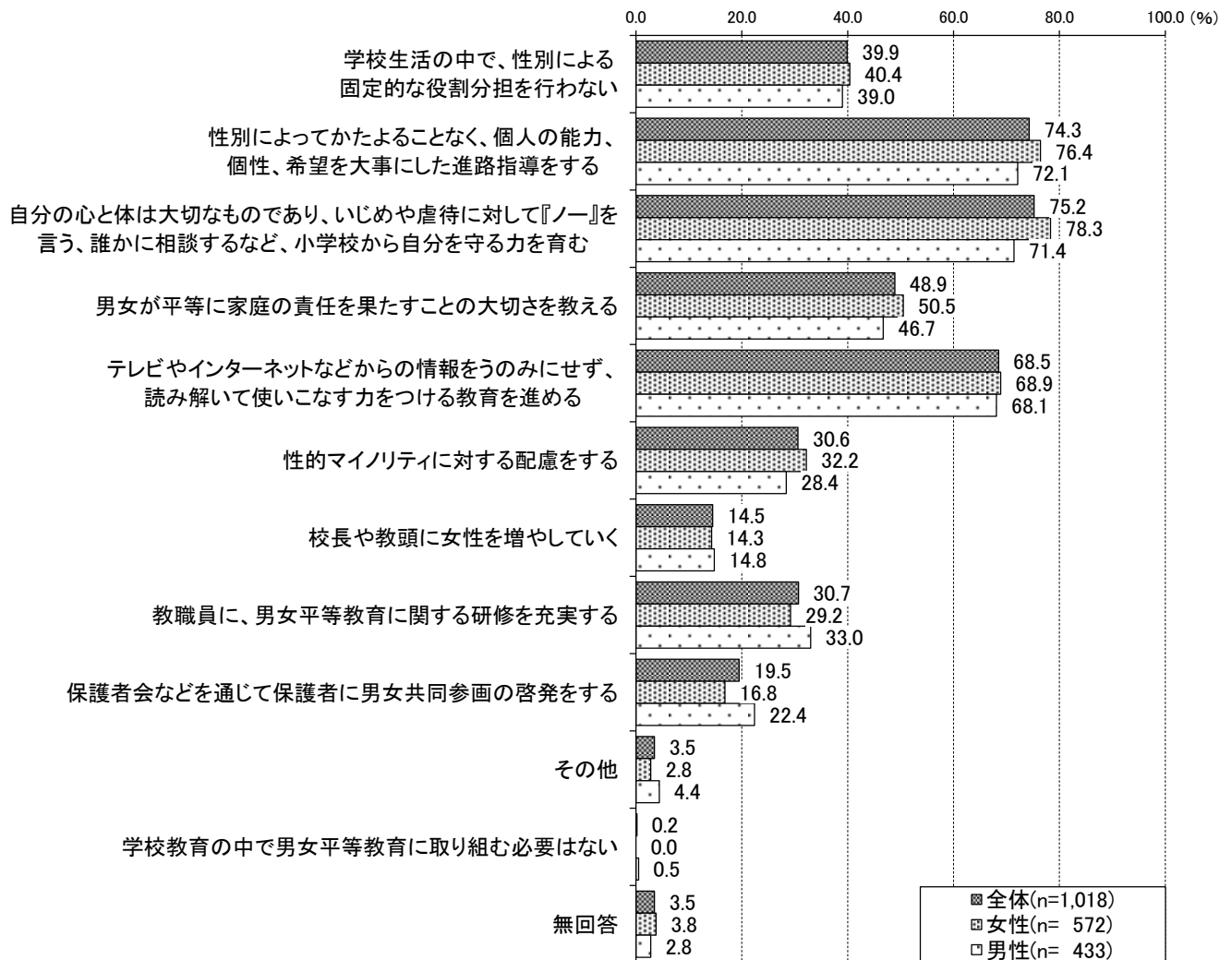
(3) 学校で男女平等を進めるうえで重要な取組

問3 茨木市の小・中学校では、男女平等を進めるために以下のような取組をしています。その中で、あなたが重要だと思われる取組はどれですか。(〇はいくつでも)

学校で男女平等を進めるうえで重要な取組についてたずねたところ、「自分の心と体は大切なものであり、いじめや虐待に対して『ノー』を言う、誰かに相談するなど、小学校から自分を守る力を育む」(75.2%)、「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」(74.3%)、「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、読み解いて使いこなす力をつける教育を進める」(68.5%)の3項目の割合が特に高くなっている。

性別にみると、「自分の心と体は大切なものであり、いじめや虐待に対して『ノー』を言う、誰かに相談するなど、小学校から自分を守る力を育む」と「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」の割合は女性で特に高くなっている。

図 性別 学校で男女平等を進めるうえで重要な取組



年齢別にみると、20・30歳代の男女では「性的マイノリティに対する配慮をする」の割合が他の年代よりも高く、女性の20歳代では5割を超えている。

表 性年齢別 学校で男女平等を進めるうえで重要な取組

	対象者数（n）	学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない	性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする	虐待に対して『ノー』を言う、誰かに相談するなど、小学校から自分を守る力を育む	自分の心と体は大切なものであり、いじめや差別など、小学校から自分を守る力を育む	男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える	テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、読み解いて使いこなす力をつける教育を進める	性的マイノリティに対する配慮をする	校長や教頭に女性を増やしていく	教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する	保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓発をする	その他	学校教育の中で男女平等教育に取り組む必要はない	無回答
全体	1,018	39.9	74.3	75.2	48.9	68.5	30.6	14.5	30.7	19.5	3.5	0.2	3.5	
女性	20歳代	46	<b>52.2</b>	73.9	<b>80.4</b>	43.5	69.6	<b>54.3</b>	21.7	23.9	19.6	2.2	-	-
	30歳代	91	46.2	79.1	75.8	44.0	74.7	38.5	13.2	24.2	8.8	4.4	-	1.1
	40歳代	119	35.3	78.2	79.0	45.4	68.9	32.8	8.4	20.2	12.6	3.4	-	0.8
	50歳代	89	46.1	<b>82.0</b>	79.8	55.1	75.3	32.6	15.7	34.8	16.9	2.2	-	1.1
	60歳代	110	46.4	79.1	<b>84.5</b>	54.5	71.8	32.7	15.5	<b>37.3</b>	22.7	3.6	-	3.6
	70歳以上	115	25.2	66.1	71.3	56.5	55.7	16.5	15.7	33.0	20.9	0.9	-	<b>13.0</b>
男性	20歳代	24	37.5	70.8	<b>83.3</b>	33.3	<b>83.3</b>	<b>41.7</b>	8.3	<b>37.5</b>	12.5	-	-	-
	30歳代	60	40.0	70.0	60.0	45.0	68.3	<b>41.7</b>	15.0	30.0	18.3	3.3	1.7	3.3
	40歳代	68	38.2	73.5	63.2	41.2	69.1	26.5	7.4	19.1	8.8	2.9	1.5	-
	50歳代	72	43.1	70.8	79.2	47.2	<b>73.6</b>	33.3	19.4	<b>36.1</b>	23.6	5.6	-	1.4
	60歳代	92	39.1	72.8	69.6	51.1	60.9	26.1	14.1	34.8	<b>28.3</b>	7.6	-	1.1
	70歳以上	117	36.8	72.6	76.1	49.6	66.7	18.8	17.9	<b>38.5</b>	29.1	3.4	-	6.8

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。



### Ⅲ 家庭生活、仕事、社会活動、介護などについて

#### (1) 仕事・家事時間

問4 1日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事（育児や介護を含む）に要する平均時間はどのくらいですか。（○は平日・休日それぞれ1つ）

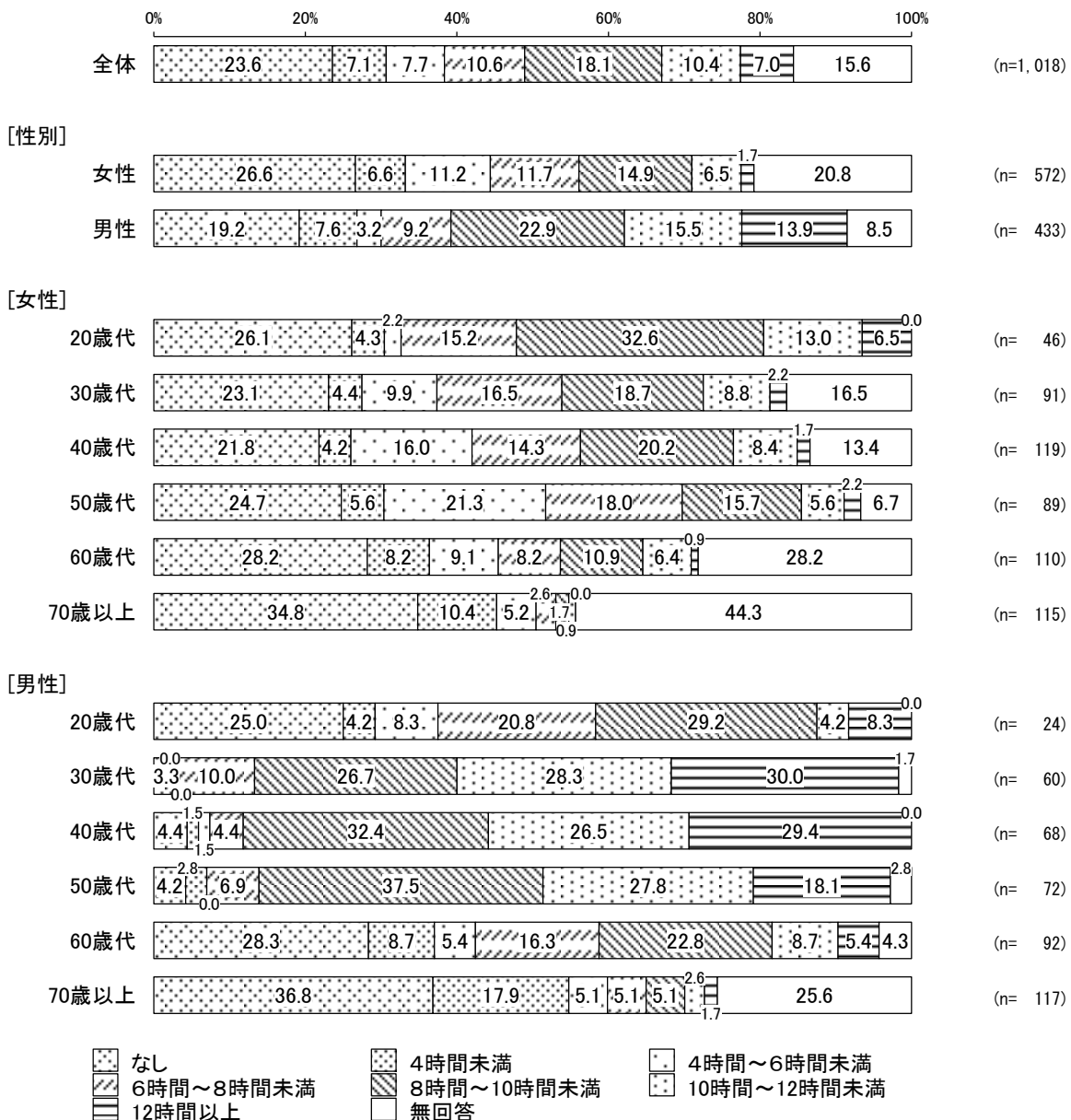
仕事の時間（通勤時間を含む）についてたずねたところ、「なし」の割合が23.6%で最も高く、働いている人の中では「8時間～10時間未満」の割合が最も高くなっている。

性別にみると、女性では「4時間～6時間未満」「6時間～8時間未満」「8時間～10時間未満」の割合がそれぞれ1割を超えている。男性は「8時間～10時間未満」が22.9%で最も高く、また「10時間～12時間未満」「12時間以上」が1割を超えている。

年齢別にみると、女性の20歳代は「8時間～10時間未満」が32.6%となっている。女性の30～50歳代は20歳代と比べて「4時間～6時間未満」の割合が高くなっている。

男性の30～50歳代では8時間以上の合計が8割を超えている。

図 性別、性年齢別 仕事・家事時間（仕事の時間）



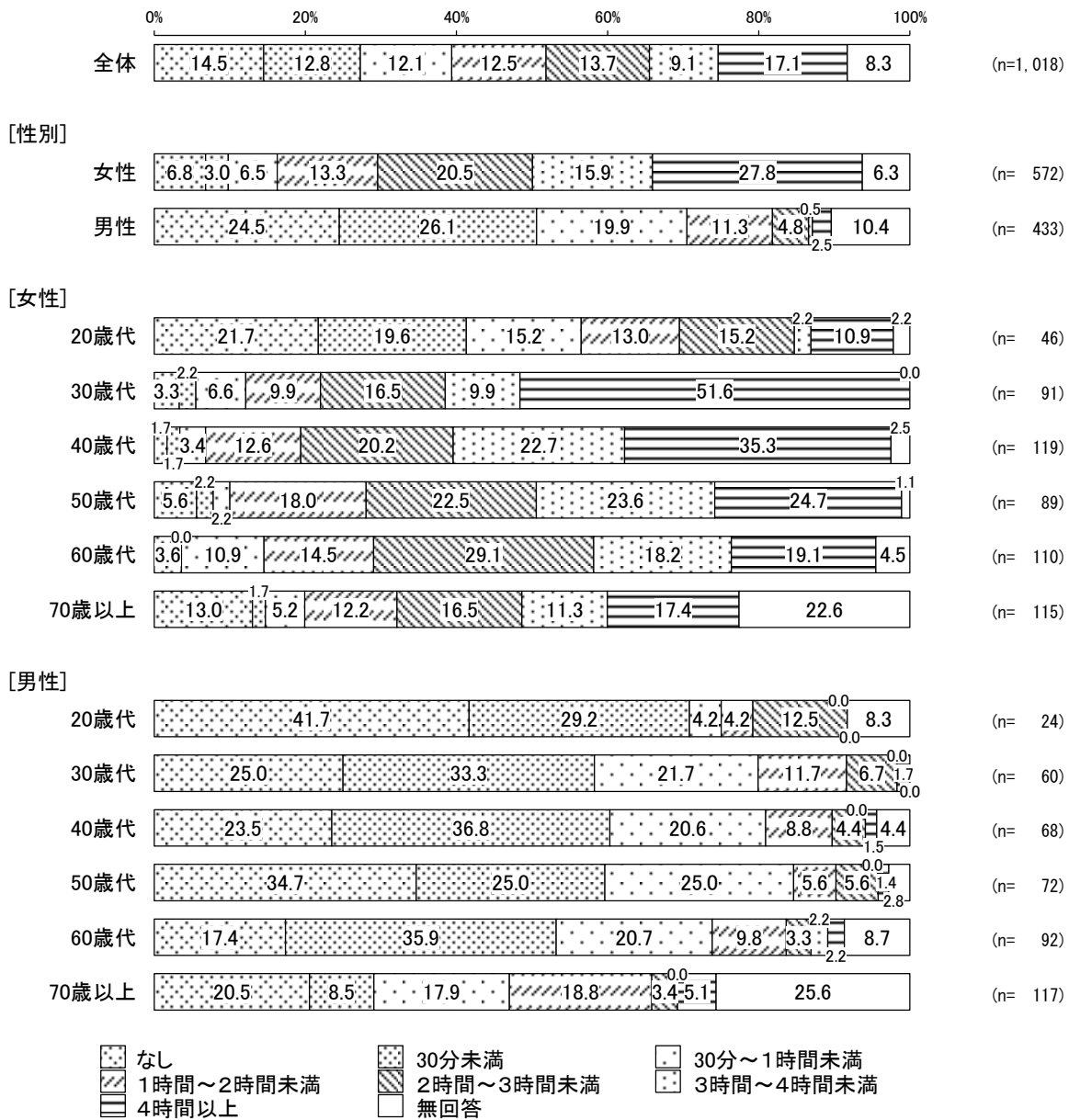
平日の家事時間(育児・介護を含む)については、「4時間以上」が17.1%で最も高く、次いで「なし」が14.5%となっている。

性別にみると、女性は「4時間以上」が27.8%で最も高く、次いで「2時間～3時間未満」(20.5%)、「3時間～4時間未満」(15.9%)の順番となっており、2時間以上家事をする人が64.2%となっている。一方男性は、「30分未満」が26.1%で最も高く、次いで「なし」(24.5%)、「30分～1時間未満」(19.9%)の順番となっており、1時間未満の人が70.5%となっている。

年齢別にみると、女性では、20歳代は他の年代と比べて家事時間が短い傾向がみられる。女性の30・40歳代は「4時間以上」がそれぞれ51.6%・35.3%と高くなっている。

男性の20～60歳代ではいずれも1時間未満の人が7～8割前後をしめている。

図 性別、性年齢別 仕事・家事時間(家事(育児・介護を含む)時間—平日)



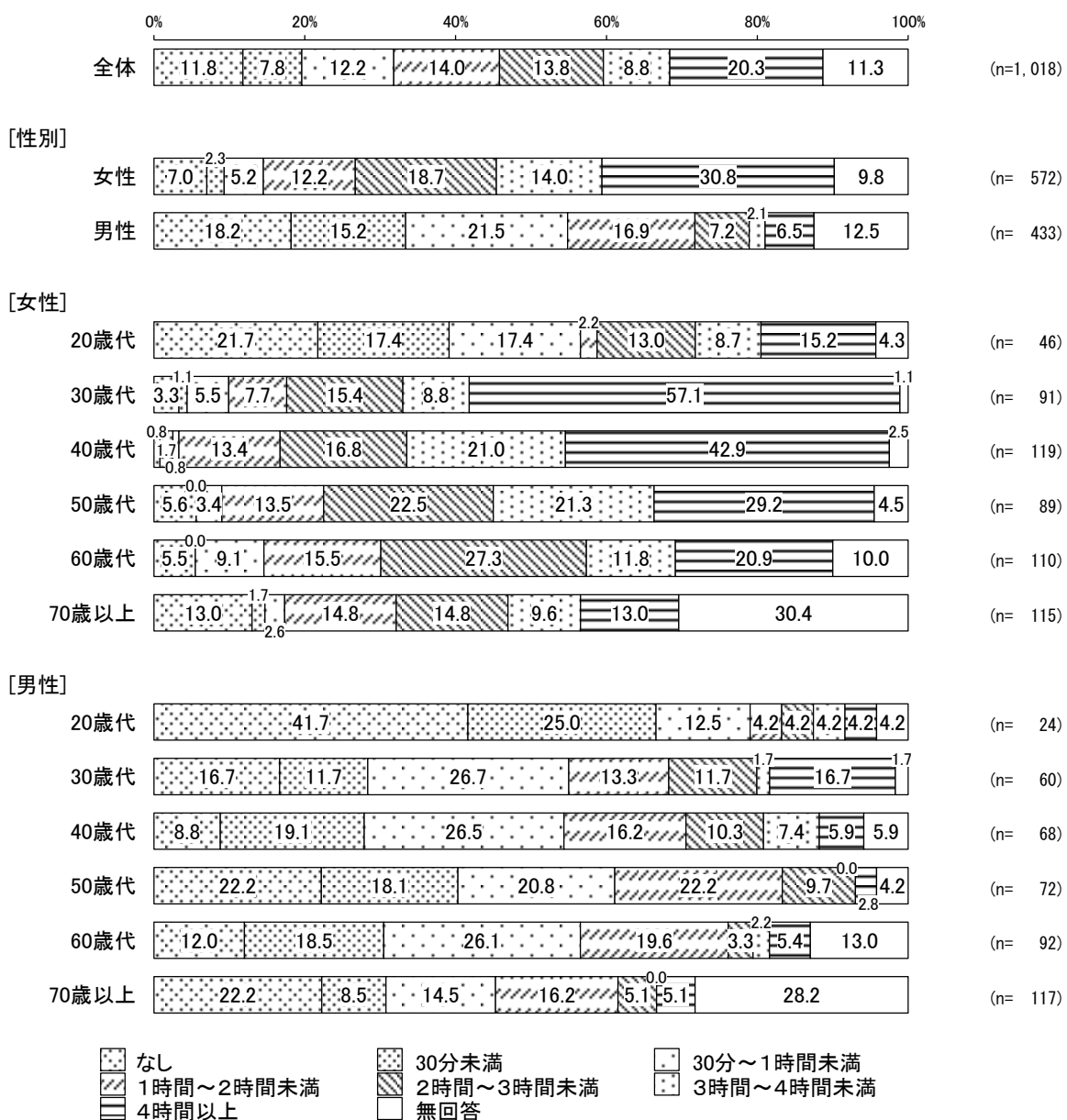
休日の家事時間(育児・介護を含む)については、「4時間以上」が20.3%で最も高く、「なし」「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」「2時間～3時間未満」がいずれも1割台となっている。

性別にみると、女性は2時間以上家事をする人が63.5%、男性では1時間未満の人が54.9%を占めている。平日と比較すると、女性は平日との違いが小さくなっているが、男性は「なし」と「30分未満」の割合が平日より低くなっている。

年齢別にみると、女性の20歳代は1時間未満の人が56.5%、30歳代と40歳代は「4時間以上」がそれぞれ57.1%、42.9%となっている。

男性はいずれの年代でも2時間未満の人が6割以上を占めている。20歳代は「なし」と「30分未満」の合計のみで66.7%となっている。

図 性別、性年齢別 仕事・家事時間(家事(育児・介護を含む)時間-休日)



(2)生活の中で優先したいこと、していること

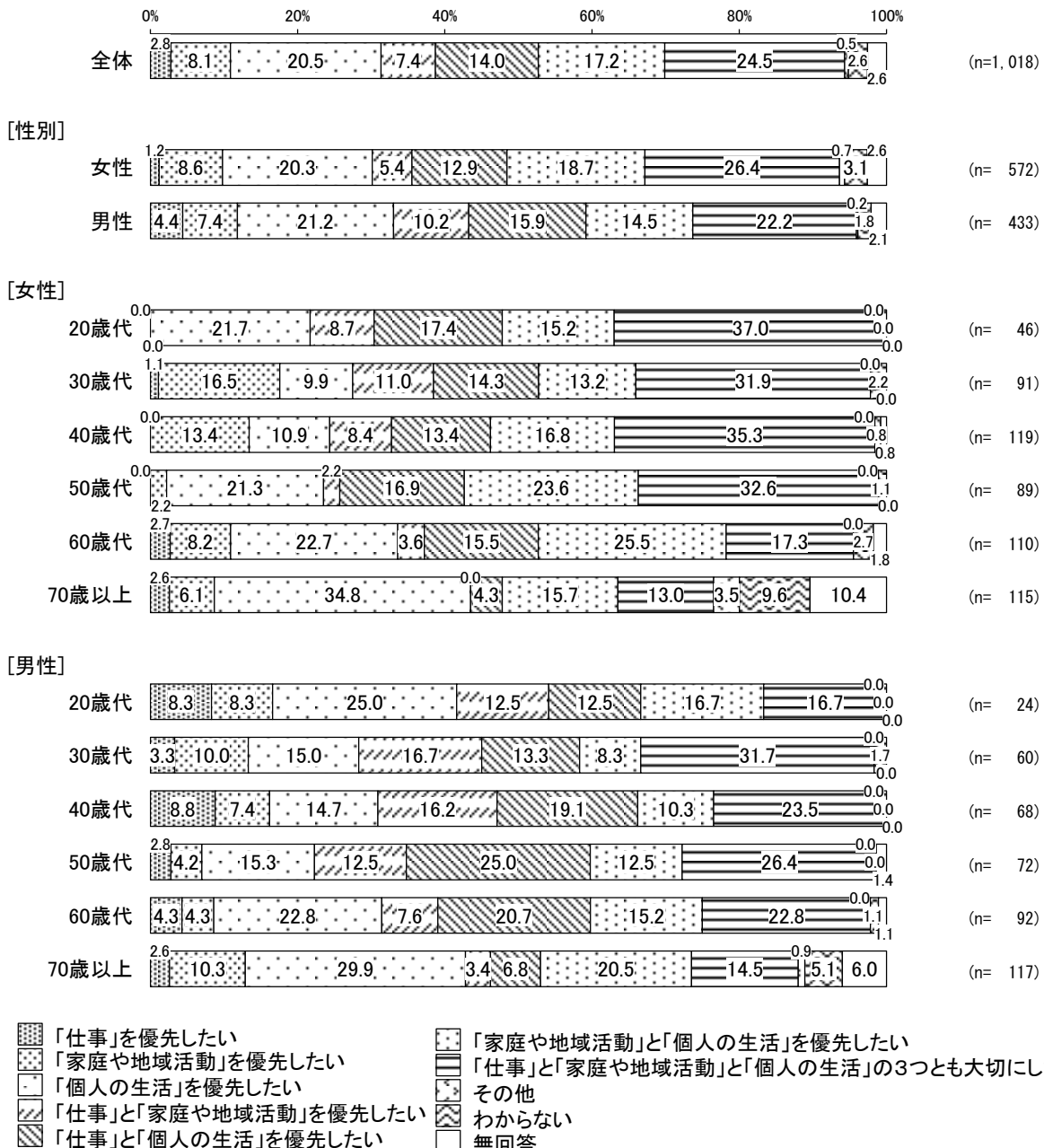
問5 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

生活の中で優先したいことは、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい」が24.5%で最も高く、次いで「『個人の生活』を優先したい」が20.5%、「『家庭や地域活動』と『個人の生活』を優先したい」が17.2%となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい」と「『家庭や地域活動』と『個人の生活』を優先したい」、男性は女性よりも「『仕事』と『家庭や地域活動』を優先したい」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、女性は20～50歳代では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい」、60歳代では「『家庭や地域活動』と『個人の生活』を優先したい」、70歳以上では「『個人の生活』を優先したい」の割合が最も高くなっている。

図 性別、性年齢別 生活の中で優先したいこと、していること（希望）



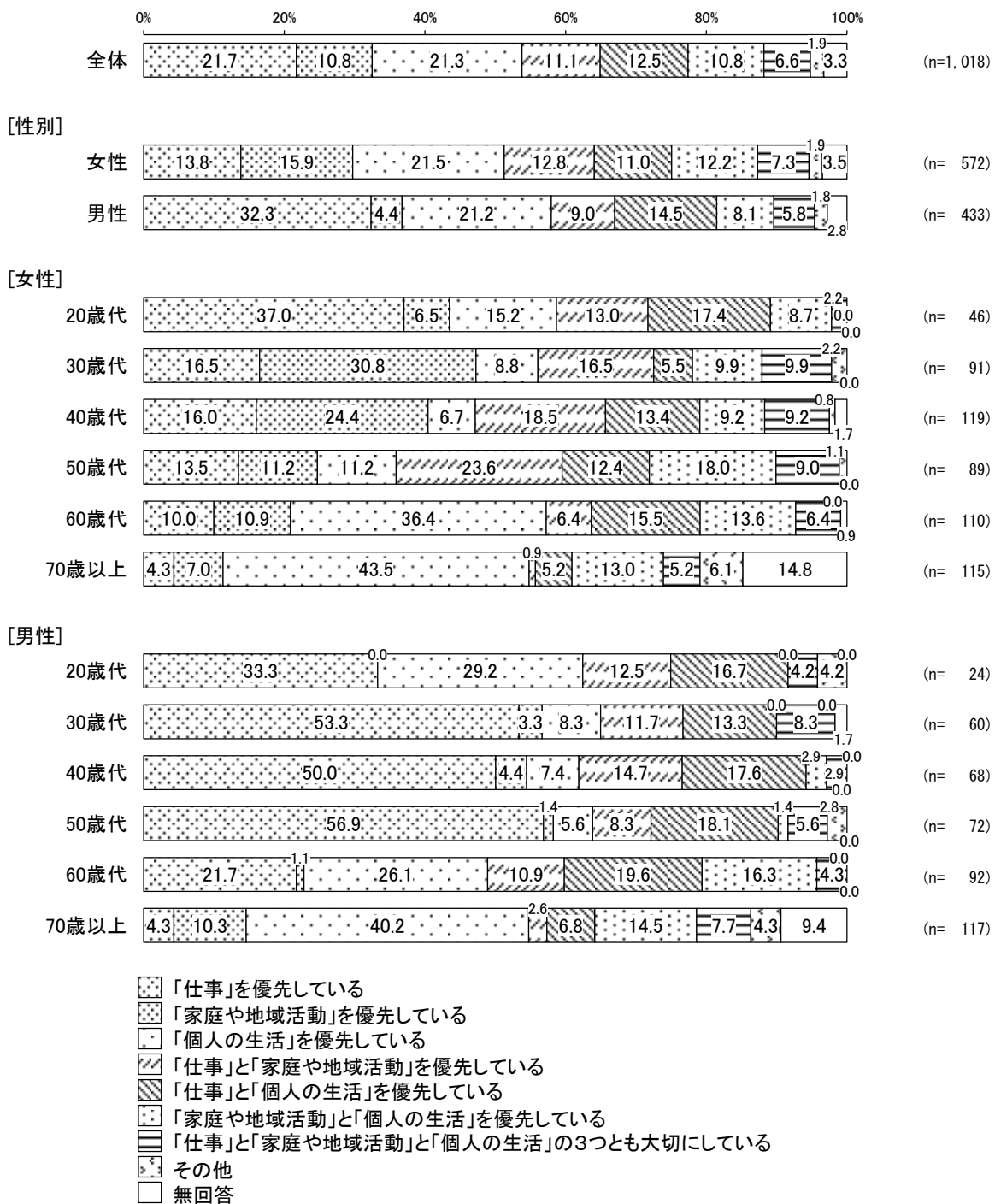
現実の生活で優先していることは、「『仕事』を優先している」が最も高く、次いで「『個人の生活』を優先している」が21.3%、「『仕事』と『個人の生活』を優先している」が12.5%となっている。

性別にみると、女性では「『個人の生活』を優先している」の21.5%、男性は「『仕事』を優先している」の32.3%が最も高くなっている。

年齢別にみると、女性の20歳代は「『仕事』を優先している」、30・40歳代は「『家庭や地域活動』を優先している」、50歳代は「『仕事』と『家庭や地域活動』を優先している」、60歳代と70歳以上では「『個人の生活』を優先している」の割合が最も高くなっている。

男性では、20～50歳代は「『仕事』を優先している」、60歳代と70歳以上では「『個人の生活』を優先している」の割合が最も高くなっている。

図 性別、性年齢別 生活の中で優先したいこと、していること（現実）



### (3)仕事の有無

問6 あなたは、現在、収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

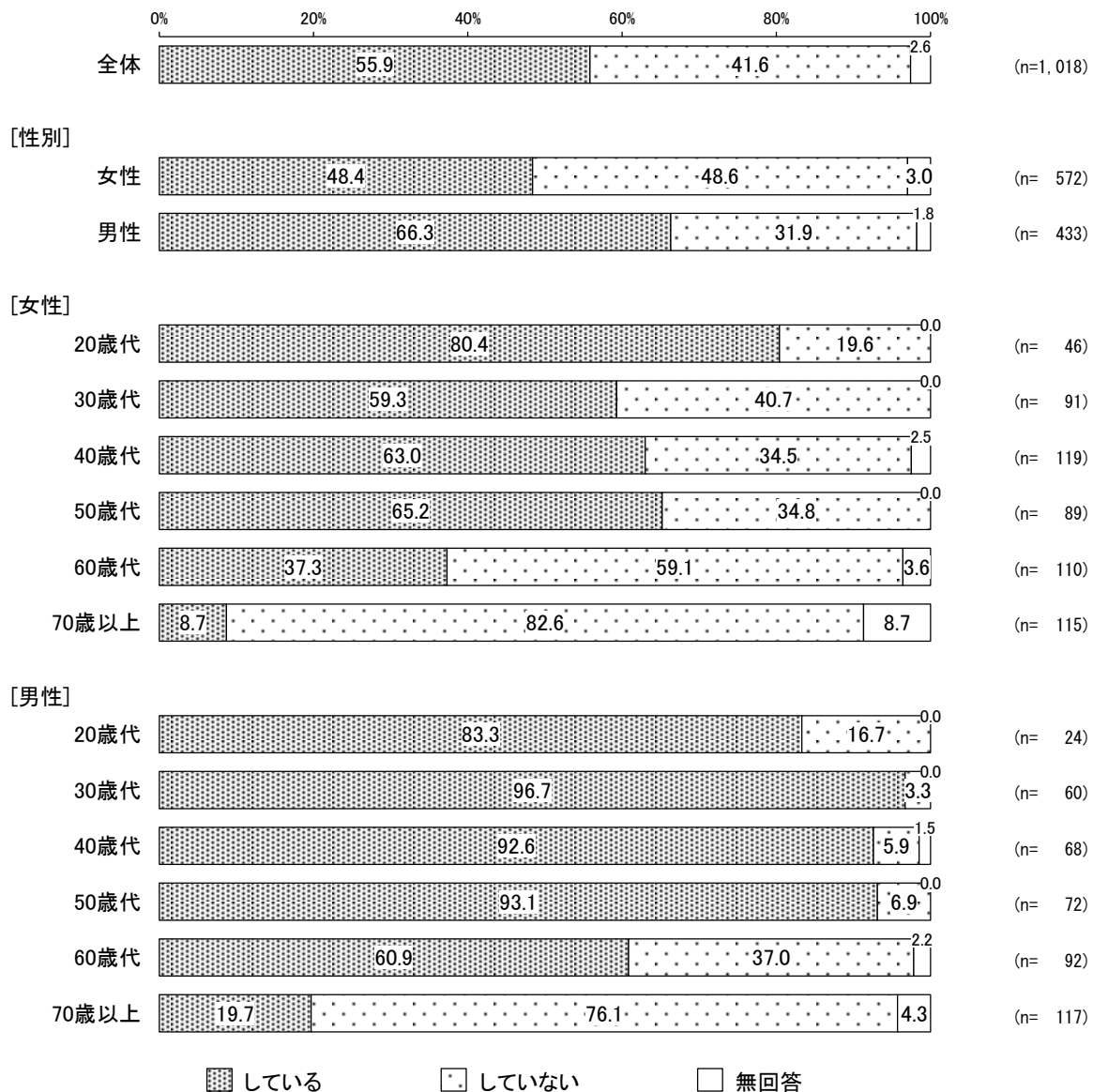
仕事の有無については、「している」が55.9%、「していない」が41.6%となっている。

性別にみると、「している」は女性で48.4%、男性では66.3%となっており、男性の方が17.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性の「している」の割合は、20歳代では80.4%となっているが、30～50歳代では、5～6割台となっている。

男性では、30～50歳代は「している」が9割を超えている。

図 性別、性年齢別 仕事の有無



(4)職場において男女格差を感じること

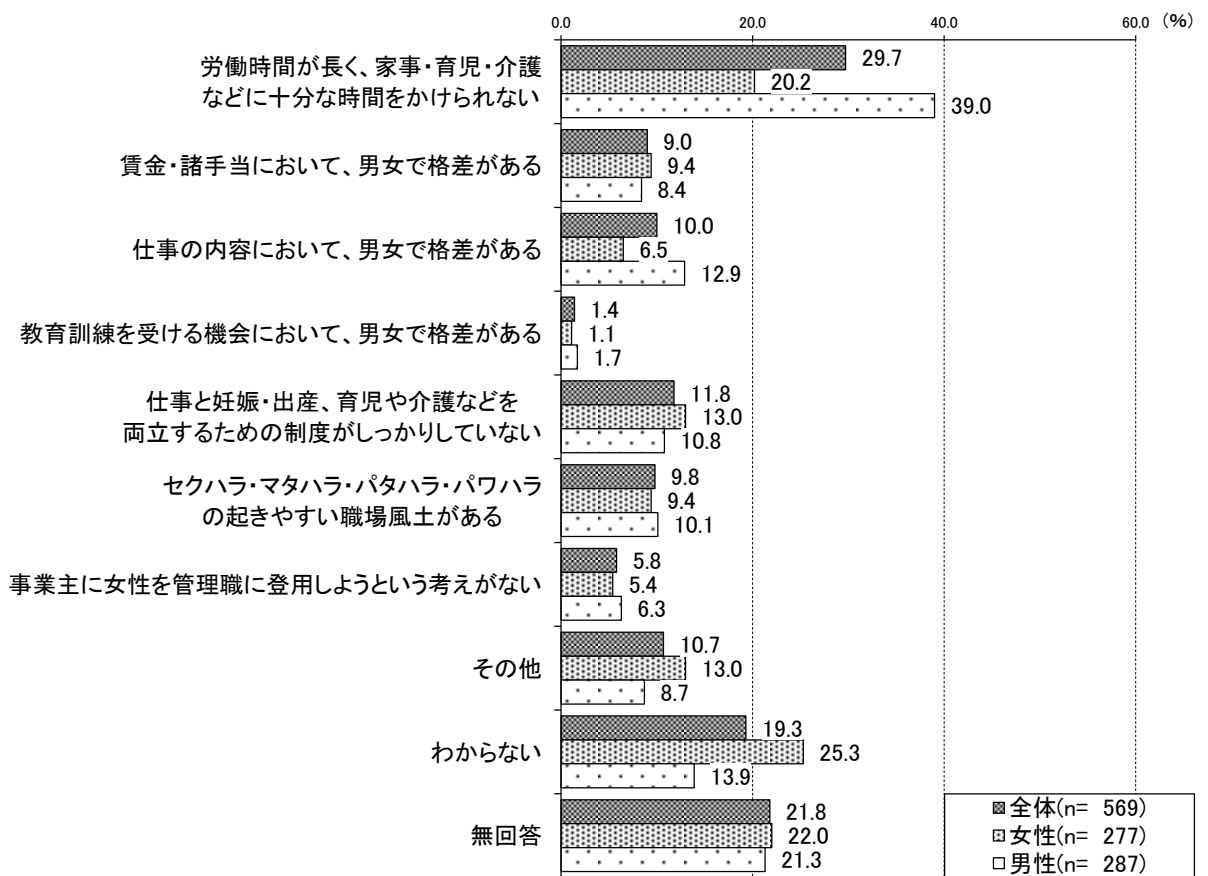
《問6で「1. している」と答えた方におたずねします。》

問6-1 あなたの今の職場では、以下のようなことはありますか。当てはまるものに○をしてください。(○はいくつでも)

現在働いている人に、職場において男女格差を感じることをたずねたところ、「労働時間が長く、家事・育児・介護などに十分な時間をかけられない」が29.7%で最も高く、次いで「仕事と妊娠・出産、育児や介護などを両立するための制度がしっかりしていない」が11.8%、「仕事の内容において、男女で格差がある」が10.0%となっている。

性別にみると、男性では「労働時間が長く、家事・育児・介護などに十分な時間をかけられない」が39.0%と高く、女性の20.2%よりも18.8ポイント高くなっている。

図 性別 職場において男女格差を感じること



年齢別にみると、女性では年齢が高い層では「仕事の内容において、男女で格差がある」、年齢が低い層では「労働時間が長く、家事・育児・介護などに十分な時間をかけられない」「仕事と妊娠・出産、育児や介護などを両立するための制度がしっかりしていない」の割合が高くなる傾向がある。

男性は、30～50歳代で「労働時間が長く、家事・育児・介護などに十分な時間をかけられない」が特に高くなっている。

表 性年齢別 職場において男女格差を感じる事

	対象者数 (n)	育児・時間をかけられない	労働時間が長く、家事・	賃金・諸手当において、	仕事の内容において、	教育訓練を受け格差機会	介護など妊娠・出産、育児や	仕事と妊娠・出産、育児や	起きやすい職場風土がある	セクハラ・パワハラ・	パタハラ・	ない	登用しにくい	事業主に女性を管理職に	その他	わからない	無回答
全体	569	29.7	9.0	10.0	1.4	11.8	9.8	5.8	10.7	19.3	21.8						
女性																	
20歳代	37	24.3	-	-	-	24.3	10.8	5.4	13.5	40.5	10.8						
30歳代	54	31.5	7.4	3.7	-	18.5	9.3	1.9	5.6	18.5	20.4						
40歳代	75	21.3	13.3	9.3	1.3	9.3	14.7	9.3	9.3	26.7	22.7						
50歳代	58	13.8	12.1	5.2	-	10.3	6.9	3.4	20.7	20.7	24.1						
60歳代	41	12.2	12.2	12.2	4.9	9.8	4.9	7.3	17.1	19.5	29.3						
70歳以上	10	-	-	10.0	-	-	-	-	20.0	50.0	20.0						
男性																	
20歳代	20	20.0	5.0	15.0	-	5.0	15.0	10.0	5.0	20.0	25.0						
30歳代	58	53.4	6.9	12.1	1.7	20.7	10.3	5.2	10.3	10.3	13.8						
40歳代	63	46.0	6.3	11.1	1.6	7.9	11.1	7.9	4.8	15.9	22.2						
50歳代	67	43.3	11.9	17.9	3.0	9.0	13.4	6.0	4.5	9.0	20.9						
60歳代	56	25.0	10.7	12.5	1.8	10.7	7.1	7.1	14.3	14.3	23.2						
70歳以上	23	21.7	4.3	4.3	-	4.3	-	-	17.4	26.1	30.4						

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。



(5) 就労意向の有無

《現在、無職の方におたずねします。》

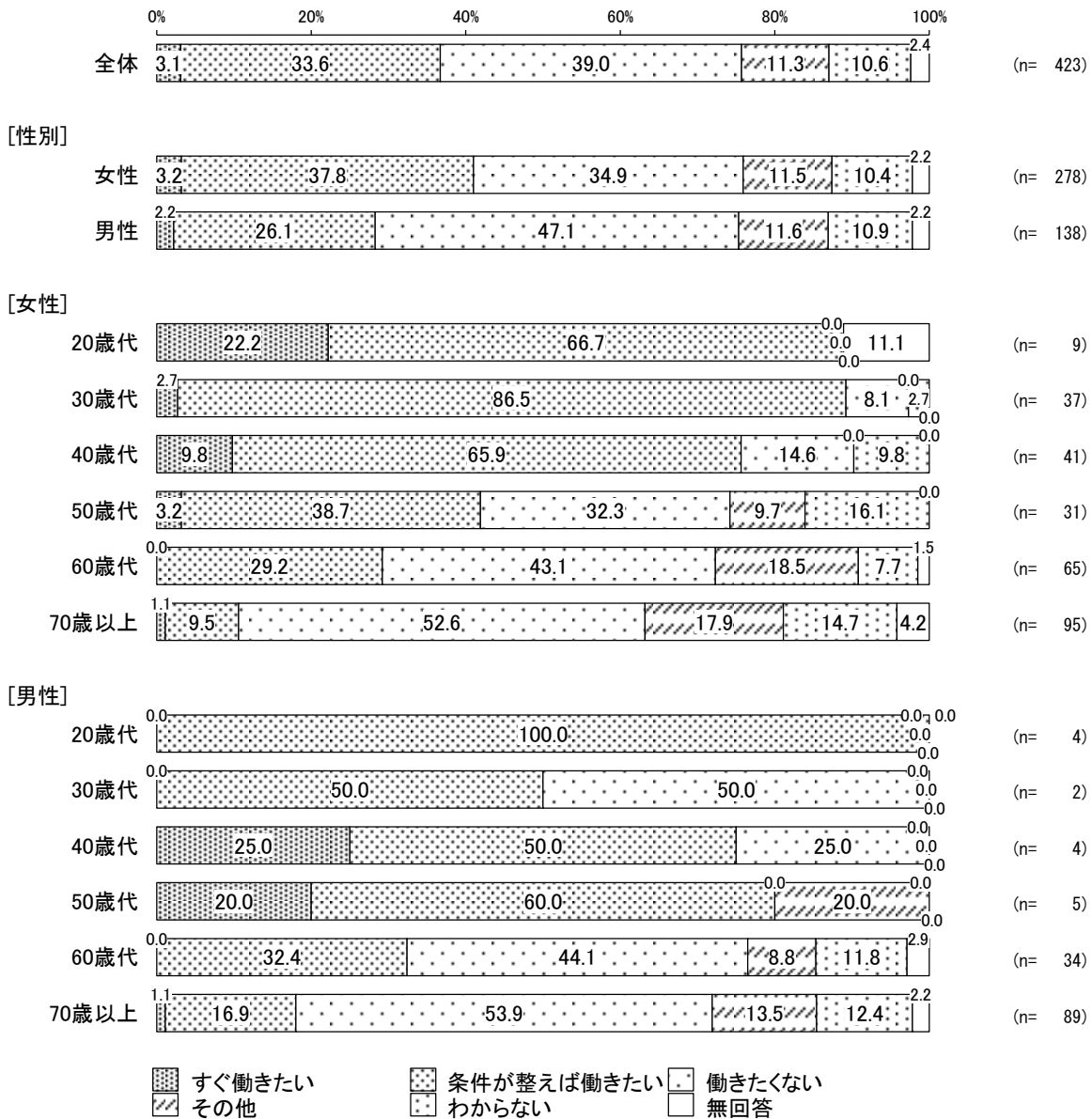
問7 あなたは、今後、働きたいと思われませんか。(○は1つ)

現在働いていない人に今後の就労意向をたずねたところ、「働きたくない」が39.0%、「条件が整えば働きたい」が33.6%となっている。

性別にみると、女性は「条件が整えば働きたい」の割合が37.8%で最も高くなっている。

年齢別にみると、女性は20～40歳代では「すぐ働きたい」と「条件が整えば働きたい」を合計した割合が7割を超えている。

図 性別、性年齢別 就労意向の有無



(6) 働くことができない理由

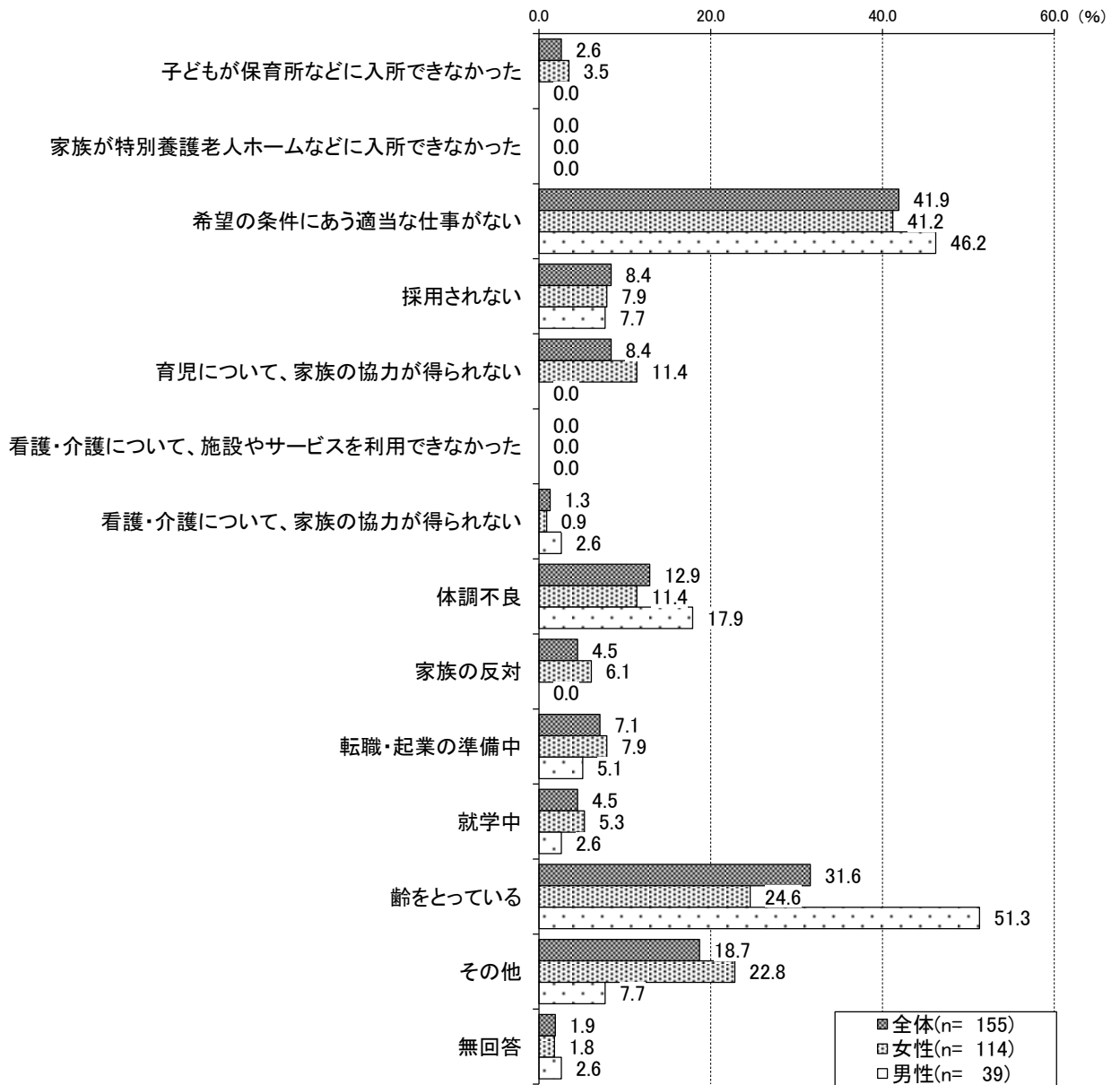
《問7で「1. すぐ働きたい」「2. 条件が整えば働きたい」と答えた方におたずねします。》

問7-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

働く意向がありながら現在働いていない人にその理由をたずねたところ、「希望の条件にあう適当な仕事がない」が41.9%で最も高く、次いで「年齢をとっている」が31.6%、「体調不良」が12.9%、「採用されない」と「育児について、家族の協力が得られない」がいずれも8.4%となっている。

性別にみると、「育児について、家族の協力が得られない」と「家族の反対」は女性ではそれぞれ11.4%・6.1%、男性ではいずれも0.0%となっている。「年齢をとっている」は女性24.6%・男性51.3%となっており、男性の方が26.7ポイント高くなっている。

図 性別 働くことができない理由



年齢別にみると、女性では、20歳代は「就学中」、30～50歳代は「希望の条件にあう適当な仕事がない」、60歳代と70歳以上では、「齢をとっている」の割合が最も高くなっている。

表 性年齢別 働くことができない理由

	対象者数 (n)	子どもが保育所などに 入所できなかった	家族が特別養護老人 ホームなどに入所でき なかつた	希望の条件にあう 適当な仕事がない	採用されない	育児が得られない、家族の 協力が得られない	施設やサービスを利用できなかつた	看護・介護について、 看護・介護の協力が得ら れない	体調不良	家族の反対	転職・起業の準備中	就学中	齢をとっている	その他	無回答
全体	155	2.6	-	41.9	8.4	8.4	-	1.3	12.9	4.5	7.1	4.5	31.6	18.7	1.9
女性															
20歳代	8	-	-	12.5	12.5	12.5	-	-	25.0	-	12.5	37.5	-	25.0	-
30歳代	33	12.1	-	33.3	3.0	24.2	-	-	9.1	3.0	6.1	6.1	3.0	36.4	-
40歳代	31	-	-	64.5	6.5	12.9	-	-	-	12.9	16.1	3.2	9.7	16.1	-
50歳代	13	-	-	53.8	7.7	-	-	-	30.8	7.7	7.7	-	30.8	30.8	-
60歳代	19	-	-	36.8	15.8	-	-	-	21.1	5.3	-	-	52.6	10.5	10.5
70歳以上	10	-	-	10.0	10.0	-	-	10.0	-	-	-	-	100.0	10.0	-
男性															
20歳代	4	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-
30歳代	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	3	-	-	33.3	-	-	-	-	100.0	-	-	-	33.3	33.3	-
50歳代	4	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	25.0	-	50.0	25.0	-
60歳代	11	-	-	54.5	9.1	-	-	-	-	-	-	-	54.5	-	9.1
70歳以上	16	-	-	37.5	12.5	-	-	6.3	12.5	-	-	-	68.8	6.3	-

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。  
ただし、対象者数(n)が10未満の属性については網掛けを除外している。

(7)地域の社会活動の参加状況

問8 あなたは、現在、地域で社会活動に参加していますか。(○は1つ)

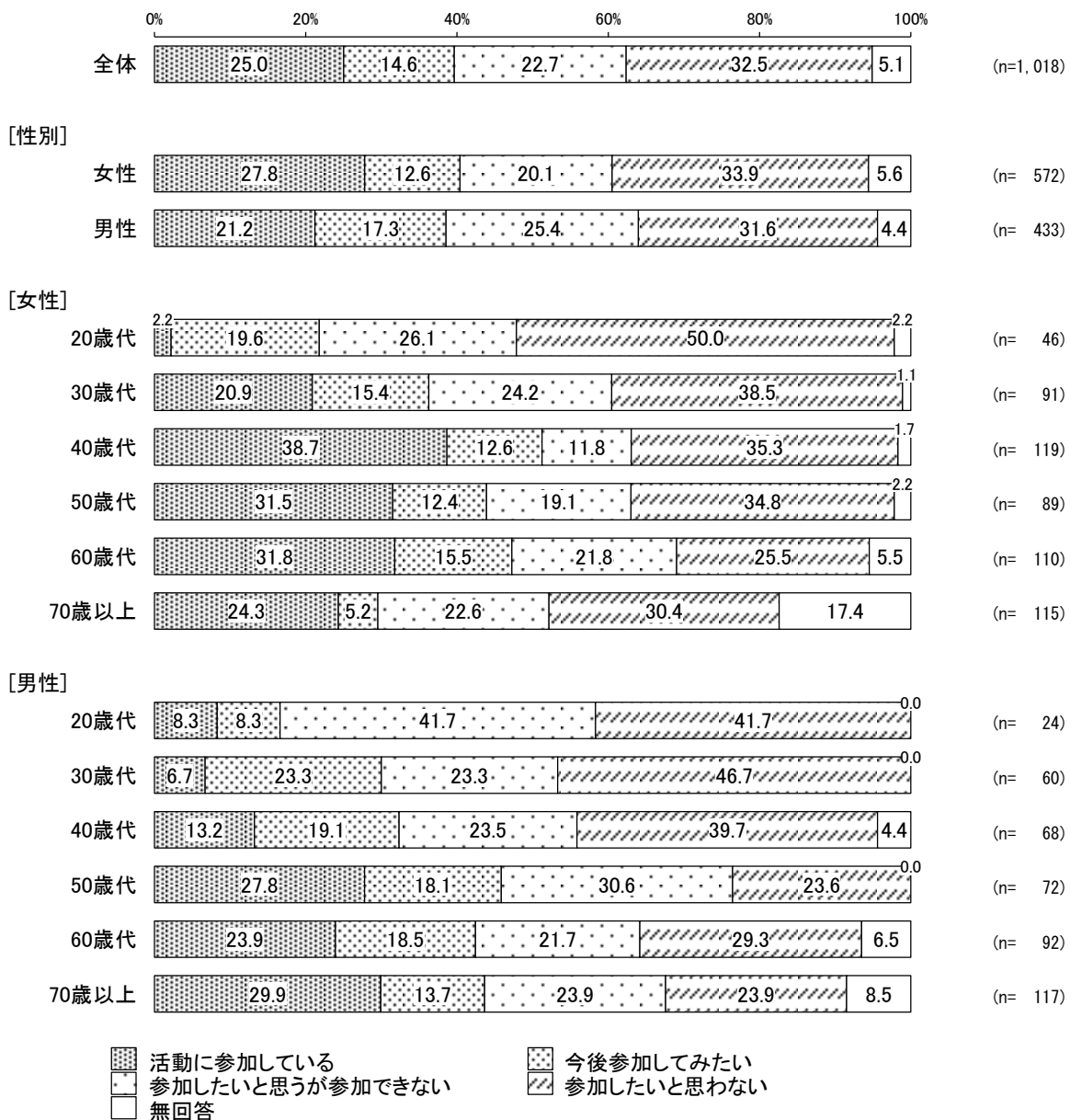
地域の社会活動の参加状況についてたずねたところ、「参加したいと思わない」が32.5%で最も高く、次いで「活動に参加している」が25.0%、「参加したいと思うが参加できない」が22.7%、「今後参加してみたい」が14.6%となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「活動に参加している」「参加したいと思わない」、男性は女性よりも「今後参加してみたい」「参加したいと思うが参加できない」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、女性の20歳代は「参加したいと思わない」が50.0%と高くなっているが、40～60歳代では「活動に参加している」が3割を超えている。

男性は50歳以上の年齢層で「参加している」が2割を超えている。

図 性別、性年齢別 地域の社会活動の参加状況



(8) 参加している・参加したい社会活動

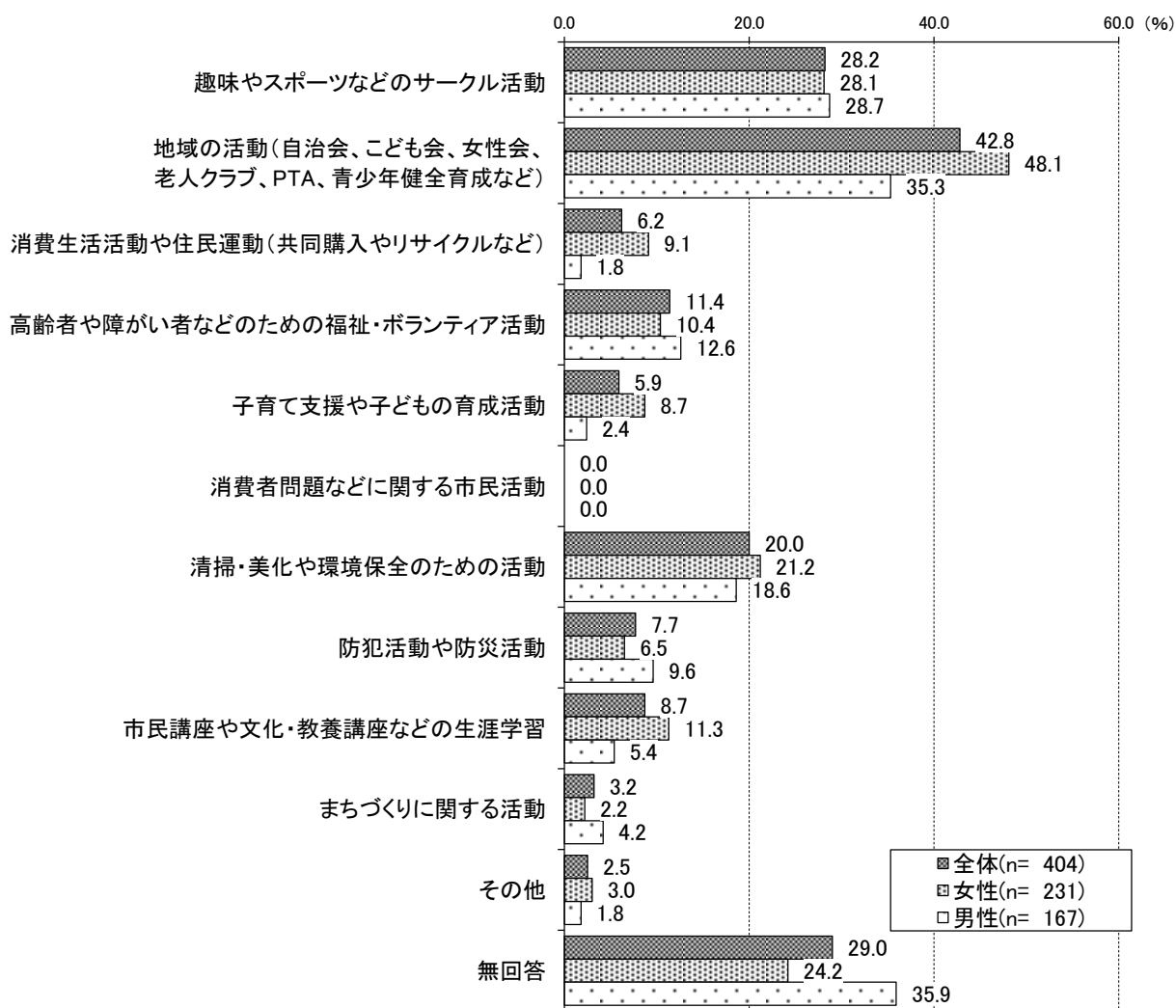
《問8で、「1」または「2」と答えた方におたずねします。》

問8-1 次の活動のうち、あなたが最近1年間に参加されたもの、また、今後参加したいと思われるものがありますか。(○は参加したものの、参加したいと思うものそれぞれにいくつでも)

最近1年間に参加した活動は、「地域の活動(自治会、こども会、女性会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」(42.8%)、「趣味やスポーツなどのサークル活動」(28.2%)、「清掃・美化や環境保全のための活動」(20.0%)の順に割合が高くなっている。

性別にみると、「地域の活動(自治会、こども会、女性会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」「消費生活活動や住民運動(共同購入やリサイクルなど)」「子育て支援や子どもの育成活動」「市民講座や文化・教養講座などの生涯学習」はいずれも女性の方が男性よりも5ポイント以上割合が高くなっている。

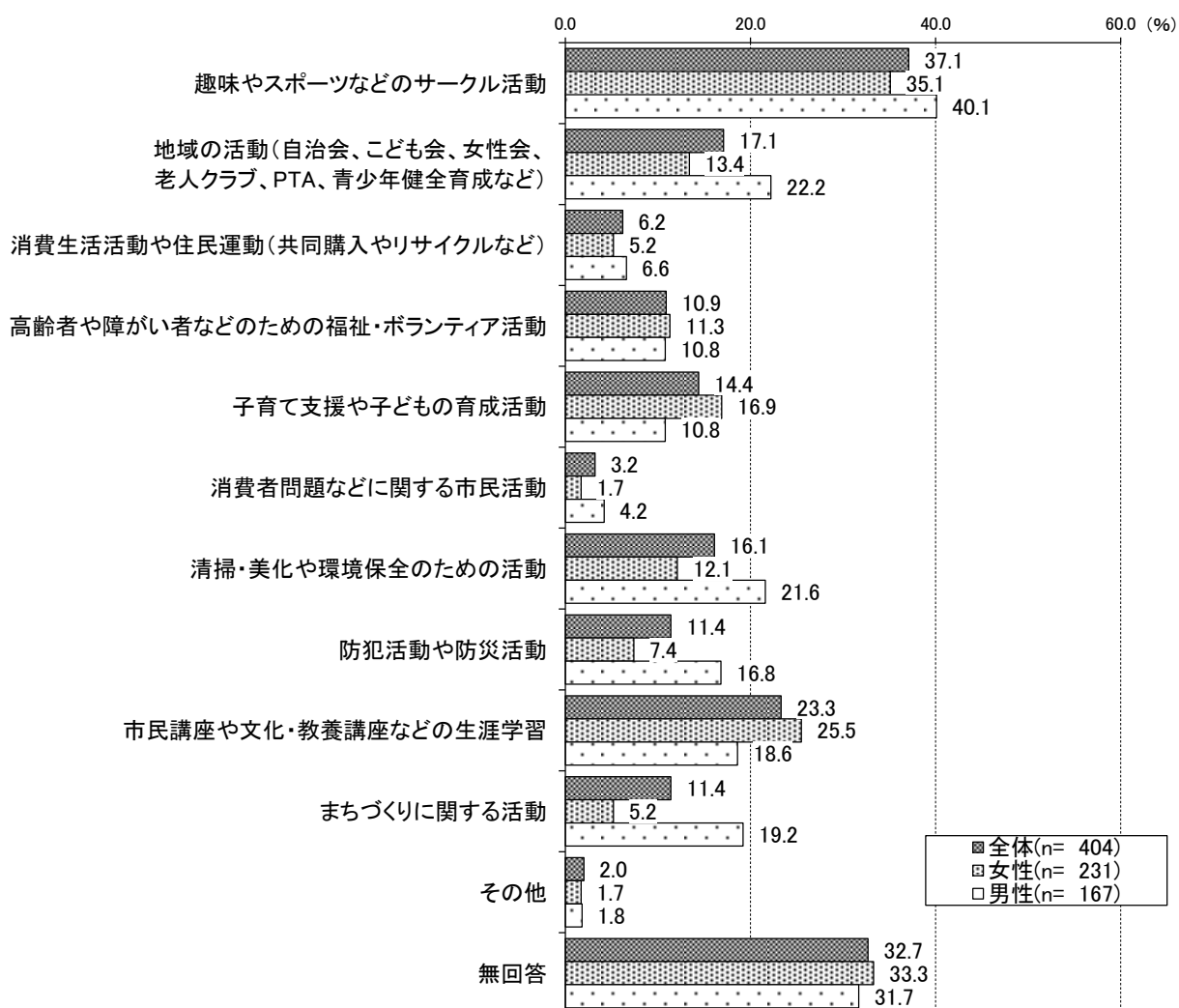
図 性別 参加している・参加したい社会活動(最近1年間に参加した活動)



今後参加したい活動は、「趣味やスポーツなどのサークル活動」が37.1%で特に高く、次いで「市民講座や文化・教養講座などの生涯学習」(23.3%)、「地域の活動(自治会、子ども会、女性会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」(17.1%)、「清掃・美化や環境保全のための活動」(16.1%)の順で割合が高くなっている。

性別にみると、「地域の活動(自治会、子ども会、女性会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」「清掃・美化や環境保全のための活動」「防犯活動や防災活動」「まちづくりに関する活動」は男性の方が女性よりも約10ポイント高くなっている。対して女性では「子育て支援や子どもの育成活動」「市民講座や文化・教養講座などの生涯学習」が男性よりも5ポイント以上割合が高くなっている。

図 性別 参加している・参加したい社会活動(今後参加したいと思う活動)



最近1年間に参加した活動を年齢別にみると、「高齢者や障がい者などのための福祉・ボランティア活動」は年齢が高い層、「子育て支援や子どもの育成活動」は年齢が低い層で割合が高くなる傾向がみられる。

今後参加したい活動は、年齢が低い層で「子育て支援や子どもの育成活動」、「防犯活動や防災活動」などの割合が高くなっている。

表 性年齢別 参加している・参加したい社会活動（最近1年間に参加した活動）

	対象者数（n）	趣味やスポーツなどの サークル活動	地域の活動（自治会、子ども PTA、女性会、老人クラブ、こども 青少年健全育成など）	消費生活活動や住民運動 （共同購入やリサイクルなど）	福祉・ボランティア活動 （高齢者や障がい者などのための 活動）	子育て支援や子どもの育成活動	消費者問題などに関する 市民活動	清掃・美化や環境保全 のための活動	防犯活動や防災活動	市民講座や文化・教養講座 などの生涯学習	まちづくりに関する活動	その他	無回答
全体	404	28.2	42.8	6.2	11.4	5.9	-	20.0	7.7	8.7	3.2	2.5	29.0
女性	20歳代	10	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	80.0
	30歳代	33	12.1	36.4	9.1	3.0	15.2	-	21.2	-	-	-	33.3
	40歳代	61	27.9	60.7	6.6	8.2	11.5	-	18.0	3.3	3.3	1.6	19.7
	50歳代	39	30.8	35.9	17.9	7.7	10.3	-	28.2	12.8	5.1	-	25.6
	60歳代	52	26.9	50.0	9.6	21.2	5.8	-	21.2	11.5	-	1.9	21.2
	70歳以上	34	44.1	58.8	5.9	11.8	2.9	-	26.5	5.9	2.9	11.8	11.8
	男性	20歳代	4	-	-	-	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-
30歳代		18	11.1	16.7	-	-	5.6	5.6	-	5.6	-	-	61.1
40歳代		22	31.8	22.7	-	-	9.1	9.1	4.5	4.5	-	-	50.0
50歳代		33	36.4	36.4	3.0	9.1	-	21.2	6.1	3.0	9.1	3.0	30.3
60歳代		39	20.5	41.0	5.1	10.3	-	23.1	17.9	-	-	2.6	38.5
70歳以上		51	37.3	45.1	-	25.5	2.0	-	21.6	11.8	5.9	2.0	21.6

表 性年齢別 参加している・参加したい社会活動（今後参加したいと思う活動）

	対象者数（n）	趣味やスポーツなどの サークル活動	地域の活動（自治会、子ども PTA、女性会、老人クラブ、こども 青少年健全育成など）	消費生活活動や住民運動 （共同購入やリサイクルなど）	福祉・ボランティア活動 （高齢者や障がい者などのための 活動）	子育て支援や子どもの育成活動	消費者問題などに関する 市民活動	清掃・美化や環境保全 のための活動	防犯活動や防災活動	市民講座や文化・教養講座 などの生涯学習	まちづくりに関する活動	その他	無回答	
全体	404	37.1	17.1	6.2	10.9	14.4	3.2	16.1	11.4	23.3	11.4	2.0	32.7	
女性	20歳代	10	70.0	50.0	10.0	40.0	60.0	10.0	30.0	40.0	20.0	20.0	10.0	-
	30歳代	33	30.3	27.3	3.0	6.1	27.3	-	12.1	9.1	27.3	-	-	24.2
	40歳代	61	34.4	9.8	4.9	8.2	18.0	-	4.9	6.6	24.6	3.3	1.6	36.1
	50歳代	39	51.3	5.1	10.3	7.7	17.9	5.1	25.6	7.7	43.6	10.3	2.6	15.4
	60歳代	52	38.5	13.5	5.8	17.3	11.5	1.9	15.4	5.8	26.9	5.8	-	30.8
	70歳以上	34	8.8	5.9	-	8.8	-	-	-	-	5.9	2.9	2.9	67.6
	男性	20歳代	4	100.0	25.0	-	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-
30歳代		18	44.4	38.9	11.1	5.6	27.8	5.6	38.9	11.1	11.1	22.2	-	22.2
40歳代		22	45.5	27.3	13.6	13.6	22.7	4.5	27.3	31.8	27.3	31.8	-	18.2
50歳代		33	51.5	30.3	6.1	21.2	12.1	6.1	30.3	24.2	18.2	24.2	-	24.2
60歳代		39	38.5	10.3	7.7	5.1	5.1	5.1	20.5	7.7	23.1	23.1	2.6	28.2
70歳以上		51	25.5	17.6	2.0	9.8	3.9	2.0	7.8	9.8	15.7	7.8	3.9	51.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。  
ただし、対象者数(n)が10未満の属性については網掛けを除外している。

(9) 社会活動に参加するうえで支障となること

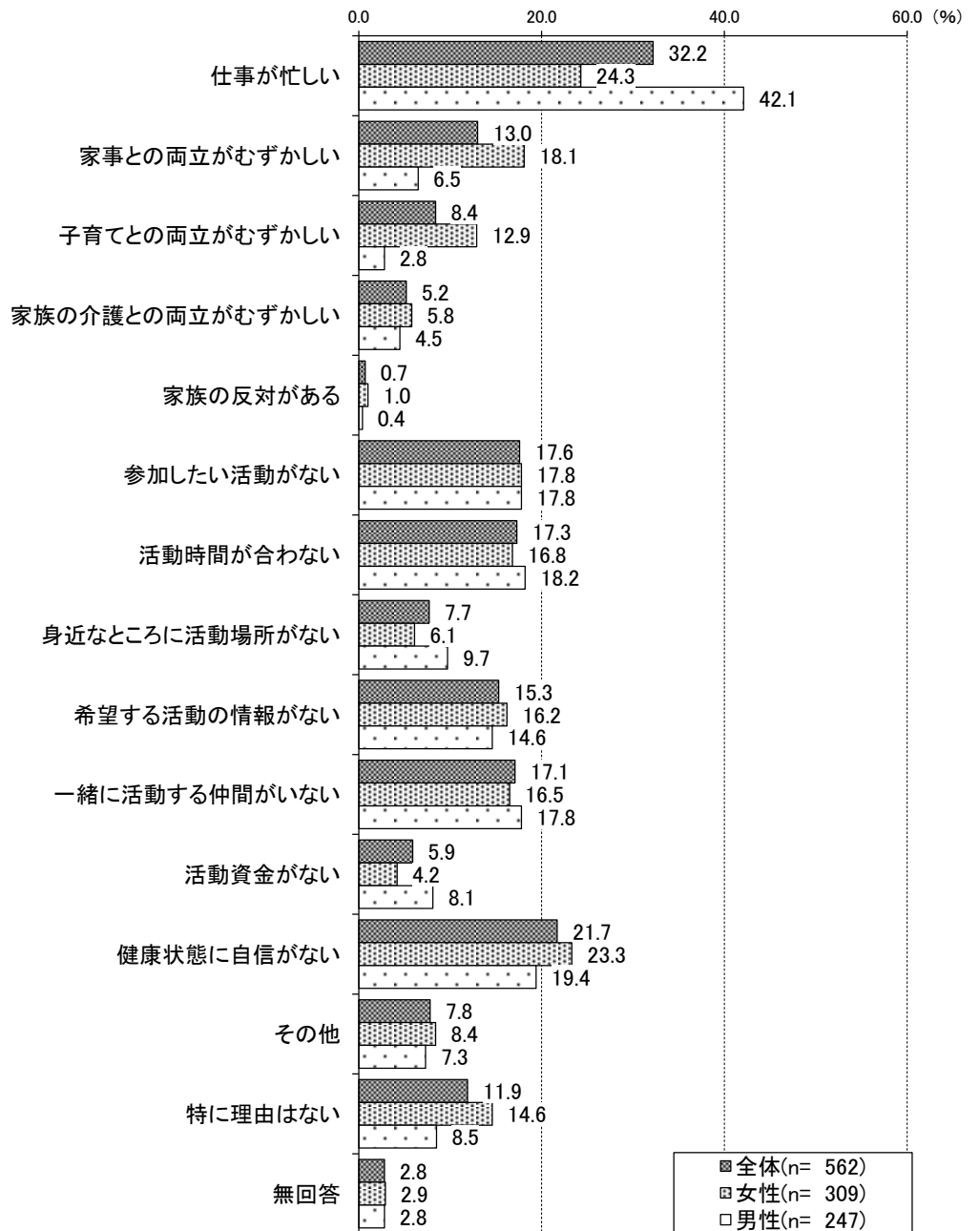
《問8で、「3」または「4」と答えた方におたずねします。》

問8-2 あなたが何らかの活動に参加できない理由、参加したいと思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

社会活動に参加できない理由、参加したいと思わない理由についてたずねたところ、「仕事が忙しい」が32.2%で最も高く、次いで「健康状態に自信がない」が21.7%となっており、これに「参加したい活動がない」「活動時間が合わない」「一緒に活動する仲間がない」の3項目が17%台で続いている。

性別にみると、男性では「仕事が忙しい」が42.1%と特に高くなっている。女性では「家事との両立がむずかしい」(18.1%)と「子育てとの両立がむずかしい」(12.9%)がそれぞれ1割を超えている。

図 性別 社会活動に参加するうえで支障となること





年齢別にみると、女性は20歳代と40歳代では「仕事が忙しい」、30歳代は「子育てとの両立がむずかしい」、50歳代は「家事との両立がむずかしい」と「参加したい活動がない」、60歳代と70歳以上では「健康状態に自信がない」の割合が最も高くなっている。

男性は、20～50歳代はいずれも「仕事が忙しい」の割合が最も高く、60歳代と70歳以上では「健康状態に自信がない」の割合が最も高くなっている。

表 性年齢別 社会活動に参加するうえで支障となること

	対象者数 (n)	仕事が忙しい	家事との両立がむずかしい	子育てとの両立がむずかしい	家族の介護との両立がむずかしい	家族の反対がある	参加したい活動がない	活動時間が合わない	活動場所がない	身近なところに活動場所がない	希望する活動の情報がない	一緒に活動する仲間がいない	活動資金がない	健康状態に自信がない	その他	特に理由はない	無回答
全体	562	32.2	13.0	8.4	5.2	0.7	17.6	17.3	7.7	15.3	17.1	5.9	21.7	7.8	11.9	2.8	
女性	20歳代	35	37.1	14.3	8.6	-	-	31.4	20.0	8.6	22.9	22.9	-	-	5.7	22.9	-
	30歳代	57	29.8	31.6	49.1	-	1.8	19.3	19.3	7.0	17.5	19.3	5.3	8.8	7.0	14.0	-
	40歳代	56	39.3	25.0	16.1	1.8	-	19.6	30.4	5.4	12.5	17.9	7.1	16.1	5.4	19.6	3.6
	50歳代	48	22.9	25.0	-	18.8	2.1	25.0	14.6	2.1	16.7	16.7	4.2	20.8	12.5	6.3	2.1
	60歳代	52	21.2	7.7	-	9.6	1.9	11.5	13.5	7.7	17.3	11.5	5.8	34.6	7.7	9.6	1.9
	70歳以上	61	1.6	4.9	-	4.9	-	6.6	4.9	6.6	13.1	13.1	1.6	49.2	11.5	16.4	8.2
男性	20歳代	20	50.0	5.0	5.0	-	-	15.0	30.0	5.0	15.0	40.0	20.0	5.0	15.0	10.0	-
	30歳代	42	61.9	14.3	9.5	2.4	-	31.0	26.2	9.5	16.7	19.0	11.9	2.4	9.5	14.3	2.4
	40歳代	43	67.4	7.0	4.7	-	2.3	18.6	23.3	7.0	11.6	14.0	2.3	2.3	4.7	9.3	2.3
	50歳代	39	66.7	7.7	-	5.1	-	12.8	23.1	5.1	17.9	15.4	7.7	7.7	2.6	2.6	2.6
	60歳代	47	19.1	4.3	-	8.5	-	14.9	10.6	17.0	25.5	14.9	8.5	27.7	4.3	10.6	4.3
	70歳以上	56	7.1	1.8	-	7.1	-	14.3	7.1	10.7	3.6	16.1	5.4	51.8	10.7	5.4	3.6

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(10) 地域活動のリーダーの状況

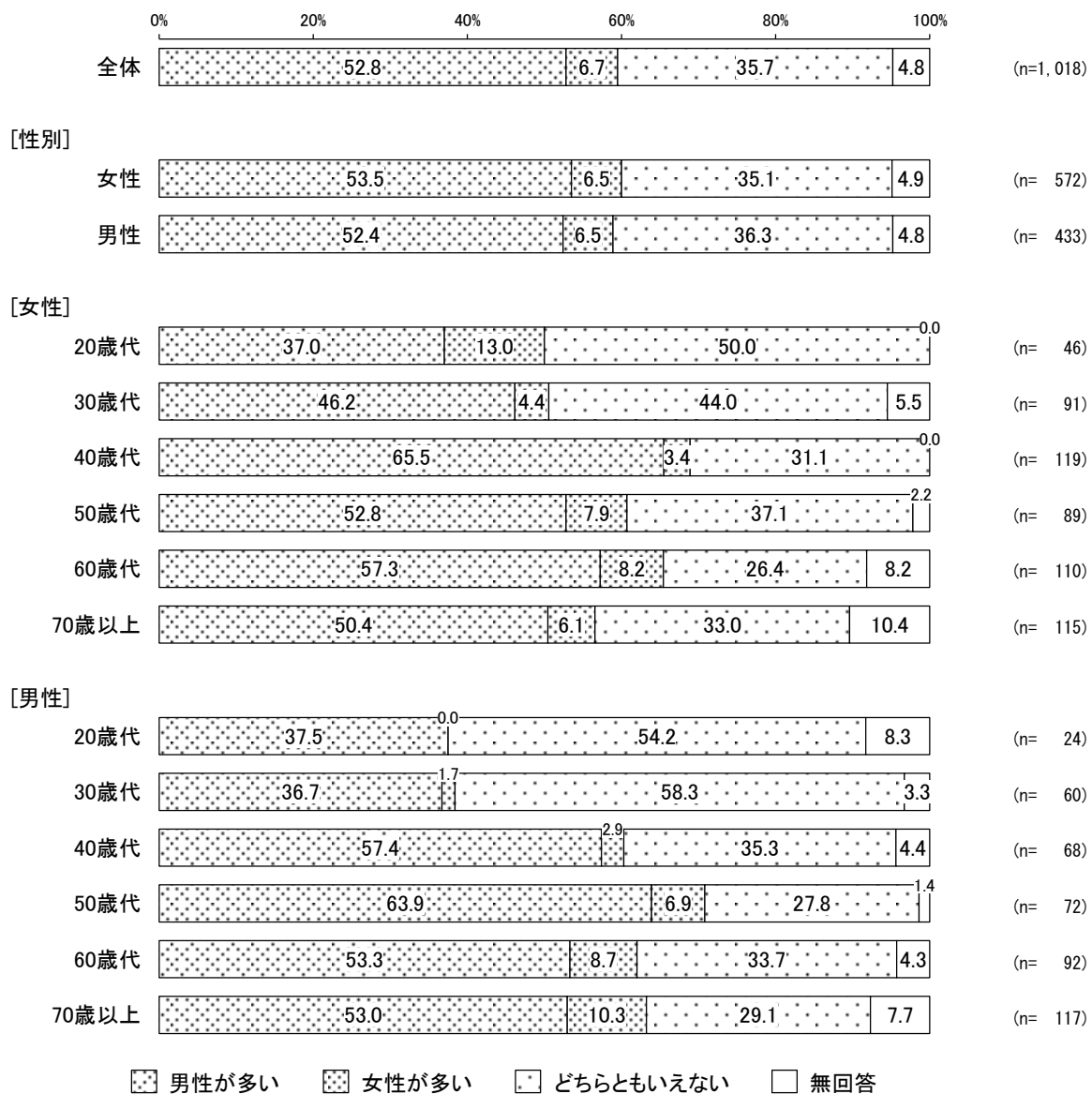
問9 あなたのまわりで、自治会長やPTA会長など、地域活動のリーダー的な役職についているのは男女どちらが多いですか。

地域活動のリーダー的な役職についてる人の状況についてたずねたところ、「男性が多い」が52.8%、「どちらともいえない」が35.7%、「女性が多い」が6.7%となっている。

性別にみると、男女ともに「男性が多い」が5割強を占めており、性別による大きな違いはみられない。

年齢別にみると、20・30歳代の男女では「どちらともいえない」の割合が40歳以上の年齢層とくらべて高くなっている。

図 性別、性年齢別 地域活動のリーダーの状況



(11) 地域活動のリーダーに男性が多い理由

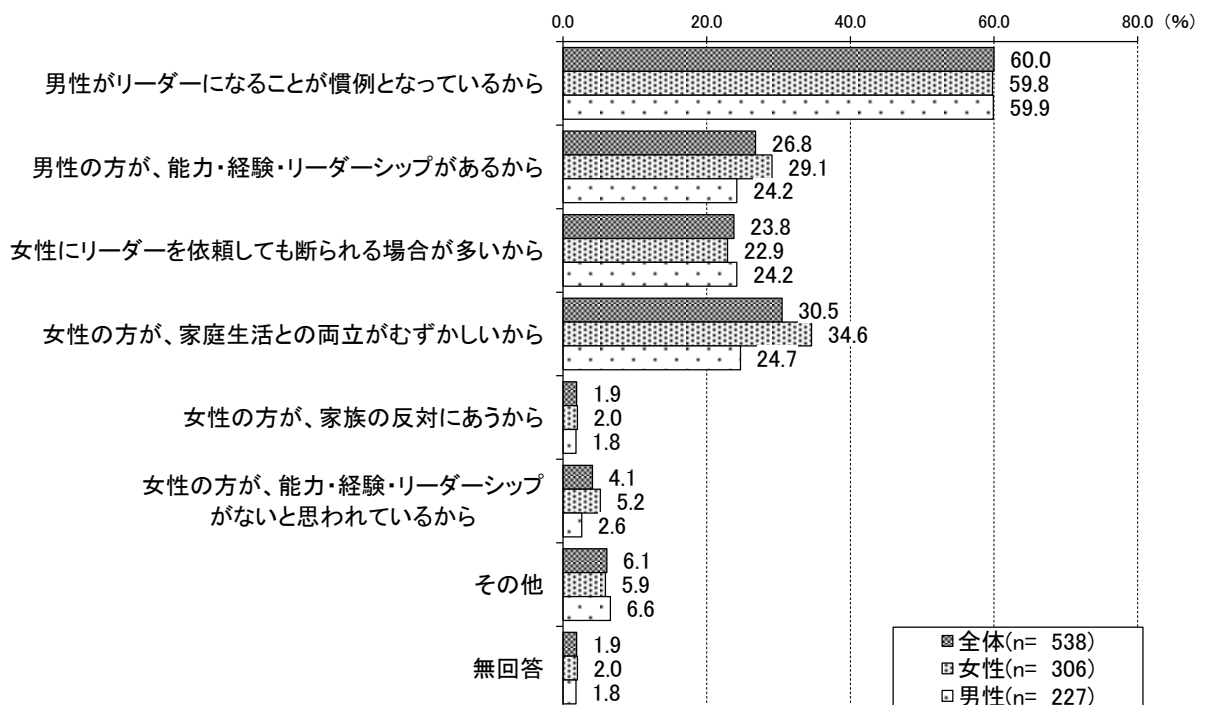
《問9で、「1. 男性が多い」と答えた方におたずねします。》

問9-1 男性が多い理由は、何だと思えますか。(〇はいくつでも)

周囲の地域活動のリーダーに男性が多いと感じる人に、なぜ男性が多いのかその理由をたずねたところ、「男性がリーダーになることが慣例となっているから」が60.0%で最も高く、次いで「女性の方が、家庭生活との両立がむずかしいから」が30.5%、「男性の方が、能力・経験・リーダーシップがあるから」が26.8%、「女性にリーダーを依頼しても断られる場合が多いから」が23.8%となっている。

性別にみると、「女性の方が、家庭生活との両立がむずかしいから」は女性34.6%・男性24.7%と、女性の方が9.9ポイント高くなっている。

図 性別 地域活動のリーダーに男性が多い理由



年齢別にみると、女性の20歳代は「男性がリーダーになることが慣例となっているから」が82.4%、「女性の方が、家庭生活との両立がむずかしいから」が58.8%と高くなっている。「女性の方が、家庭生活との両立がむずかしいから」は女性の30歳代・60歳代でも4割を超えている。

女性の40歳代と70歳以上、男性の60歳代と70歳以上では「男性の方が、能力・経験・リーダーシップがあるから」が3割を超えている。

表 性年齢別 地域活動のリーダーに男性が多い理由

	対象者数 (n)	かこ男性 ら性が 慣例と なっ てい る	が経男 あ験性 る・の かリ方 らーが 、能 シ力 ツ・ プ	多し女 いて性 かもに ら断リ れらー る場を 合依 が頼	らと女 性の 両の方 立が が、 むず か家 し庭 い生 活か	反女 対性の にあ うが から 家族 の	な経女 い験性 と・の 思リ方 わーが れだ れて い能 る力 かシ ツ・ プ が	そ の 他	無 回 答
全体	538	60.0	26.8	23.8	30.5	1.9	4.1	6.1	1.9
20歳代	17	82.4	11.8	17.6	58.8	-	-	5.9	-
30歳代	42	66.7	14.3	7.1	45.2	2.4	-	4.8	-
女性 40歳代	78	46.2	44.9	23.1	30.8	1.3	6.4	7.7	1.3
50歳代	47	66.0	21.3	31.9	25.5	-	8.5	6.4	2.1
60歳代	63	63.5	20.6	33.3	42.9	1.6	9.5	7.9	1.6
70歳以上	58	58.6	37.9	17.2	24.1	5.2	1.7	1.7	5.2
20歳代	9	66.7	11.1	11.1	33.3	-	11.1	-	-
男性 30歳代	22	63.6	9.1	27.3	31.8	4.5	4.5	-	-
40歳代	39	69.2	23.1	20.5	35.9	-	-	7.7	-
50歳代	46	63.0	13.0	30.4	13.0	4.3	2.2	8.7	2.2
60歳代	49	57.1	34.7	24.5	28.6	-	4.1	10.2	-
70歳以上	62	51.6	32.3	22.6	19.4	1.6	1.6	4.8	4.8

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、対象者数(n)が10未満の属性については網掛けを除外している。

(12) 介護の有無

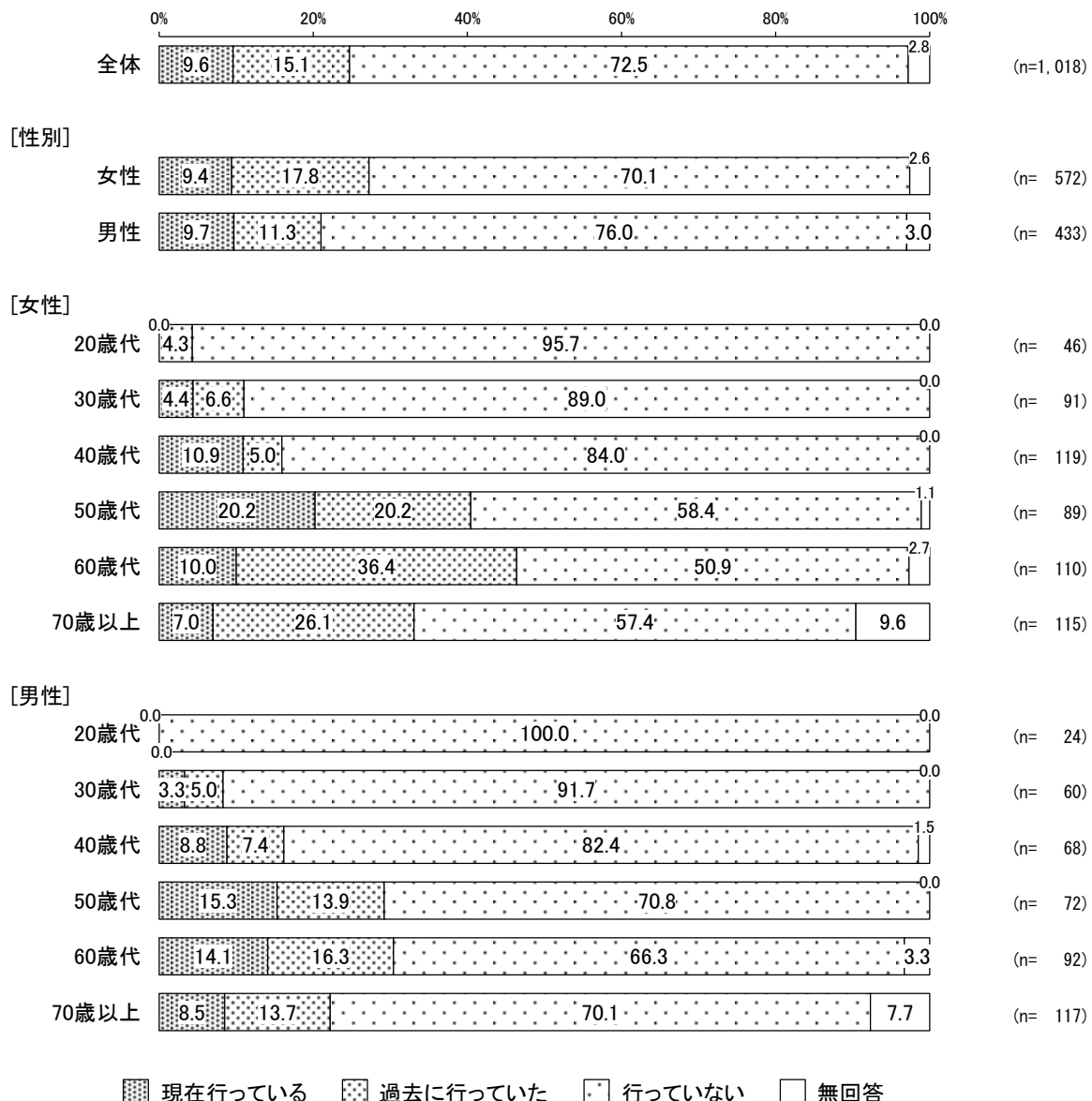
問10 あなたは、ご家族の介護を行っていますか。(同居、別居は問わない) (○は1つ)

家族の介護の状況についてたずねたところ、「現在行っている」が9.6%、「過去に行っていた」が15.1%となっており、「行っていない」が72.5%を占めている。

性別にみると、「現在行っている」の割合は男女で大きな違いはみられないが、「過去に行っていた」は女性17.8%・男性11.3%と女性の方が6.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「現在行っている」は男女ともに50歳代で全年代中最も高くなっている。女性の50歳以上の年齢層では「過去に行っていた」の割合が他の層よりも高くなっている。

図 性別、性年齢別 介護の有無



(13) 希望する介護

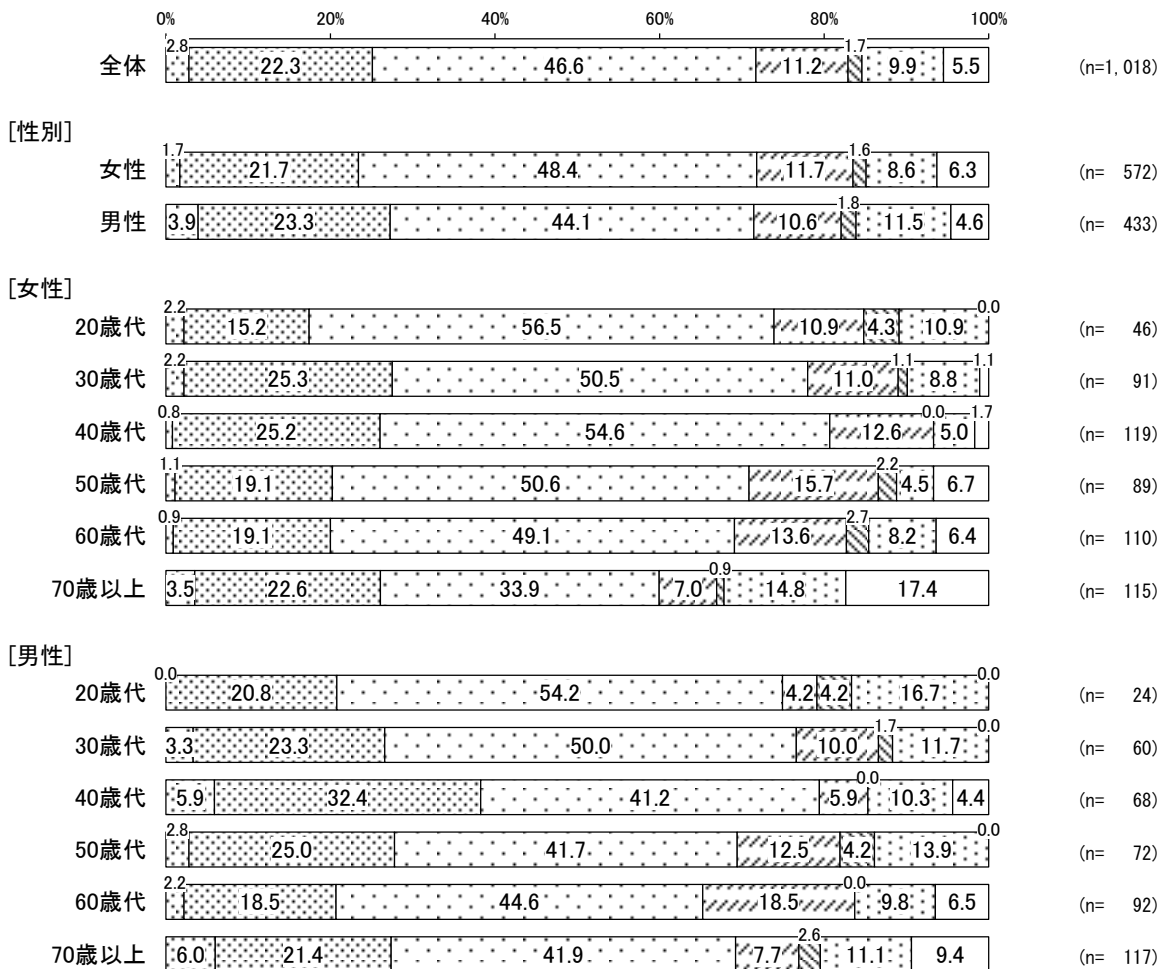
問11 あなたは、家族が生活支援や介護が必要になった場合、どのようにしたいと思いますか。また、実際に生活支援や介護をされている場合は、どのようにしていますか。(〇は1つ)

家族が生活支援や介護が必要になった場合の対応についてたずねたところ、「可能な限りサービスを利用しながら自宅で介護するが、症状が進んだら施設に入所させたい(させている)」が46.6%で最も高く、次いで「ホームヘルパーやデイサービスなどを利用しながら、主に家庭で介護したい(している)」が22.3%、「特別養護老人ホームなどの施設に入所させたい(入所させている)」が11.2%となっている。

性別にみると、「可能な限りサービスを利用しながら自宅で介護するが、症状が進んだら施設に入所させたい(させている)」は女性の方が、「行政や外部のサービスには頼らず、家庭で介護したい(している)」と「ホームヘルパーやデイサービスなどを利用しながら、主に家庭で介護したい(している)」は男性の方が、わずかに高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「可能な限りサービスを利用しながら自宅で介護するが、症状が進んだら施設に入所させたい(させている)」の割合が高くなっている。

図 性別、性年齢別 希望する介護



- 行政や外部のサービスには頼らず、家庭で介護したい(している)
- ホームヘルパーやデイサービスなどを利用しながら、主に家庭で介護したい(している)
- 可能な限りサービスを利用しながら自宅で介護するが、症状が進んだら施設に入所させたい(させている)
- 特別養護老人ホームなどの施設に入所させたい(入所させている)
- その他
- わからない
- 無回答

(14) 介護を行う人

《問11で、「1」「2」「3」と答えた方におたずねします。》

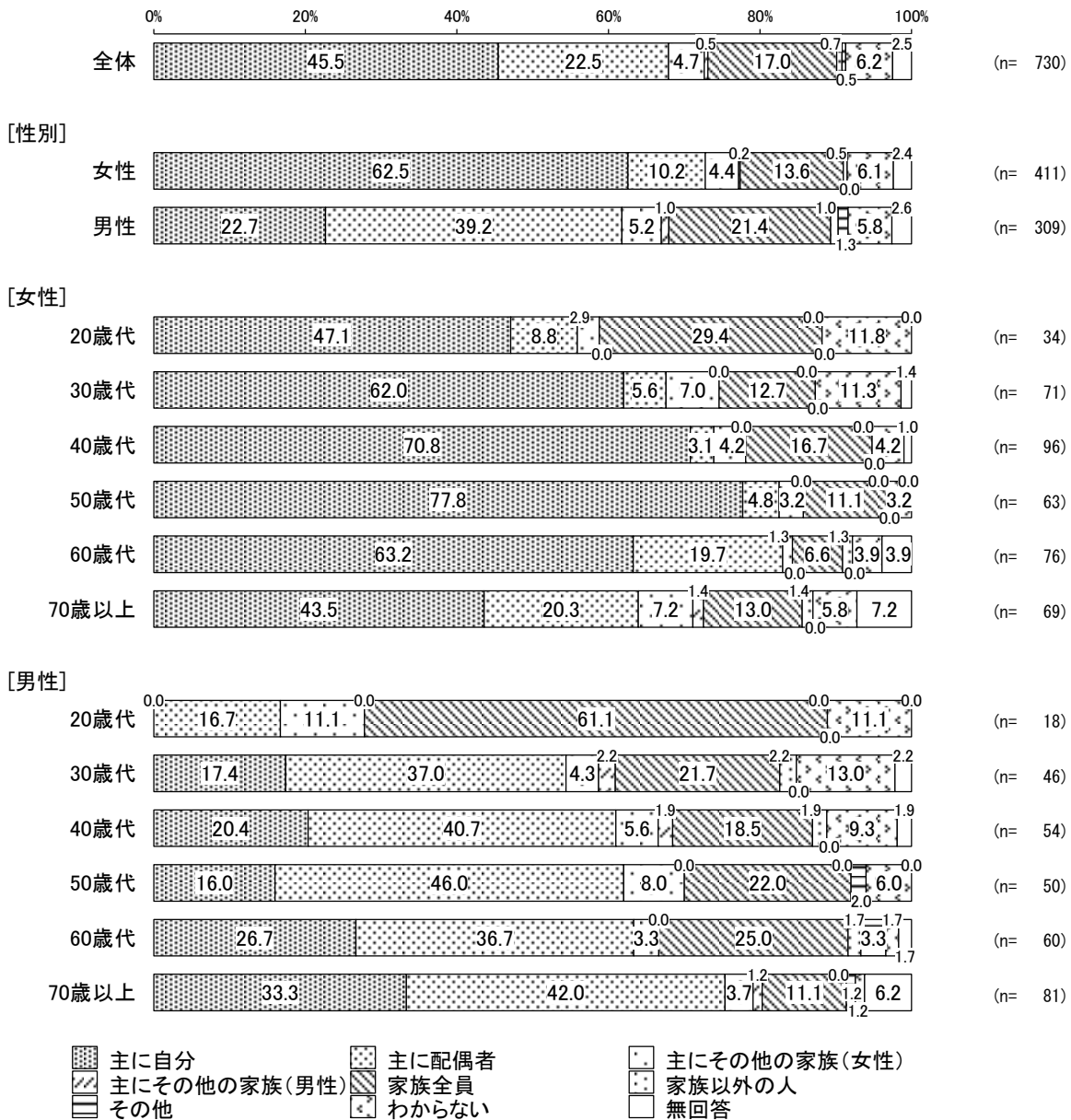
問11-1 家庭で介護する場合、主に誰が介護することになると思いますか。または、実際に介護していますか。(〇は1つ)

家庭で介護する場合、主に誰が介護することになるかについては、「主に自分」が45.5%、「主に配偶者」が22.5%、「家族全員」が17.0%となっている。

性別にみると、女性では「主に自分」(62.5%)、男性では「主に配偶者」(39.2%)の割合が高くなっている。

年齢別にみると、女性ではいずれの年齢層でも「主に自分」の割合が高くなっている。男性では20歳代は「家族全員」が61.1%で最も高くなっているが、30歳以上の年齢層では「主に配偶者」の割合が最も高くなっている。

図 性別、性年齢別 介護を行う人



# IV 男女の人権について

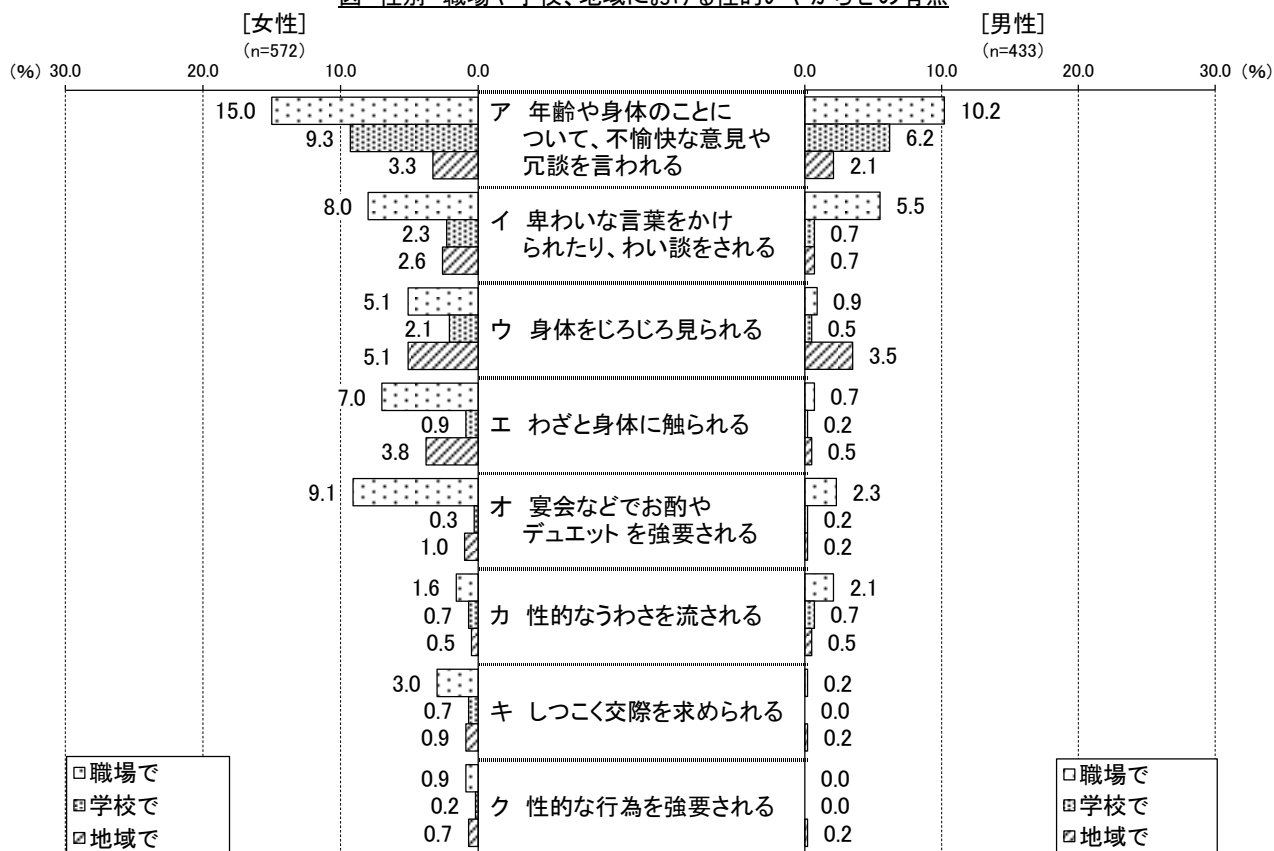
## (1) 職場や学校、地域における性的いやがらせの有無

問12 あなたは、職場や学校、地域などで次のような行為をされたことがありますか。(〇はいくつでも)

職場や学校、地域などにおいて性的いやがらせを受けたことがあるかたずねたところ、「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」を職場で受けた割合が女性15.0%・男性10.2%、学校で受けた割合が女性9.3%・男性6.2%となっている。

「イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」「エ わざと身体に触られる」「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」を職場で受けた割合は女性では1割弱となっている。

図 性別 職場や学校、地域における性的いやがらせの有無





年齢別にみると、「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」については、20・30歳代の女性と30歳代の男性で「職場で」と「学校で」の割合がやや高い。「イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」「ウ 身体をじろじろ見られる」「エ わざと身体に触られる」「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」は30～50歳代の女性では「職場で」の割合が概ね1割程度となっている。

表 性年齢別 職場や学校、地域における性的いやがらせの有無

	(n) 対象者数	ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる					イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる					ウ 身体をじろじろ見られる					
		職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	
全体	1,018	13.1	7.9	2.8	70.1	9.9	7.1	1.7	1.8	78.5	12.1	3.3	1.5	4.4	79.9	12.2	
女性	20歳代	46	21.7	21.7	2.2	65.2	-	6.5	<b>13.0</b>	2.2	82.6	-	-	4.3	8.7	87.0	-
	30歳代	91	<b>26.4</b>	<b>18.7</b>	5.5	62.6	1.1	9.9	4.4	3.3	<b>83.5</b>	1.1	5.5	4.4	<b>9.9</b>	<b>83.5</b>	1.1
	40歳代	119	18.5	10.1	5.0	68.1	1.7	12.6	-	3.4	80.7	5.0	9.2	0.8	5.9	80.7	5.0
	50歳代	89	16.9	12.4	4.5	71.9	2.2	9.0	3.4	2.2	82.0	4.5	11.2	5.6	4.5	79.8	3.4
	60歳代	110	9.1	2.7	2.7	68.2	<b>17.3</b>	6.4	-	2.7	71.8	<b>20.0</b>	1.8	-	2.7	76.4	<b>19.1</b>
	70歳以上	115	3.5	-	-	65.2	<b>31.3</b>	3.5	-	0.9	66.1	<b>29.6</b>	0.9	-	1.7	66.1	<b>31.3</b>
	男性	24	16.7	4.2	-	79.2	-	8.3	-	-	<b>91.7</b>	-	-	-	8.3	<b>91.7</b>	-
30歳代	60	20.0	<b>23.3</b>	-	58.3	3.3	16.7	5.0	-	<b>78.3</b>	5.0	3.3	1.7	3.3	<b>88.3</b>	5.0	
40歳代	68	16.2	4.4	1.5	77.9	1.5	7.4	-	-	<b>89.7</b>	2.9	-	-	1.5	<b>94.1</b>	4.4	
50歳代	72	11.1	5.6	2.8	<b>81.9</b>	2.8	5.6	-	1.4	<b>87.5</b>	5.6	-	-	5.6	<b>90.3</b>	4.2	
60歳代	92	7.6	2.2	2.2	<b>80.4</b>	9.8	2.2	-	1.1	<b>83.7</b>	13.0	2.2	1.1	4.3	<b>80.4</b>	14.1	
70歳以上	117	1.7	2.6	3.4	70.1	<b>22.2</b>	0.9	-	0.9	70.9	<b>27.4</b>	-	-	1.7	70.9	<b>27.4</b>	

	(n) 対象者数	エ わざと身体に触られる					オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される					カ 性的なうわさを流される					
		職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	
全体	1,018	4.3	0.6	2.5	80.6	12.4	6.3	0.3	0.7	80.5	12.6	1.9	0.7	0.6	84.6	12.6	
女性	20歳代	46	6.5	2.2	6.5	84.8	-	-	-	<b>100.0</b>	-	2.2	2.2	2.2	<b>95.7</b>	-	
	30歳代	91	<b>9.9</b>	1.1	5.5	83.5	1.1	11.0	1.1	1.1	<b>86.8</b>	2.2	2.2	2.2	-	<b>93.4</b>	2.2
	40歳代	119	6.7	0.8	6.7	79.8	6.7	12.6	-	-	80.7	6.7	1.7	0.8	0.8	90.8	5.9
	50歳代	89	<b>12.4</b>	2.2	2.2	78.7	4.5	<b>16.9</b>	-	1.1	77.5	4.5	2.2	-	-	<b>92.1</b>	5.6
	60歳代	110	6.4	-	2.7	73.6	<b>18.2</b>	7.3	0.9	0.9	71.8	<b>20.0</b>	1.8	-	0.9	78.2	<b>19.1</b>
	70歳以上	115	1.7	-	0.9	66.1	<b>31.3</b>	3.5	-	2.6	63.5	<b>30.4</b>	-	-	-	67.8	<b>32.2</b>
	男性	24	4.2	-	-	<b>95.8</b>	-	-	4.2	-	<b>95.8</b>	-	-	-	-	<b>100.0</b>	-
30歳代	60	1.7	-	-	<b>93.3</b>	5.0	5.0	-	-	<b>90.0</b>	5.0	5.0	3.3	-	<b>90.0</b>	5.0	
40歳代	68	-	-	1.5	<b>94.1</b>	4.4	2.9	-	-	<b>94.1</b>	2.9	5.9	1.5	1.5	<b>88.2</b>	2.9	
50歳代	72	-	-	1.4	<b>94.4</b>	4.2	-	-	1.4	<b>94.4</b>	4.2	-	-	-	<b>95.8</b>	4.2	
60歳代	92	-	1.1	-	<b>84.8</b>	14.1	3.3	-	-	<b>81.5</b>	15.2	2.2	-	-	<b>82.6</b>	15.2	
70歳以上	117	0.9	-	-	70.9	<b>28.2</b>	1.7	-	-	70.1	<b>28.2</b>	-	-	0.9	71.8	<b>27.4</b>	

	(n) 対象者数	キ しつこく交際を求められる					ク 性的な行為を強要される					
		職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	職場で	学校で	地域で	なご受けがた	無回答	
全体	1,018	1.9	0.4	0.6	84.2	13.1	0.5	0.1	0.5	85.9	13.3	
女性	20歳代	46	4.3	2.2	2.2	<b>91.3</b>	-	-	-	<b>100.0</b>	-	
	30歳代	91	5.5	1.1	1.1	<b>90.1</b>	2.2	2.2	1.1	3.3	<b>93.4</b>	2.2
	40歳代	119	2.5	1.7	0.8	<b>89.9</b>	5.9	-	-	-	<b>92.4</b>	7.6
	50歳代	89	3.4	-	2.2	<b>88.8</b>	5.6	2.2	-	1.1	<b>91.0</b>	5.6
	60歳代	110	2.7	-	-	<b>77.3</b>	<b>20.0</b>	0.9	-	-	<b>78.2</b>	<b>20.9</b>
	70歳以上	115	0.9	-	-	67.0	<b>32.2</b>	-	-	-	67.8	<b>32.2</b>
	男性	24	-	-	-	<b>100.0</b>	-	-	-	-	<b>100.0</b>	-
30歳代	60	-	-	1.7	<b>93.3</b>	5.0	-	-	-	<b>95.0</b>	5.0	
40歳代	68	-	-	-	<b>95.6</b>	4.4	-	-	-	<b>95.6</b>	4.4	
50歳代	72	-	-	-	<b>95.8</b>	4.2	-	-	-	<b>95.8</b>	4.2	
60歳代	92	1.1	-	-	<b>83.7</b>	15.2	-	-	1.1	<b>83.7</b>	15.2	
70歳以上	117	-	-	-	70.9	<b>29.1</b>	-	-	-	70.9	<b>29.1</b>	

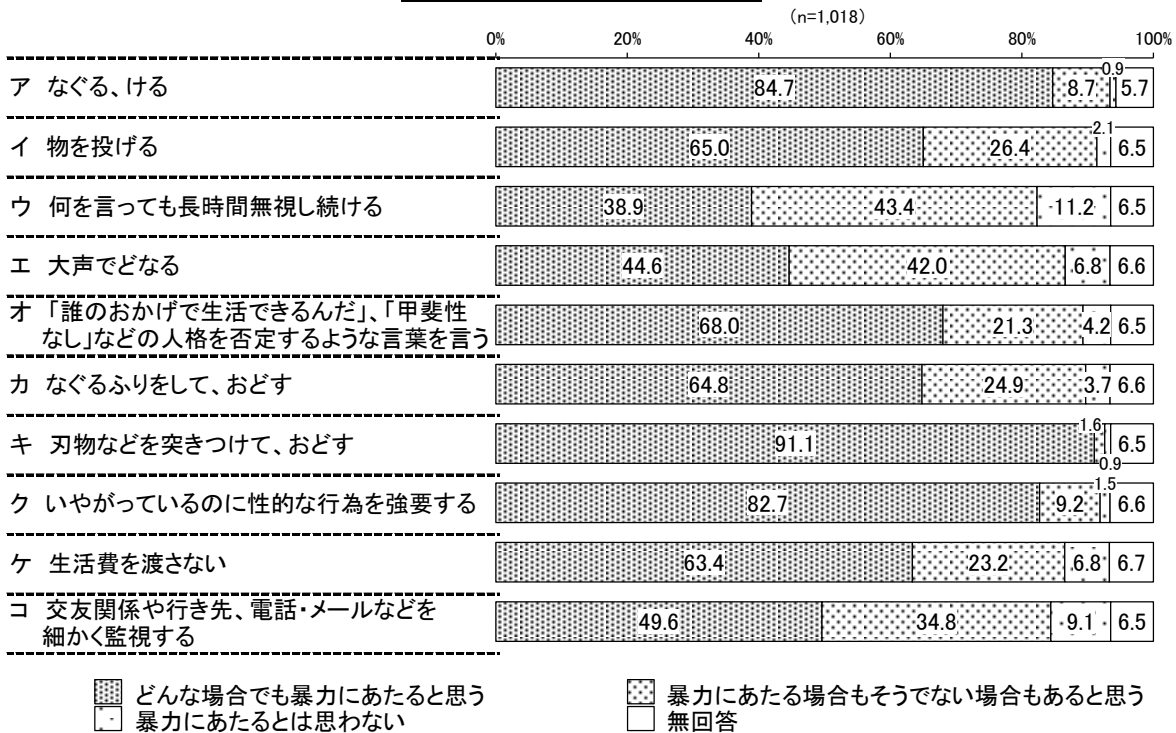
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(2) 夫婦・恋人間で暴力だと思うこと

問13 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナー間や恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。(○はそれぞれ1つ)

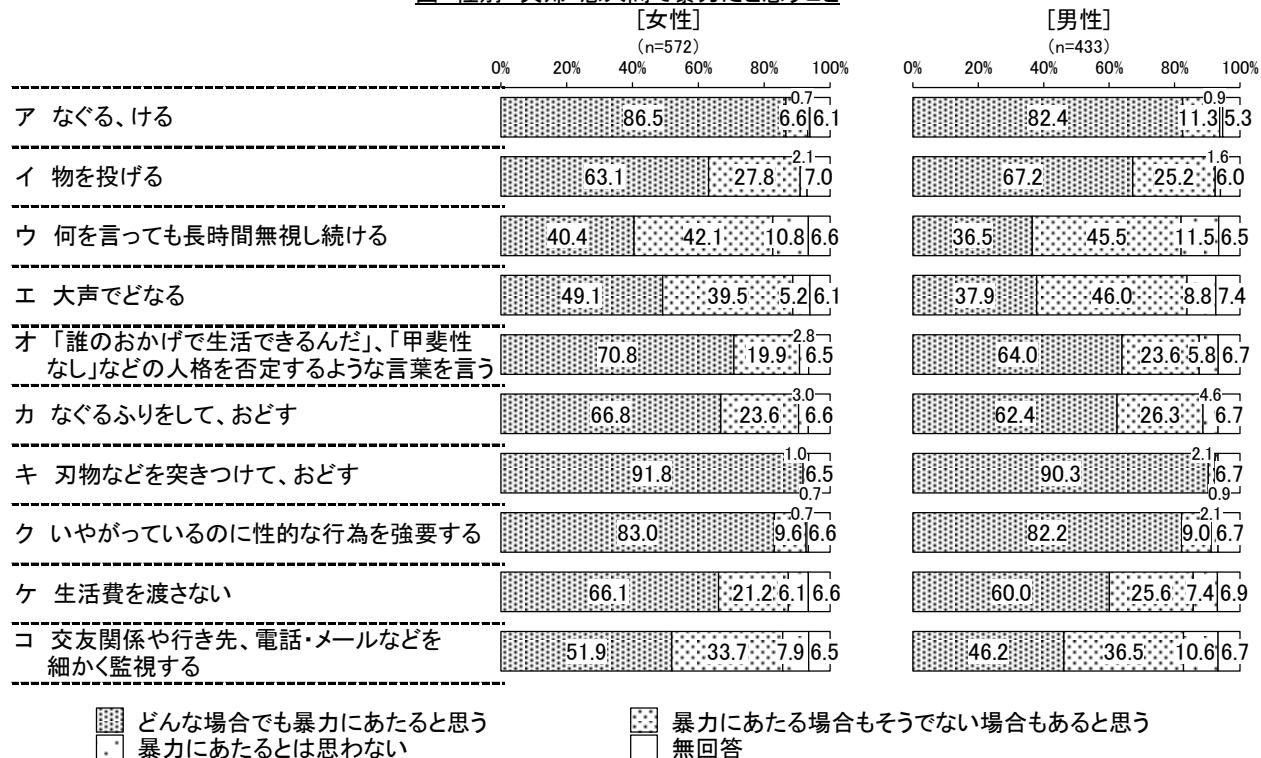
夫婦(パートナー間を含む)・恋人間で暴力だと思う事柄についてたずねたところ、「キ 刃物などを突きつけて、おどす」、「ア なぐる、ける」、「ク いやがっているのに性的な行為を強要する」の3項目は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割を超えて高くなっている。これに対し、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「コ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」では「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が比較的高く、3割を超えている。

図 夫婦・恋人間で暴力だと思うこと



性別にみると、「イ 物を投げる」以外の9項目ではいずれも男性より女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっている。なかでも「エ 大声でどなる」を「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える割合は女性49.1%・男性37.9%と女性の方が11.2ポイント高くなっている。

図 性別 夫婦・恋人間で暴力だと思うこと



「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合を年齢別にみると、女性では40歳代の「カ なぐるふりをして、おどす」(79.0%)と「ケ 生活費を渡さない」(80.7%)、50歳代の「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」(51.7%)と「コ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」(62.9%)が他の女性の年齢層と比べて高くなっている。

男性では、20歳代は「カ なぐるふりをして、おどす」(95.8%)、「キ 刃物などを突きつけて、おどす」(95.8%)、「イ 物を投げる」(91.7%)が9割を超えている。50歳代はすべての項目で全体よりも割合が高くなっている。

表 性年齢別 夫婦・恋人間で暴力だと思うこと  
「どんな場合でも暴力にあたると思う」

	対象者数 (n)	ア なぐる、 ける	イ 物を 投げる	ウ 何を言っ ても長時 間無視し 続ける	エ 大声でど なる	オ 「誰のお かげで生 活でき るんだ」 、「甲斐性 なし」な どの 人格を否 定するよ うな言葉 を言う	カ なぐるふ りをして、 おどす	キ 刃物など を突きつ けて、お どす	ク いやがっ つている のに性的 な 行為を強 要する	ケ 生活費を 渡さない	コ 交友関係 や行き先 、電話・ メールな どを細か く監視す る
全体	1,018	84.7	65.0	38.9	44.6	68.0	64.8	91.1	82.7	63.4	49.6
女性											
20歳代	46	89.1	65.2	34.8	<b>58.7</b>	76.1	69.6	100.0	87.0	54.3	43.5
30歳代	91	93.4	56.0	33.0	44.0	<b>79.1</b>	<b>75.8</b>	96.7	90.1	70.3	45.1
40歳代	119	92.4	67.2	46.2	52.1	<b>80.7</b>	<b>79.0</b>	97.5	88.2	<b>80.7</b>	58.0
50歳代	89	<b>95.5</b>	70.8	<b>51.7</b>	<b>56.2</b>	75.3	<b>75.3</b>	98.9	92.1	67.4	<b>62.9</b>
60歳代	110	90.0	69.1	45.5	50.0	71.8	63.6	93.6	81.8	68.2	58.2
70歳以上	115	63.5	51.3	27.8	39.1	47.0	41.7	71.3	64.3	48.7	39.1
男性											
20歳代	24	79.2	<b>91.7</b>	41.7	37.5	<b>79.2</b>	<b>95.8</b>	95.8	91.7	66.7	54.2
30歳代	60	85.0	68.3	25.0	33.3	70.0	68.3	95.0	81.7	56.7	33.3
40歳代	68	91.2	57.4	41.2	35.3	60.3	64.7	95.6	91.2	70.6	42.6
50歳代	72	<b>97.2</b>	<b>80.6</b>	<b>52.8</b>	51.4	75.0	<b>76.4</b>	98.6	90.3	68.1	54.2
60歳代	92	77.2	71.7	34.8	38.0	58.7	54.3	90.2	85.9	55.4	47.8
70歳以上	117	71.8	55.6	29.9	33.3	57.3	48.7	78.6	67.5	53.0	47.0

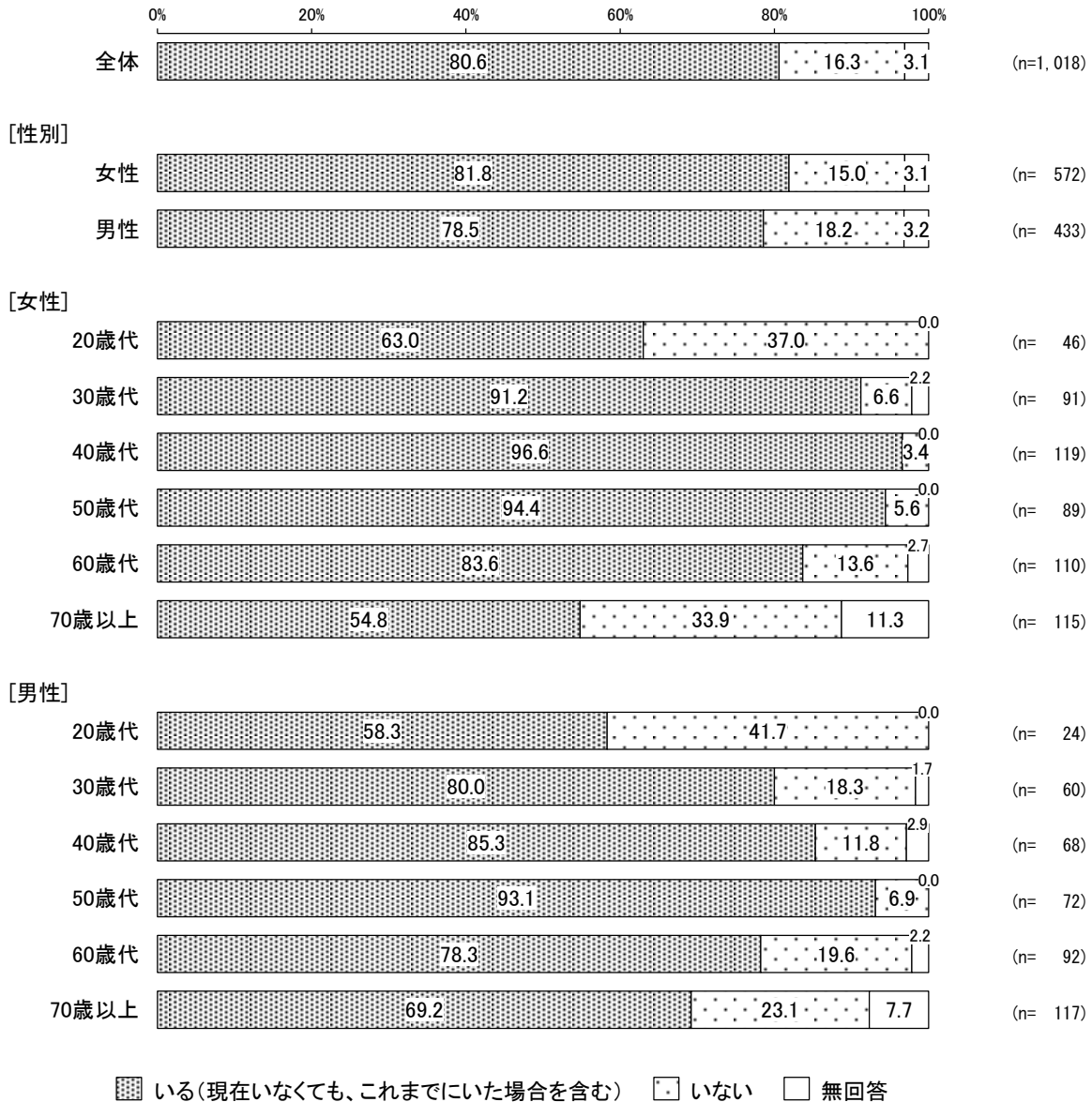
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(3) 配偶者・恋人の有無

問14 あなたは、配偶者・パートナーや恋人など一定期間親しい関係にある（あった）相手がおられますか。（婚姻、同居の有無は問いません）（○は1つ）

配偶者（パートナーを含む）や恋人など一定期間親しい関係にある相手がこれまでにいたかどうかたずねたところ、「いる（現在いなくても、これまでにいた場合を含む）」が80.6%、「いない」が16.3%となっている。性別にみると、「いる」の割合は女性81.8%・男性78.5%となっており、女性の方がやや割合が高い。年齢別にみると、20歳代は「いない」が女性37.0%・男性41.7%となっている。

図 性別、性年齢別 配偶者・恋人の有無



(4) 配偶者・恋人からの暴力の有無

《問14で、「1. いる」と答えた方におたずねします。》

問14-1 これまでに配偶者・パートナーや恋人が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

配偶者・パートナーからの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1～2度あった」の合計)は人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等の「イ 精神的な暴力」で24.8%、なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等の「ア 身体的な暴力」で18.0%となっている。

恋人からの暴力の有無については、「イ 精神的な暴力」が4.6%となっている。

図 配偶者・パートナーからの暴力の有無

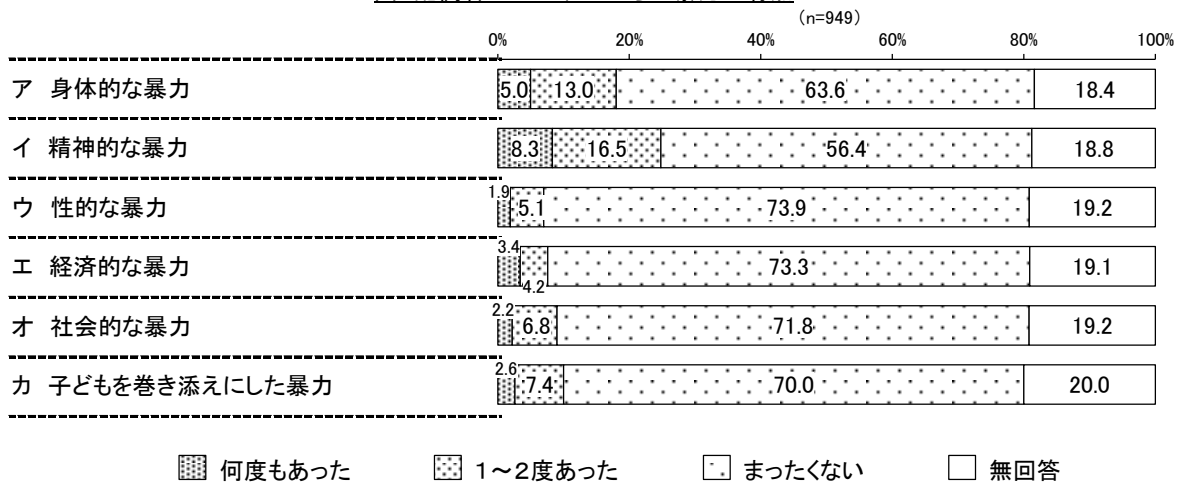
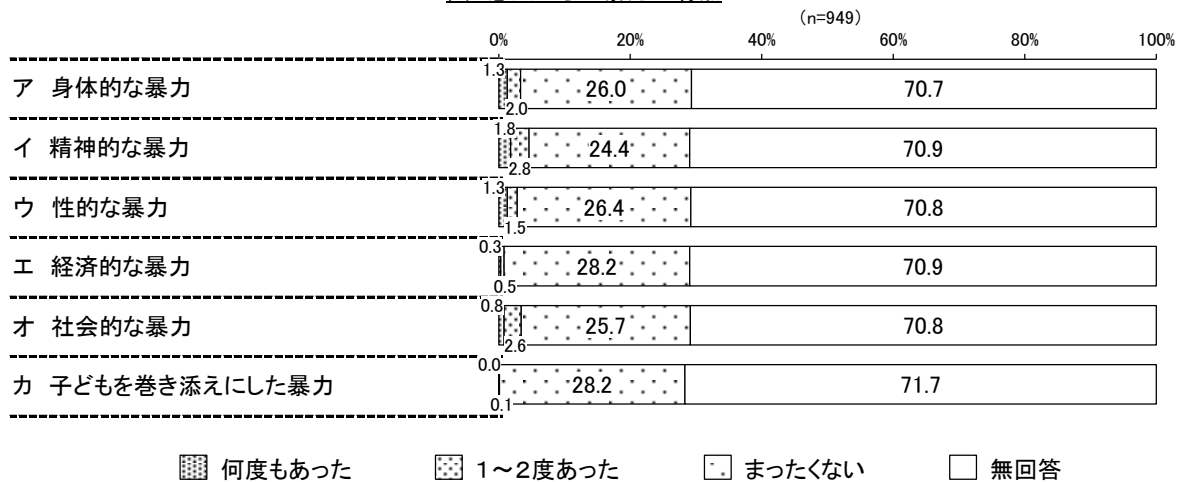


図 恋人からの暴力の有無



- 注) ア 身体的な暴力 …… なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等  
 イ 精神的な暴力 …… 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等  
 ウ 性的な暴力 …… 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等  
 エ 経済的な暴力 …… 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等  
 オ 社会的な暴力 …… 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等  
 カ 子どもを巻き添えにした暴力 …… 子どもの前で暴力をふるったり、子どもに暴力をふるう

配偶者・パートナーからの暴力について性別にみると、いずれの項目でも『あった』の割合は女性の方が高くなっており、「ア 身体的な暴力」では女性23.1%・男性11.3%で11.8ポイント差、「イ 精神的な暴力」は女性28.5%・男性20.3%で8.2ポイント差、「ウ 性的な暴力」では女性10.7%・男性1.8%の8.9ポイント差などとなっている。

恋人からの暴力については、女性の方が男性よりも『あった』の割合が高くなっており、「ウ 性的な暴力」が『あった』割合は女性4.6%・男性0.3%の4.3ポイント差となっている。

図 性別 配偶者・パートナーからの暴力の有無

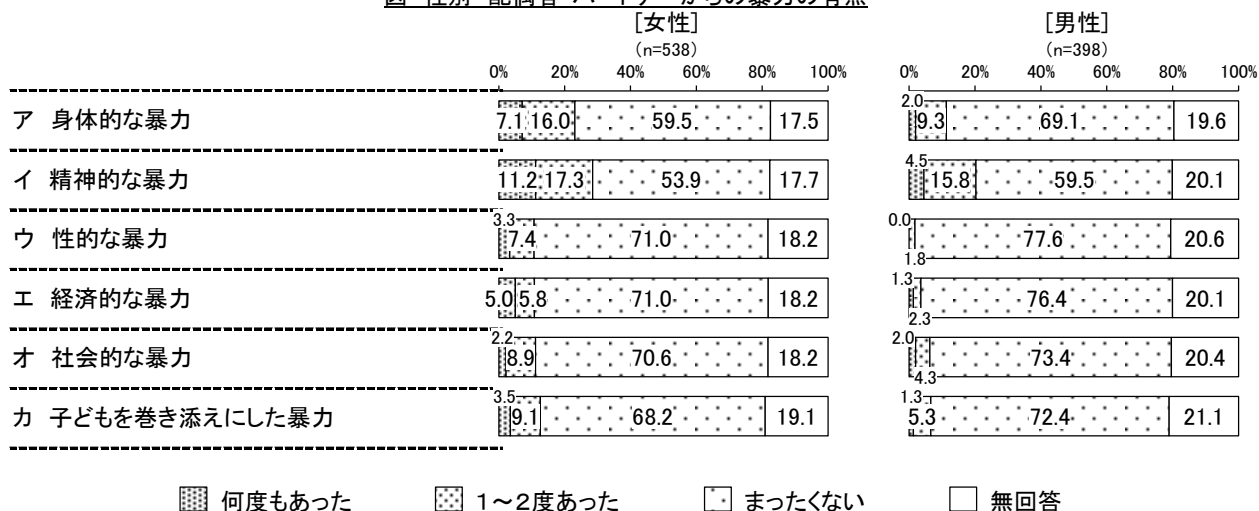
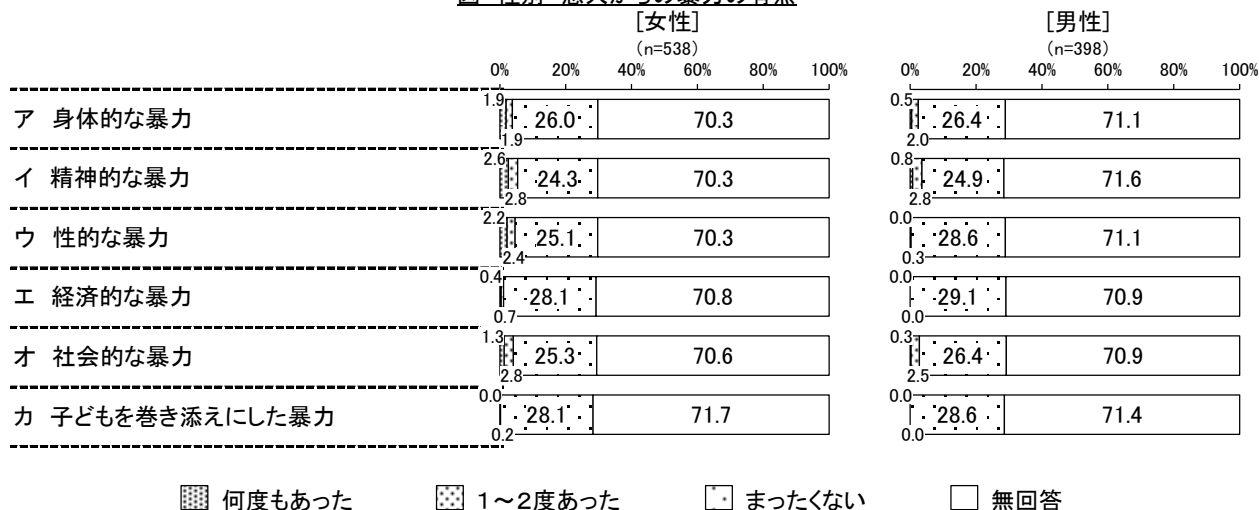


図 性別 恋人からの暴力の有無



配偶者・パートナーからの暴力について『あった』の割合を年齢別にみると、女性の50歳代では「イ 精神的な暴力」が41.2%、「ア 身体的な暴力」が31.8%、「ウ 性的な暴力」が18.8%などとなっている。

恋人からの暴力について『あった』の割合は、20歳代は「オ 社会的な暴力」が女性17.2%・男性21.4%となっている。30歳代では、「イ 精神的な暴力」「ア 身体的な暴力」「オ 社会的な暴力」「ウ 性的な暴力」が約1割となっている。

表 性年齢別 配偶者・パートナーからの暴力の有無  
「何度もあった」と「1～2度あった」の合計

	対象者数 (n)	配偶者・パートナーから						恋人から					
		ア 身体的な暴力	イ 精神的な暴力	ウ 性的な暴力	エ 経済的な暴力	オ 社会的な暴力	カ 子どもを巻き添え	ア 身体的な暴力	イ 精神的な暴力	ウ 性的な暴力	エ 経済的な暴力	オ 社会的な暴力	カ 子どもを巻き添え
全体	949	18.0	24.8	7.0	7.6	9.0	10.0	3.3	4.6	2.8	0.8	3.4	0.1
20歳代	29	20.7	13.7	3.4	6.9	6.9	-	6.8	6.8	6.9	-	17.2	-
30歳代	87	16.0	25.2	5.7	10.3	6.9	10.3	10.3	14.9	9.1	4.6	10.3	1.1
40歳代	115	22.6	33.0	12.1	11.3	14.8	17.4	2.6	4.3	6.1	1.7	4.4	-
50歳代	85	31.8	41.2	18.8	14.2	16.5	17.7	3.6	7.0	5.9	-	1.2	-
60歳代	106	26.5	30.2	11.3	9.4	10.4	8.5	1.8	2.8	2.8	-	0.9	-
70歳以上	114	20.1	19.3	8.8	10.5	8.7	13.2	0.9	-	-	-	0.9	-
20歳代	14	-	-	-	-	-	-	-	7.1	-	-	21.4	-
30歳代	50	14.0	28.0	2.0	-	14.0	4.0	8.0	12.0	-	-	8.0	-
40歳代	61	18.0	22.9	1.6	4.9	8.2	11.5	4.9	6.5	-	-	4.9	-
50歳代	70	5.7	24.3	1.4	2.8	5.7	5.7	2.9	1.4	-	-	1.4	-
60歳代	88	10.2	18.2	-	3.4	3.4	9.1	-	1.1	1.1	-	-	-
70歳以上	115	12.1	17.3	3.5	5.2	5.2	4.4	0.9	0.9	-	-	-	-

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。



(5) 配偶者からの暴力についての相談窓口の認知状況

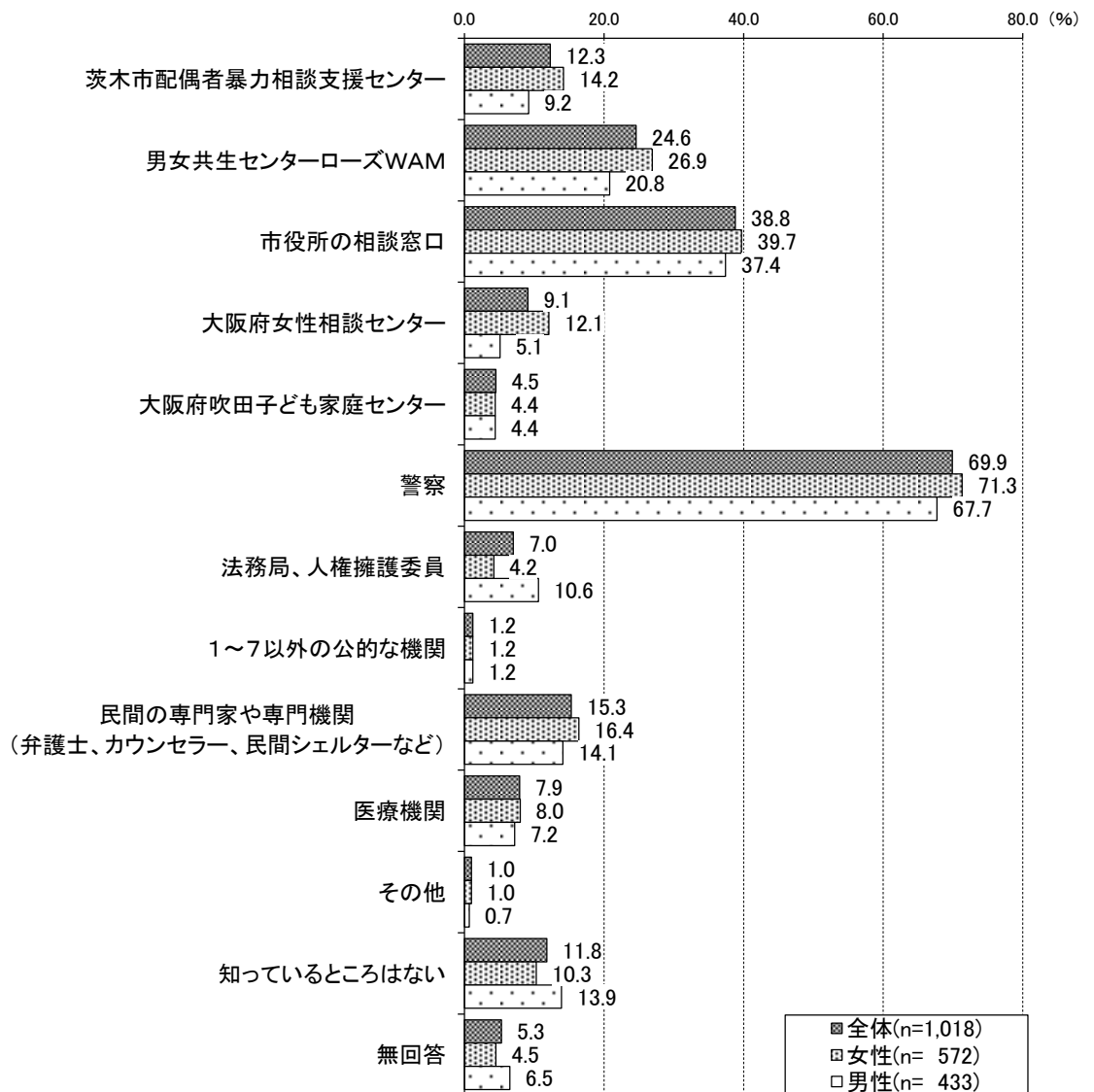
問15 あなたは、配偶者からの暴力などの相談窓口として、どのような機関を知っていますか。知っているものに○をつけてください。(○はいくつでも)

配偶者からの暴力などの相談窓口の認知状況についてたずねたところ、「警察」が69.9%で最も高く、以下「市役所の相談窓口」(38.8%)、「男女共生センター ローズWAM」(24.6%)、「民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど)」(15.3%)、「茨木市配偶者暴力相談支援センター」(12.3%)の順となっている。

性別にみると、「茨木市配偶者暴力相談支援センター」「男女共生センター ローズWAM」「大阪府女性相談センター」はいずれも女性の方が男性よりも5ポイント以上割合が高くなっている。

一方男性は「法務局、人権擁護委員」の割合が女性よりも6.4ポイント高くなっている。

図 性別 配偶者からの暴力についての相談窓口の認知状況



年齢別にみると、女性の20～40歳代と男性の20歳代と50歳代では、「警察」が約8割と高い。

女性の20・30歳代は「民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）」と「医療機関」の割合が他の年齢層と比べて高くなっている。

男性の50歳以上の年齢層では、「市役所の相談窓口」と「法務局、人権擁護委員」の割合が50歳未満の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 配偶者からの暴力についての相談窓口の認知状況

	対象者数（n）	茨木市配偶者暴力相談支援センター	男女共生センター ローズWAM	市役所の相談窓口	大阪府女性相談センター	大阪府吹田子ども家庭センター	警察	法務局、人権擁護委員	1～7以外の公的な機関	民間（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）	民間の専門家や専門機関	医療機関	その他	知っているところはない	無回答
全体	1,018	12.3	24.6	38.8	9.1	4.5	69.9	7.0	1.2	15.3	7.9	1.0	11.8	5.3	
女性	20歳代	46	10.9	26.1	47.8	15.2	4.3	<b>82.6</b>	2.2	2.2	23.9	<b>19.6</b>	-	4.3	2.2
	30歳代	91	11.0	33.0	30.8	12.1	5.5	79.1	2.2	1.1	22.0	11.0	-	9.9	1.1
	40歳代	119	15.1	30.3	37.8	11.8	4.2	77.3	2.5	0.8	19.3	9.2	1.7	10.9	1.7
	50歳代	89	12.4	32.6	44.9	16.9	3.4	71.9	6.7	1.1	12.4	6.7	1.1	9.0	4.5
	60歳代	110	16.4	24.5	46.4	12.7	6.4	66.4	5.5	0.9	13.6	3.6	0.9	10.9	3.6
	70歳以上	115	16.5	15.7	35.7	7.0	2.6	59.1	5.2	1.7	12.2	5.2	1.7	13.0	<b>12.2</b>
男性	20歳代	24	4.2	16.7	37.5	4.2	4.2	<b>83.3</b>	-	-	16.7	12.5	-	8.3	-
	30歳代	60	10.0	20.0	23.3	5.0	6.7	70.0	6.7	3.3	11.7	6.7	-	18.3	5.0
	40歳代	68	8.8	27.9	27.9	7.4	4.4	75.0	4.4	-	17.6	8.8	1.5	13.2	1.5
	50歳代	72	11.1	26.4	41.7	8.3	5.6	<b>80.6</b>	13.9	-	25.0	11.1	-	5.6	4.2
	60歳代	92	12.0	21.7	46.7	6.5	6.5	73.9	15.2	2.2	13.0	6.5	1.1	9.8	3.3
	70歳以上	117	6.8	13.7	40.2	0.9	0.9	46.2	12.8	0.9	6.8	3.4	0.9	21.4	<b>15.4</b>

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

## V 男女共同参画に関する意識・政策及び茨木市の取組について

### (1) 性別役割分担意識

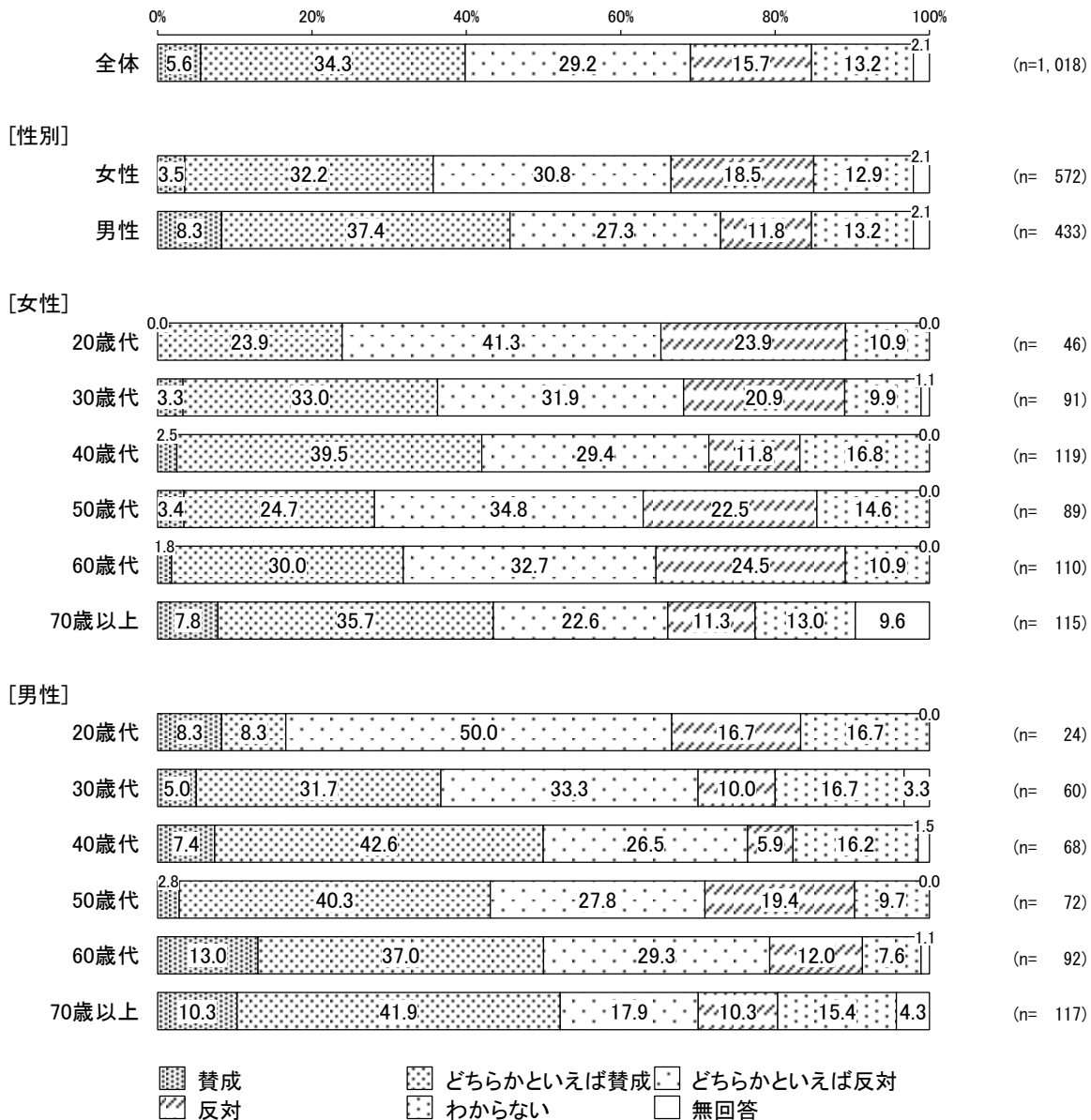
問16 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思うかたずねたところ、「賛成」(5.6%)と「どちらかといえば賛成」(34.3%)を合計した『賛成』が39.9%、「どちらかといえば反対」(29.2%)と「反対」(15.7%)を合計した『反対』が44.9%となっており、『反対』が『賛成』よりも5.0ポイント高くなっている。

性別にみると、女性は『反対』(49.3%)の割合が『賛成』(35.7%)よりも高くなっているが、男性では『賛成』(45.7%)の方が『反対』(39.1%)よりも割合が高くなっている。

年齢別にみると、20歳代の男女は『反対』の割合が高く、女性で65.2%・男性で66.7%となっている。また50・60歳代の女性でも『反対』は6割弱と高い。一方、40歳代と60歳代、70歳以上の男性では『賛成』の割合が高く5割を超えている。

図 性別、性年齢別 性別役割分担意識



## (2) 性別役割分担に賛成する理由

《問16で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

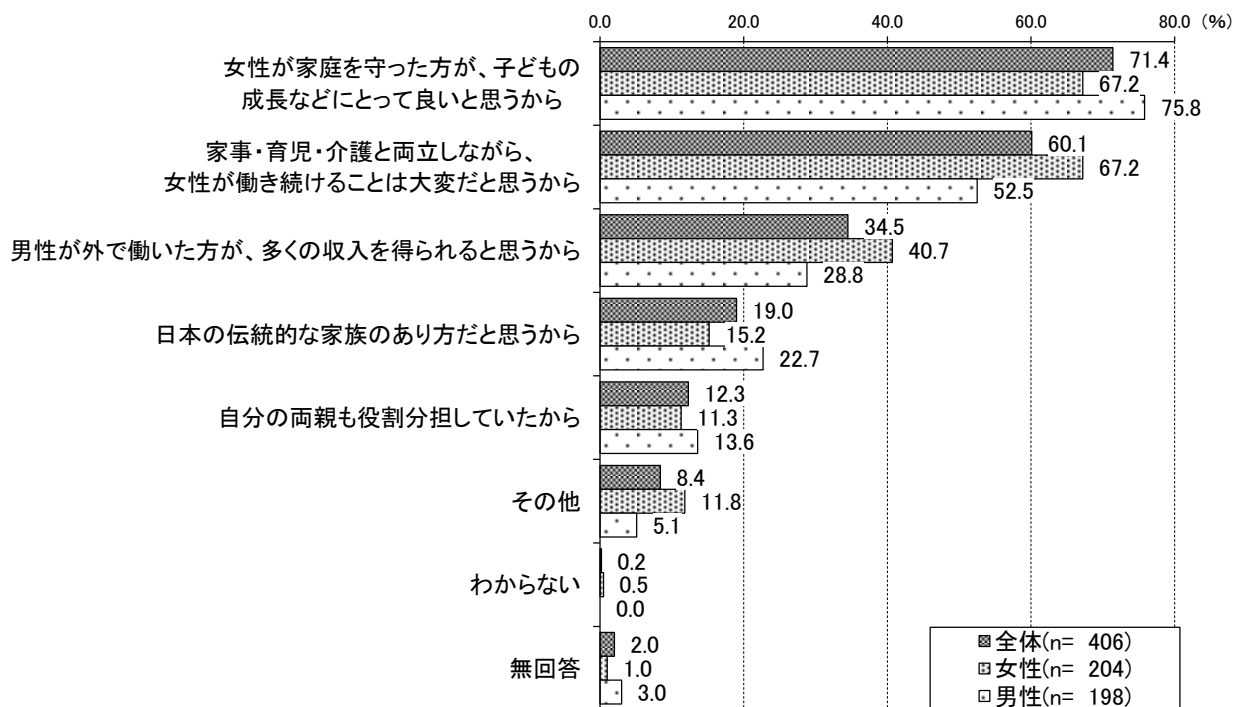
### 問16-1 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

性別役割分担に賛成する人にその理由をたずねたところ、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が71.4%で最も高く、次いで、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が60.1%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が34.5%となっている。

性別にみると、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」は女性67.2%・男性52.5%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は女性40.7%・男性28.8%と、女性の方が10ポイント以上高くなっており、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」は「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」と並んで最も割合の高い項目となっている。

男性では、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が75.8%と特に高くなっている。また、男性では「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」が22.7%と、女性の15.2%より7.5ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担に賛成する理由



年齢別にみると、女性では、20歳代と60歳代、70歳以上では「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」、30～50歳代では、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が最も高くなっている。

男性では、30歳代は「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が77.3%で最も割合の高い項目となっている。30歳代以外の年齢層は「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が最も高くなっており、特に60歳代、70歳以上では8割を超えている。

表 性年齢別 性別役割分担に賛成する理由

	対象者数 (n)	良子女性が家庭を守つた方が、子どもが成長するなど	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	多くの人が外で働いた方が、収入を得られる	あり日本の伝統的な家族の考え方だと思ふから	自分と両親も役割分担したい	その他	わからない	無回答
全体	406	71.4	60.1	34.5	19.0	12.3	8.4	0.2	2.0
女性									
20歳代	11	63.6	<b>81.8</b>	36.4	18.2	<b>36.4</b>	-	-	-
30歳代	33	69.7	60.6	36.4	12.1	12.1	15.2	-	-
40歳代	50	62.0	54.0	42.0	10.0	12.0	18.0	2.0	-
50歳代	25	68.0	64.0	32.0	16.0	4.0	<b>20.0</b>	-	-
60歳代	35	60.0	<b>74.3</b>	<b>51.4</b>	8.6	2.9	5.7	-	5.7
70歳以上	50	76.0	<b>78.0</b>	<b>40.0</b>	<b>26.0</b>	14.0	6.0	-	-
男性									
20歳代	4	100.0	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	-	-
30歳代	22	63.6	<b>77.3</b>	22.7	18.2	4.5	4.5	-	-
40歳代	34	61.8	44.1	17.6	23.5	<b>26.5</b>	5.9	-	-
50歳代	31	77.4	58.1	25.8	22.6	3.2	9.7	-	3.2
60歳代	46	80.4	52.2	30.4	21.7	15.2	-	-	4.3
70歳以上	61	<b>82.0</b>	47.5	36.1	23.0	13.1	4.9	-	4.9

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、対象者数(n)が10未満の属性については網掛けを除外している。

### (3) 性別役割分担に反対する理由

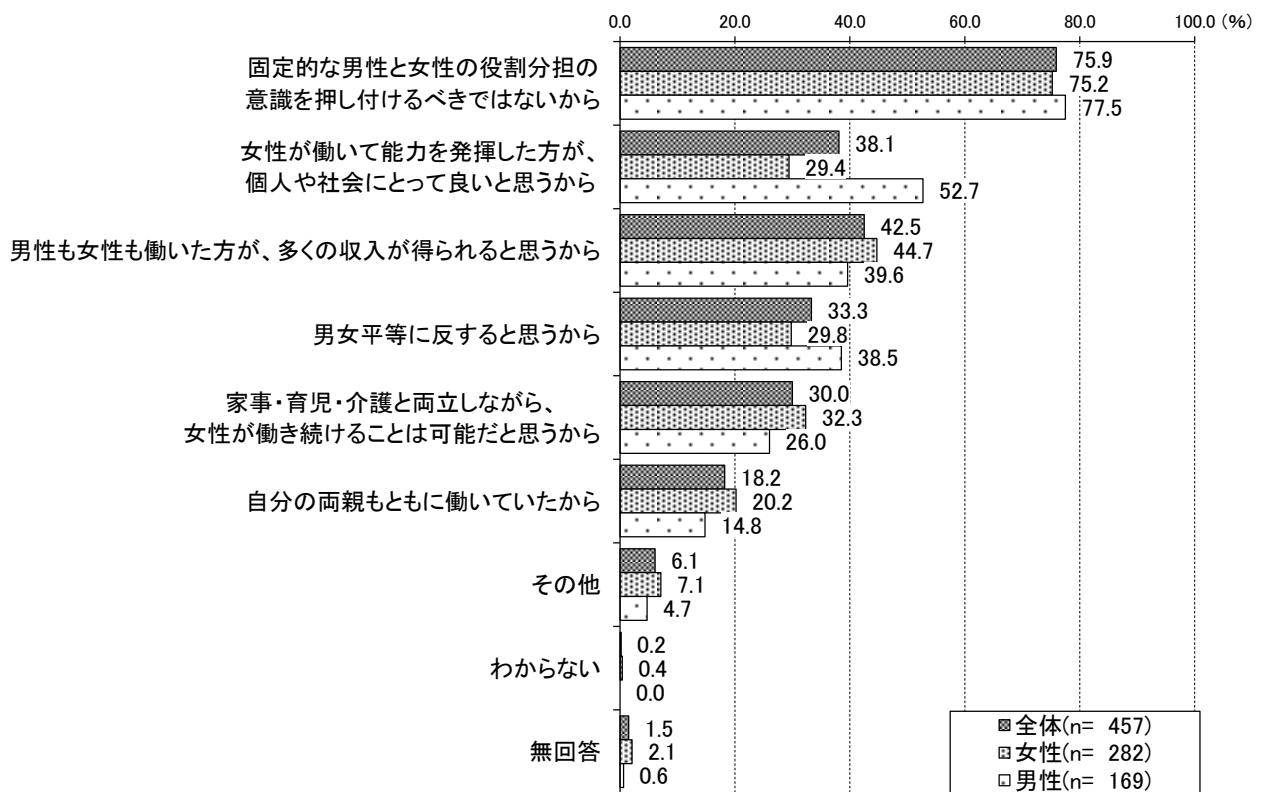
《問16で、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方におたずねします。》

#### 問16-2 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

性別役割分担に反対する人にその理由をたずねたところ、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が75.9%で最も高く、これに「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(42.5%)と「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(38.1%)が約4割、「男女平等に反すると思うから」(33.3%)と「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから」(30.0%)が約3割で続いている。

性別にみると、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は女性29.4%・男性52.7%となっており、男性の方が23.3ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担に反対する理由



年齢別にみると、女性の20・30歳代は「自分の両親もともに働いていたから」が他の年齢層より高く約3割となっている。

男性では、年齢が高い層で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」、年齢が低い層で「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が高くなる傾向がみられる。

表 性年齢別 性別役割分担に反対する理由

	対象者数 (n)	べき分担ではないから	固定的な男性と女性の役割	女性が良いと思うから	男性の収入が得られる方が、	男女平等に反すると	家事・育児・介護と両立し	働いての両親もともに	その他	わからない	無回答
全体	457	75.9	38.1	42.5	33.3	30.0	18.2	6.1	0.2	1.5	
女性											
20歳代	30	80.0	3.3	<b>53.3</b>	30.0	30.0	<b>30.0</b>	13.3	-	-	
30歳代	48	72.9	31.3	45.8	29.2	35.4	<b>29.2</b>	2.1	-	-	
40歳代	49	<b>81.6</b>	26.5	44.9	36.7	34.7	22.4	6.1	-	2.0	
50歳代	51	80.4	27.5	41.2	35.3	<b>37.3</b>	<b>23.5</b>	7.8	-	3.9	
60歳代	63	77.8	31.7	46.0	23.8	27.0	9.5	4.8	-	1.6	
70歳以上	39	53.8	<b>46.2</b>	38.5	25.6	30.8	7.7	<b>12.8</b>	2.6	5.1	
男性											
20歳代	16	68.8	37.5	50.0	25.0	31.3	18.8	<b>12.5</b>	-	-	
30歳代	26	73.1	<b>46.2</b>	50.0	<b>46.2</b>	26.9	19.2	7.7	-	-	
40歳代	22	68.2	<b>63.6</b>	50.0	18.2	18.2	13.6	-	-	-	
50歳代	34	73.5	<b>50.0</b>	38.2	35.3	<b>41.2</b>	17.6	-	-	-	
60歳代	38	<b>86.8</b>	<b>60.5</b>	47.4	39.5	28.9	13.2	5.3	-	-	
70歳以上	33	<b>84.8</b>	<b>51.5</b>	12.1	<b>54.5</b>	9.1	9.1	6.1	-	3.0	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

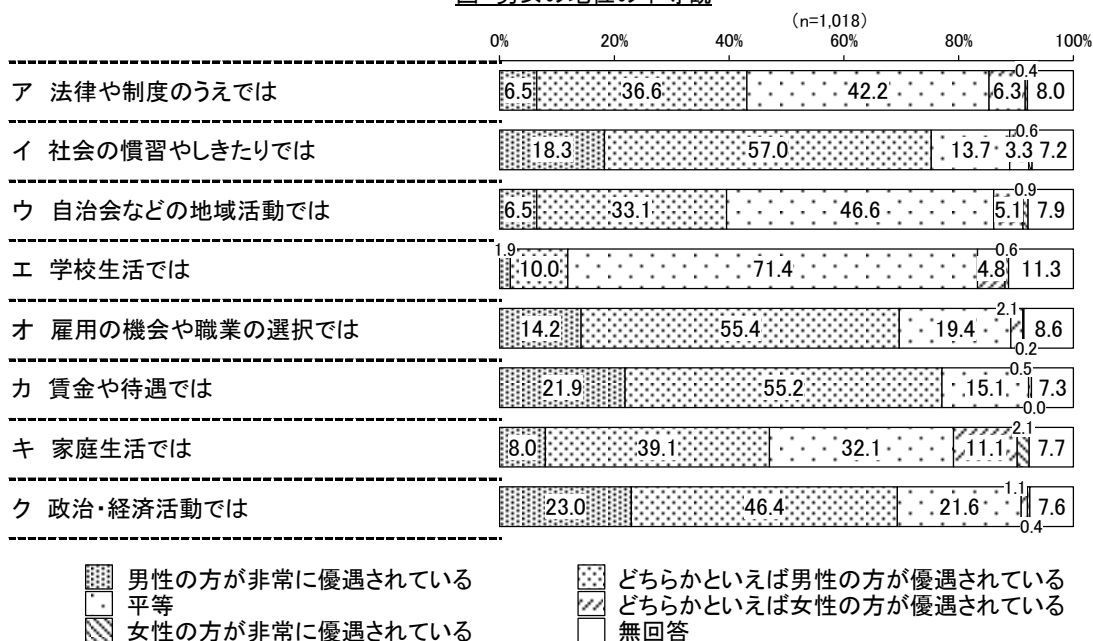
(4)男女の地位の平等観

問17 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

社会の様々な分野において男女の地位がどの程度平等になっていると思うかたずねたところ、「エ 学校生活では」は「平等」が71.4%と高くなっている。また、「ウ 自治会などの地域活動では」は「平等」が46.6%と、『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)の39.6%より7.0ポイント高くなっている。

そのほかの分野はいずれも「平等」よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、特に「カ 賃金や待遇では」(77.1%)、「イ 社会の慣習やしきたりでは」(75.3%)、「オ 雇用の機会や職業の選択では」(69.6%)、「ク 政治・経済活動では」(69.4%)で『男性優遇』の割合が高くなっている。

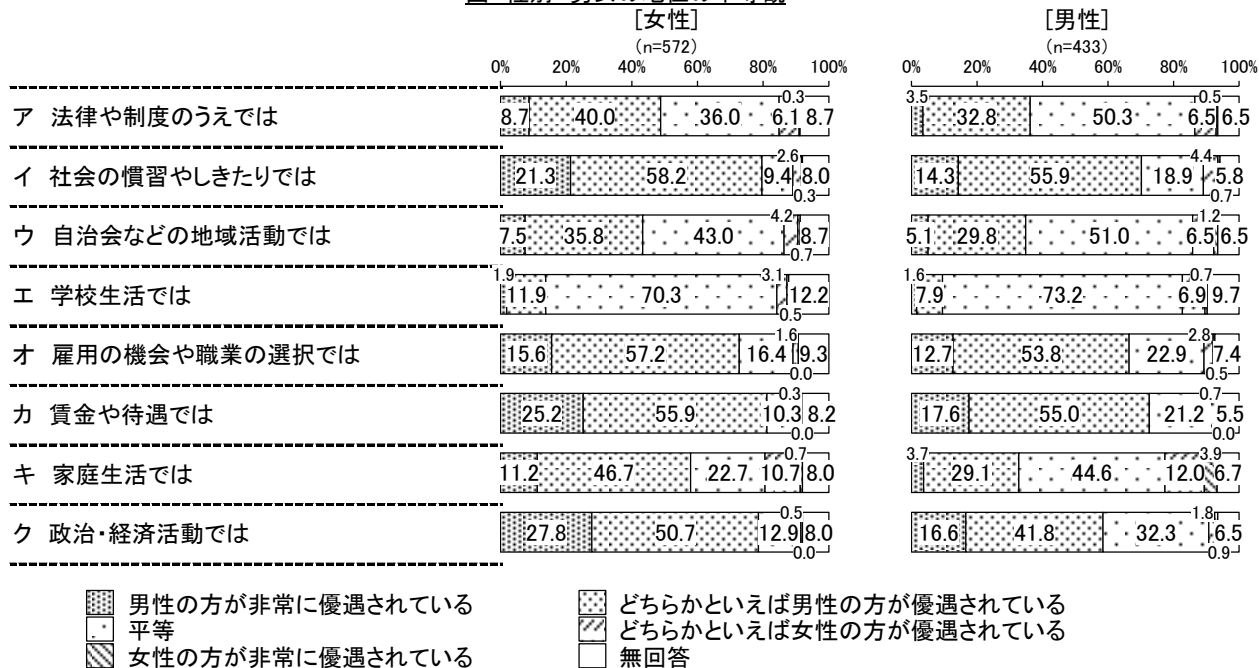
図 男女の地位の平等観





性別にみると、いずれの分野でも『男性優遇』と回答した人の割合は女性のほうが男性よりも高くなっており、特に「キ 家庭生活では」「ク 政治・経済活動では」「ア 法律や制度のうえでは」で、性別による意識の違いが大きくなっている。

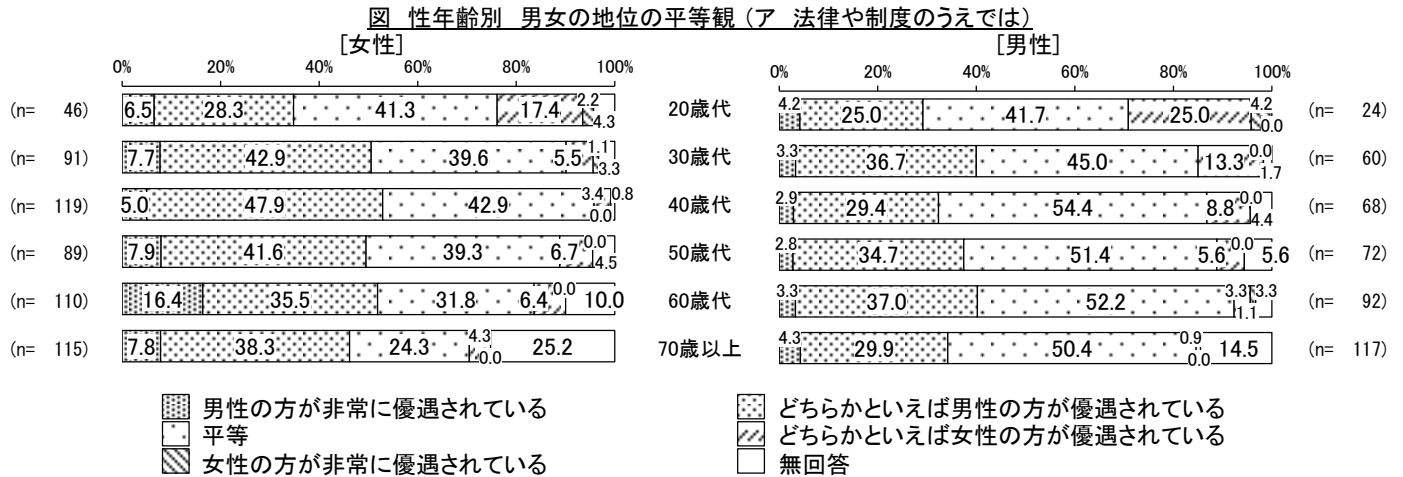
図 性別 男女の地位の平等観



■ア 法律や制度のうえでは

20歳代は、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が女性17.4%・男性25.0%と、他の年代と比べて高くなっている。

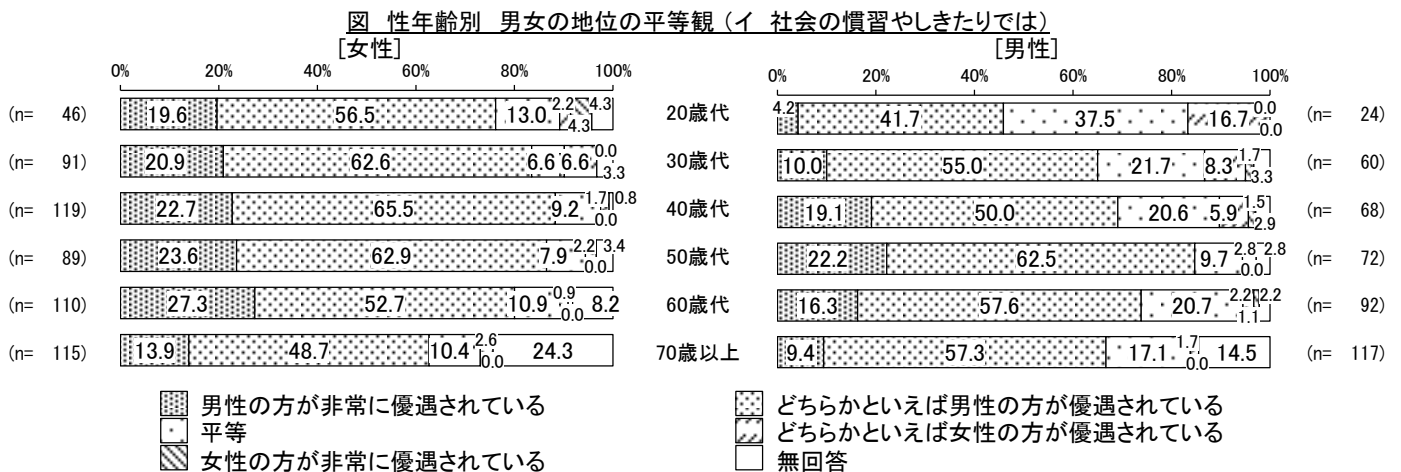
40歳以上の年齢層では、男性は「平等」がいずれの年齢層でも5割を超えているが、女性では年齢が高くなるにつれて、「平等」の割合が低くなっている。



■イ 社会の慣習やしきたりでは

女性では、30～60歳代は『男性優遇』が8割以上となっている。

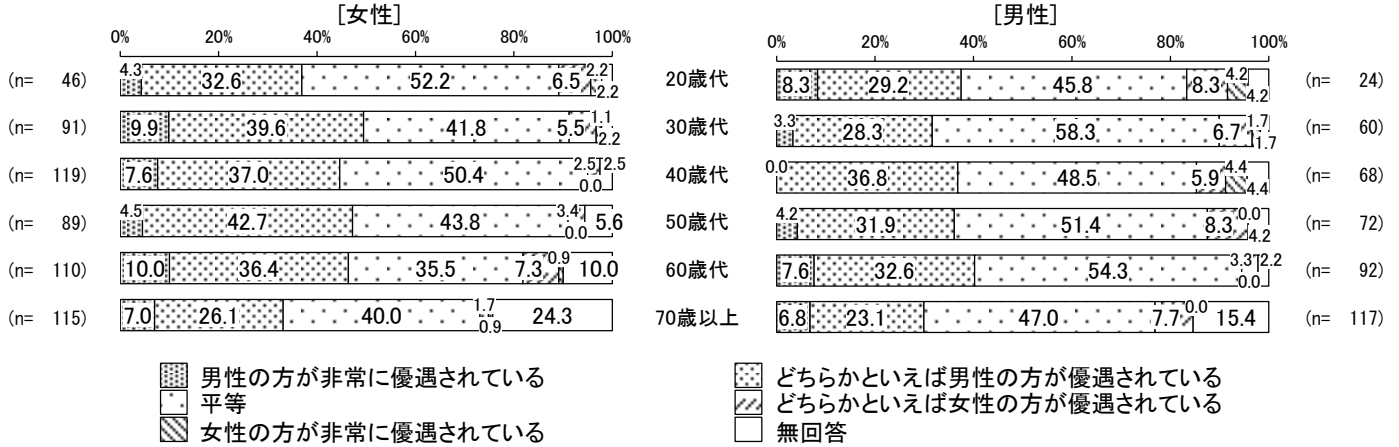
男性では、『男性優遇』が20歳代で45.9%、50歳代で84.7%となっており、20歳代から50歳代にかけて年齢が高くなるにつれて『男性優遇』の割合が高くなる傾向がみられる。



■ウ 自治会などの地域活動では

男性は、いずれの年齢層でも「平等」の割合が『男性優遇』よりも高くなっているが、女性では、30・50・60歳代で、『男性優遇』の割合が「平等」よりも高くなっている。

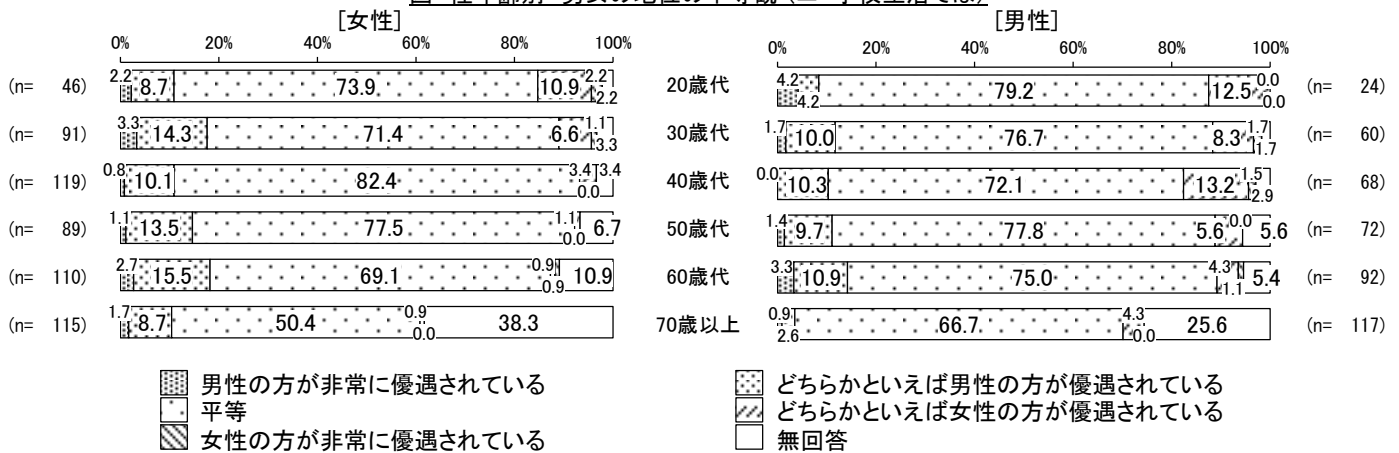
図 性年齢別 男女の地位の平等観（ウ 自治会などの地域活動では）



■エ 学校生活では

いずれの年齢層でも「平等」が高い割合を占めている。

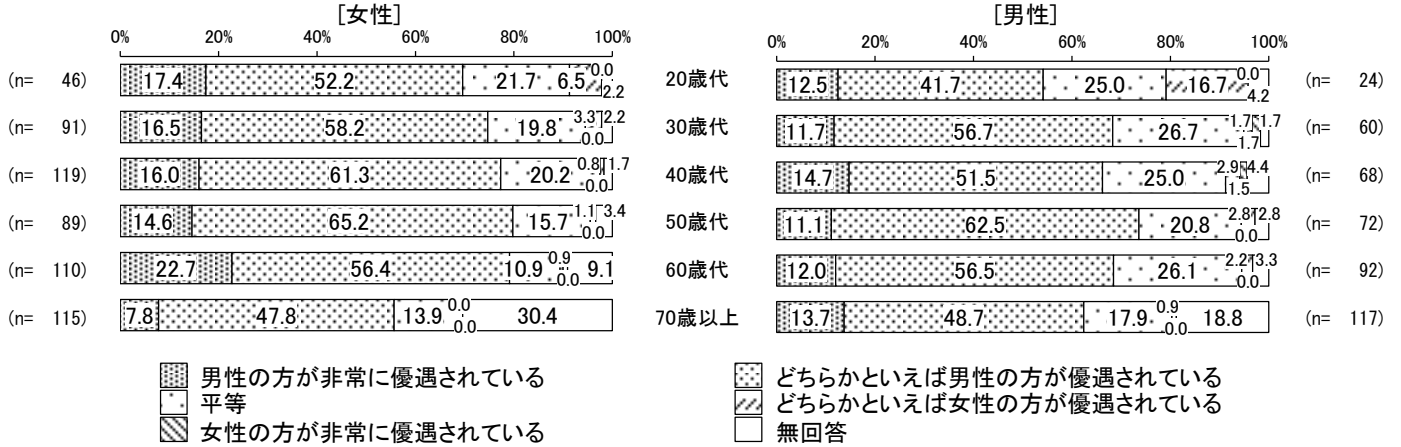
図 性年齢別 男女の地位の平等観（エ 学校生活では）



■オ 雇用の機会や職業の選択では

20歳代から60歳代にかけて、年齢が高くなるにつれて『男性優遇』の割合が高くなる傾向が男女ともにみられる。

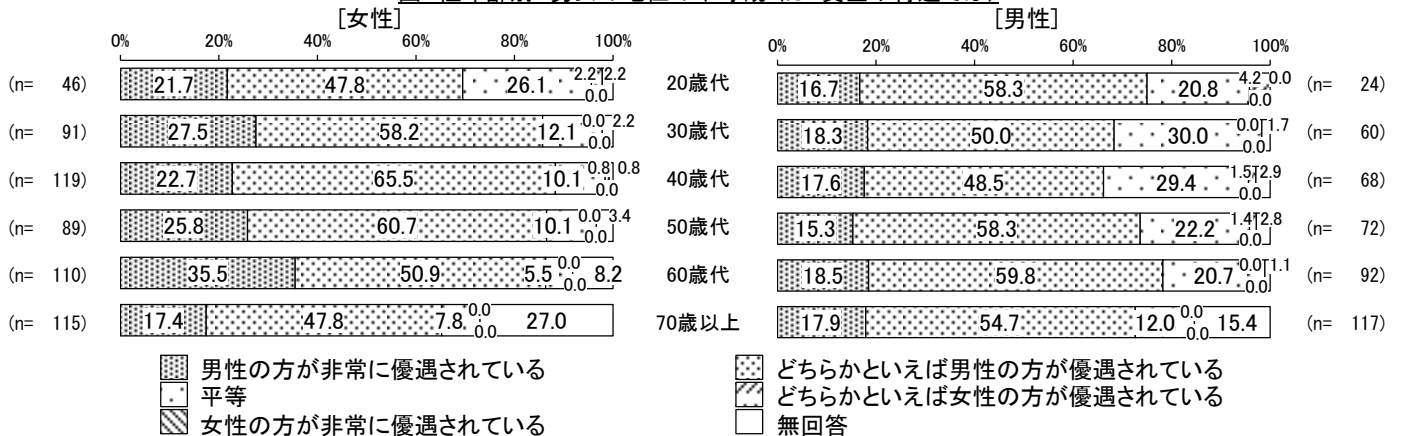
図 性年齢別 男女の地位の平等観（オ 雇用の機会や職業の選択では）



■カ 賃金や待遇では

いずれの性年齢層でも『男性優遇』の割合が高くなっているが、女性の20歳代と男性の20～60歳代では「平等」が2割を超えている。

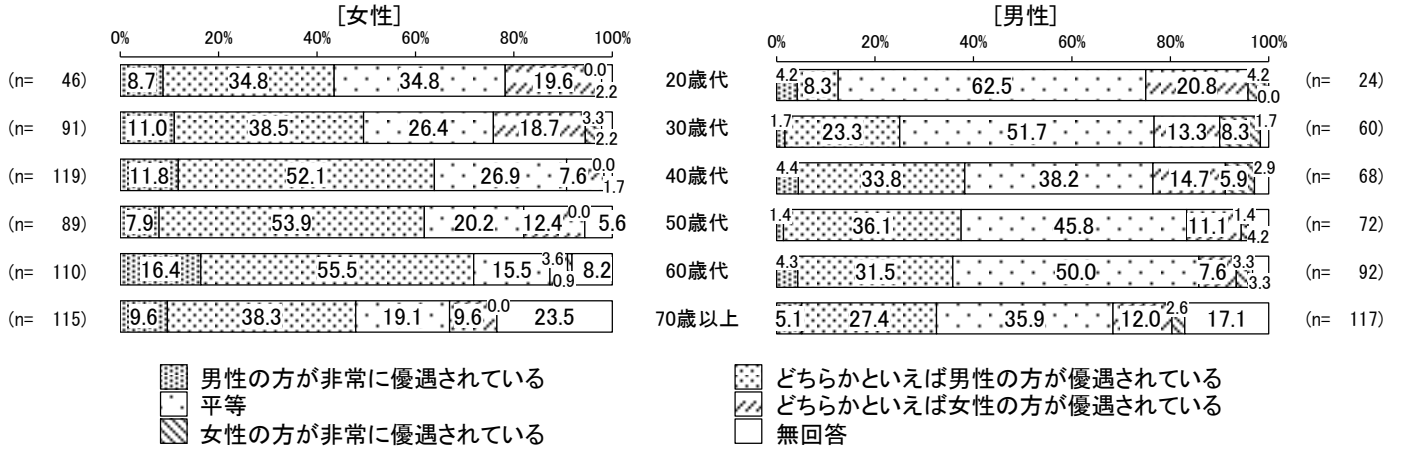
図 性年齢別 男女の地位の平等観（カ 賃金や待遇では）



■キ 家庭生活では

女性では、40～60歳代で『男性優遇』が6割を超えているが、男性では20・30・60歳代で「平等」が5割以上となっている。

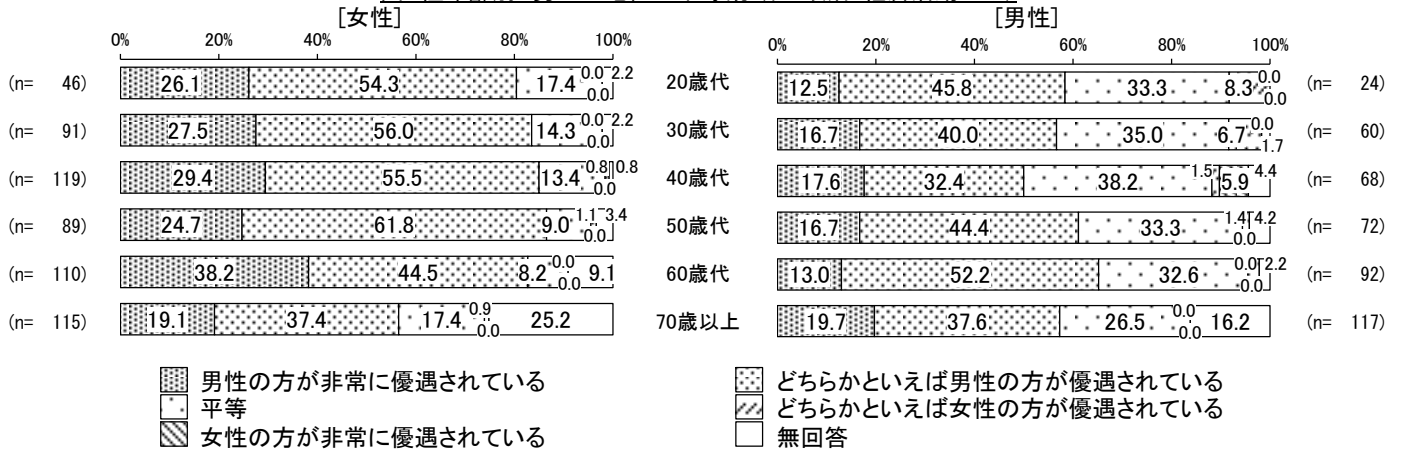
図 性年齢別 男女の地位の平等観 (キ 家庭生活では)



■ク 政治・経済活動では

女性は20～60歳代はいずれも『男性優遇』が8割を超えている。  
男性では20・30歳代と70歳以上は『男性優遇』が5割台となっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 (ク 政治・経済活動では)



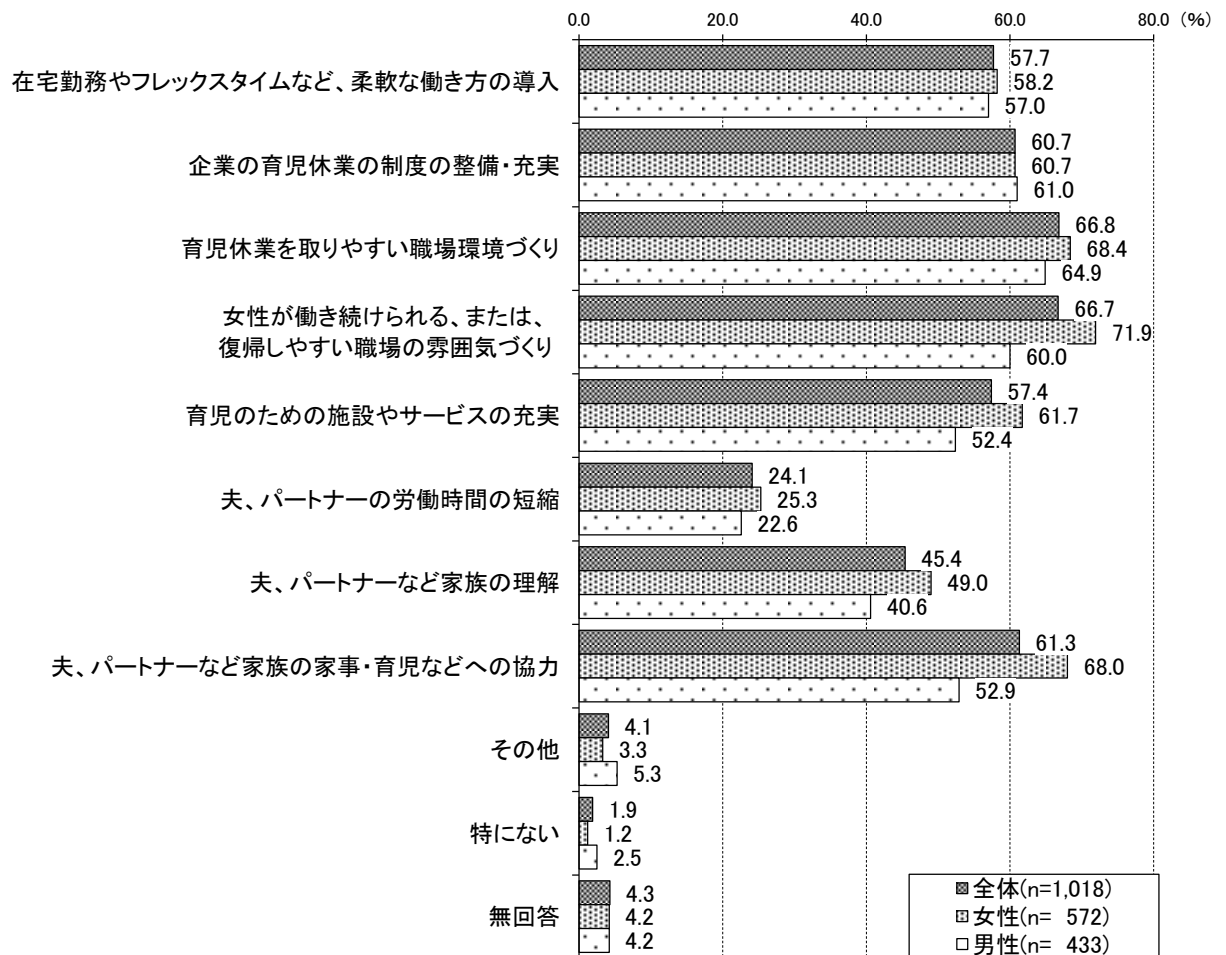
(5) 女性が出産後も働き続けやすい社会をつくるために必要なこと

問18 あなたは、女性が、出産・子育てなどが理由で辞めることなく働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性が出産・子育てなどの理由で辞めることなく働き続けるために必要なことをたずねたところ、「育児休業を取りやすい職場環境づくり」が66.8%で最も高く、次いで「女性が働き続けられる、または、復帰しやすい職場の雰囲気づくり」が66.7%と僅差で続いている。また、「夫、パートナーなど家族の家事・育児などへの協力」(61.3%)、「企業の育児休業の制度の整備・充実」(60.7%)、「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の導入」(57.7%)、「育児のための施設やサービスの充実」(57.4%)の4項目も約6割と高い。

性別にみると、「夫、パートナーなど家族の家事・育児などへの協力」は女性68.0%・男性52.9%、「女性が働き続けられる、または、復帰しやすい職場の雰囲気づくり」は女性71.9%・男性60.0%と、それぞれ15.1ポイント、11.9ポイント、女性の方が割合が高くなっている。

図 性別 女性が出産後も働き続けやすい社会をつくるために必要なこと



年齢別にみると、女性では、20歳代は「育児休業を取りやすい職場環境づくり」(84.8%)、30歳代は「女性が働き続けられる、または、復帰しやすい職場の雰囲気づくり」(80.2%)、40歳代は「夫、パートナーなど家族の家事・育児などへの協力」(71.4%)の割合が最も高くなっている。

男性では、20・30歳代は、「夫、パートナーの労働時間の短縮」が他の年齢層よりも高くなっている。

表 性年齢別 女性が出産後も働き続けやすい社会をつくるために必要なこと

	対象者数 (n)	働き方などの導入	在宅勤務やフレックス	企業の育児休業の整備・充実	育児休業環境づくり	職場復帰しやすい	女性が働き続けられる、復帰しやすい	育児のための施設や	夫、パートナーの労働時間の短縮	夫、パートナーなど家族の理解	夫、パートナーなど家族の家事・育児への協力	その他	特になし	無回答
全体	1,018	57.7	60.7	66.8	66.7	57.4	24.1	45.4	61.3	4.1	1.9	4.3		
女性														
20歳代	46	67.4	<b>73.9</b>	<b>84.8</b>	69.6	<b>69.6</b>	19.6	54.3	<b>78.3</b>	6.5	-	2.2		
30歳代	91	<b>72.5</b>	64.8	68.1	<b>80.2</b>	<b>73.6</b>	<b>34.1</b>	46.2	68.1	8.8	-	-		
40歳代	119	62.2	57.1	66.4	68.1	58.8	29.4	53.8	<b>71.4</b>	4.2	-	1.7		
50歳代	89	<b>69.7</b>	67.4	71.9	76.4	65.2	29.2	<b>60.7</b>	<b>76.4</b>	2.2	2.2	1.1		
60歳代	110	50.9	60.9	70.9	70.9	58.2	21.8	45.5	64.5	0.9	0.9	5.5		
70歳以上	115	36.5	49.6	58.3	67.0	52.2	17.4	38.3	56.5	-	3.5	12.2		
男性														
20歳代	24	66.7	<b>75.0</b>	75.0	75.0	41.7	<b>45.8</b>	54.2	70.8	4.2	-	-		
30歳代	60	61.7	65.0	68.3	60.0	55.0	<b>38.3</b>	53.3	61.7	8.3	1.7	-		
40歳代	68	52.9	58.8	67.6	<b>72.1</b>	42.6	23.5	39.7	55.9	5.9	2.9	2.9		
50歳代	72	<b>63.9</b>	<b>68.1</b>	66.7	54.2	52.8	26.4	43.1	58.3	1.4	2.8	2.8		
60歳代	92	62.0	60.9	68.5	59.8	<b>67.4</b>	21.7	42.4	47.8	4.3	1.1	3.3		
70歳以上	117	47.0	53.0	55.6	53.8	47.0	7.7	29.1	43.6	6.8	4.3	9.4		

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

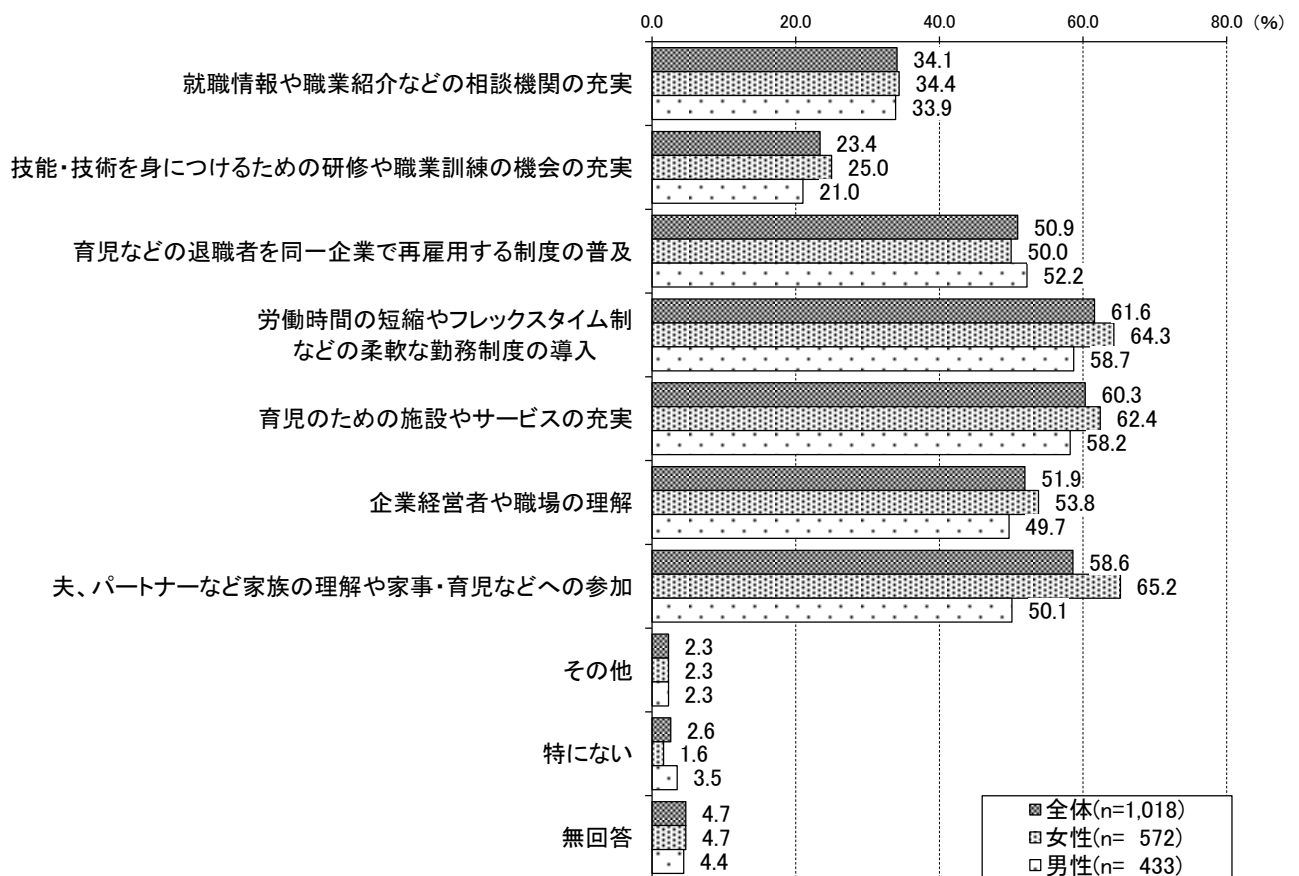
(6) 女性が再就職しやすい社会をつくるために必要なこと

問19 あなたは、再就職を希望する女性が、出産・子育てなどで仕事を辞めた後、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

再就職を希望する女性が、出産・子育てなどで仕事を辞めた後、再就職しやすくなるために必要なことをたずねたところ、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(61.6%)、「育児のための施設やサービスの充実」(60.3%)、「夫、パートナーなど家族の理解や家事・育児などへの参加」(58.6%)の3項目の割合が高くなっている。また、「企業経営者や職場の理解」(51.9%)と「育児などの退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(50.9%)の割合も5割を超えている。

性別にみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事・育児などへの参加」は女性65.2%・男性50.1%と女性の方が15.1ポイント高くなっている。

図 性別 女性が再就職しやすい社会をつくるために必要なこと





年齢別にみると、女性では、20歳代は「育児のための施設やサービスの充実」が78.3%で最も高く、続く「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(71.7%)、「企業経営者や職場の理解」(63.0%)、「育児などの退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(60.9%)も6割を超えて高い。30歳代は「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が73.6%、40歳以上の年齢層では「夫、パートナーなど家族の理解や家事・育児などへの参加」の割合が最も高くなっている。

男性では20歳代は「育児のための施設やサービスの充実」と「夫、パートナーなど家族の理解や家事・育児などへの参加」(ともに37.5%)が全体よりも割合が低くなっている。

表 性年齢別 女性が再就職しやすい社会をつくるために必要なこと

	対象者数 (n)	相就職機 談情機 関報の 充職充 実実 紹介な どの	のた技 機能 会の研 の充修 実や 職業 訓練	の企育 普業児 及でな 再雇 用す る制 度同	柔フ 軟レ なツ 勤ク 務ス 制タ 度イ のム 導制 入な どの	サ育 ー児 ビの スた のめ 充の 実施 設 や	企 業 経 営 者 や 職 場 の 理 解	参理 加解 や 家 事 ・ 育 児 な ど 家 族 の	夫、 パ ー ト ナ ー な ど 家 族 の	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	1,018	34.1	23.4	50.9	61.6	60.3	51.9	58.6	2.3	2.6	4.7	
女性												
20歳代	46	32.6	13.0	60.9	71.7	78.3	63.0	58.7	2.2	-	2.2	
30歳代	91	37.4	31.9	49.5	73.6	69.2	58.2	67.0	5.5	-	-	
40歳代	119	37.8	23.5	42.0	68.9	62.2	47.9	71.4	2.5	2.5	0.8	
50歳代	89	33.7	28.1	56.2	73.0	64.0	57.3	74.2	1.1	-	1.1	
60歳代	110	32.7	22.7	49.1	65.5	60.9	58.2	68.2	0.9	-	6.4	
70歳以上	115	30.4	25.2	49.6	40.9	50.4	45.2	50.4	1.7	5.2	14.8	
男性												
20歳代	24	50.0	16.7	54.2	66.7	37.5	45.8	37.5	-	4.2	-	
30歳代	60	30.0	15.0	45.0	65.0	65.0	55.0	58.3	1.7	-	1.7	
40歳代	68	35.3	17.6	51.5	66.2	54.4	51.5	57.4	2.9	4.4	1.5	
50歳代	72	31.9	19.4	56.9	55.6	63.9	52.8	56.9	-	2.8	2.8	
60歳代	92	32.6	28.3	58.7	66.3	66.3	53.3	55.4	3.3	1.1	3.3	
70歳以上	117	34.2	22.2	47.9	45.3	51.3	41.9	35.9	3.4	6.8	10.3	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

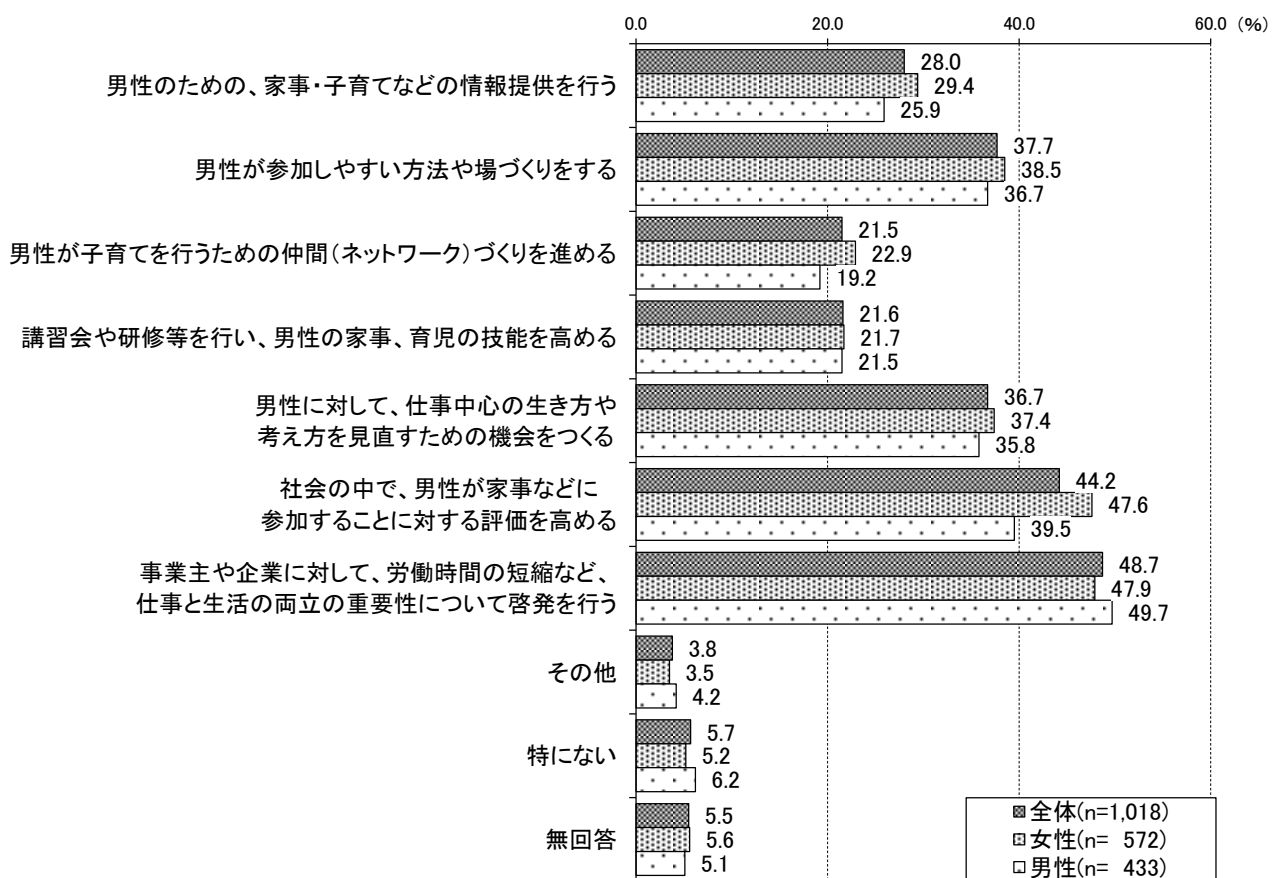
(7) 男性が家事、子育てに積極的に参加していく社会をつくるために必要なこと

問20 あなたは、今後、男性が家事、子育てに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男性が家事、子育てに積極的に参加していくために必要なことをたずねたところ、「事業主や企業に対して、労働時間の短縮など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う」が48.7%で最も高く、次いで「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」(44.2%)、「男性が参加しやすい方法や場づくりをする」(37.7%)、「男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる」(36.7%)の順となっている。

性別にみると、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」は女性(47.6%)が男性(39.5%)より8.1ポイント高くなっている。

図 性別 男性が家事、子育てに積極的に参加していく社会をつくるために必要なこと



年齢別にみると、20歳代の男性は「男性が参加しやすい方法や場づくりをする」が58.3%で最も高く、次いで、「男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる」が54.2%、「男性が子育てを行うための仲間(ネットワーク)づくりを進める」と「講習会や研修等を行い、男性の家事、育児の技能を高める」がともに41.7%となっており、いずれも他の年齢層よりも割合が高い。

「男性が参加しやすい方法や場づくりをする」は女性の20歳代でも54.3%と他の年齢層と比べて割合が高くなっている。

表 性年齢別 男性が家事、子育てに積極的に参加していく社会をつくるために必要なこと

	対象者数 (n)	男性の情報のため、家事・子育て	男性が参加しやすい方法や場づくりをする	男性が子育てを行うための仲間(ネットワーク)づくりを進める	講習会や研修等を行い、男性の技能を高める	男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる	社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める	重要短縮など、企業に対して、労働時間の短縮や生活の両立の促進を図る	その他	特になし	無回答
全体	1,018	28.0	37.7	21.5	21.6	36.7	44.2	48.7	3.8	5.7	5.5
女性											
20歳代	46	32.6	<b>54.3</b>	<b>32.6</b>	13.0	43.5	<b>54.3</b>	<b>58.7</b>	2.2	4.3	2.2
30歳代	91	28.6	34.1	23.1	20.9	35.2	53.8	53.8	4.4	7.7	-
40歳代	119	30.3	38.7	22.7	21.0	38.7	44.5	47.9	4.2	5.9	0.8
50歳代	89	33.7	<b>48.3</b>	21.3	15.7	42.7	<b>55.1</b>	52.8	4.5	-	1.1
60歳代	110	29.1	32.7	18.2	20.9	34.5	50.0	42.7	2.7	6.4	7.3
70歳以上	115	25.2	33.0	25.2	<b>32.2</b>	33.9	33.9	40.0	2.6	6.1	<b>18.3</b>
男性											
20歳代	24	33.3	<b>58.3</b>	<b>41.7</b>	<b>41.7</b>	<b>54.2</b>	33.3	54.2	-	-	-
30歳代	60	16.7	36.7	15.0	15.0	33.3	46.7	58.3	8.3	3.3	1.7
40歳代	68	26.5	42.6	23.5	11.8	39.7	47.1	48.5	7.4	10.3	1.5
50歳代	72	22.2	36.1	15.3	19.4	43.1	41.7	58.3	2.8	5.6	2.8
60歳代	92	33.7	37.0	20.7	23.9	30.4	42.4	57.6	3.3	5.4	4.3
70歳以上	117	24.8	29.1	15.4	25.6	30.8	29.1	33.3	2.6	7.7	<b>12.0</b>

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

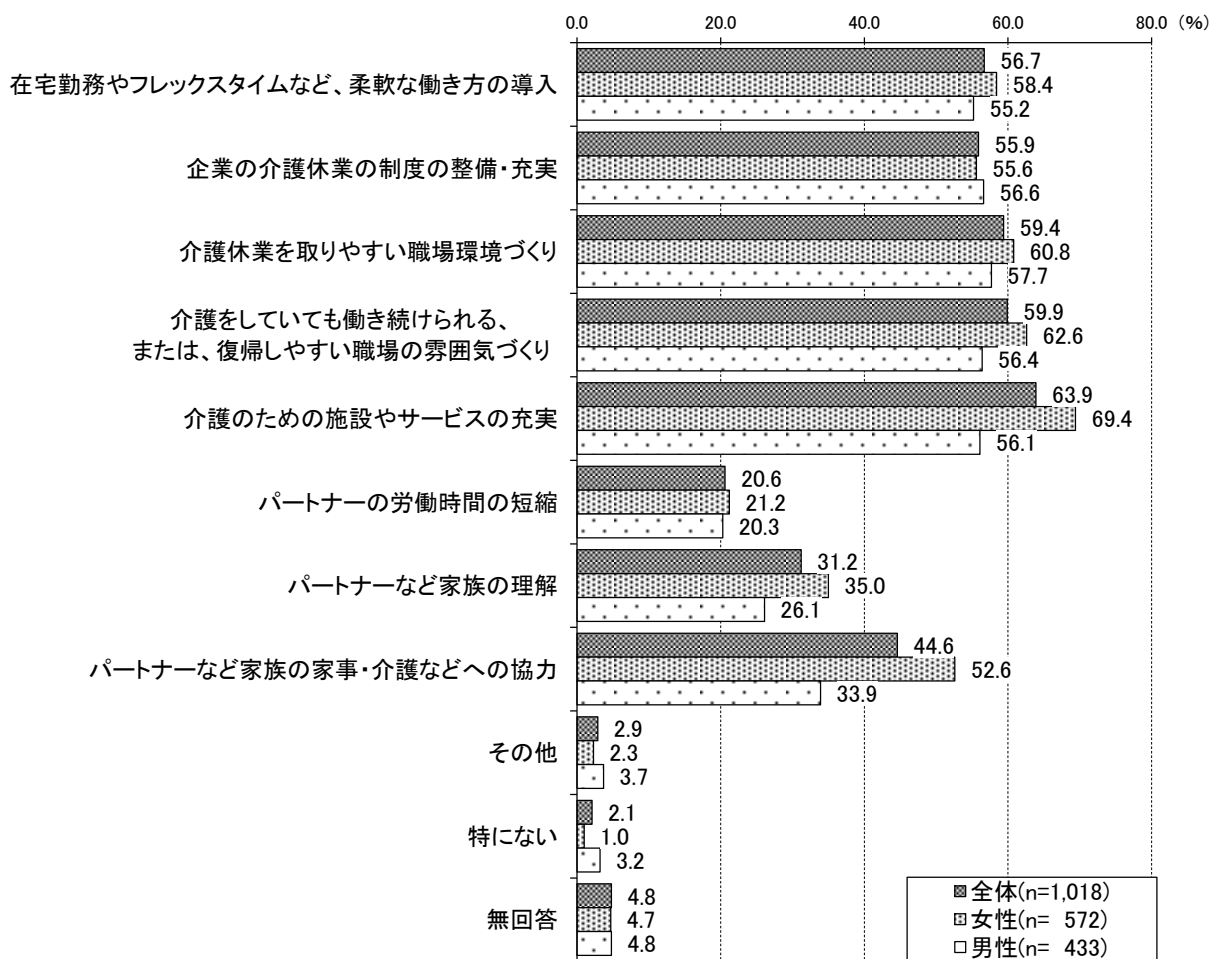
(8) 介護をしながらも働き続けやすい社会をつくるために必要なこと

問21 あなたは、介護が理由で辞めることなく働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

介護が理由で辞めることなく働き続けるために必要なことをたずねたところ、「介護のための施設やサービスの充実」が63.9%で最も高く、次いで「介護をしても働き続けられる、または、復帰しやすい職場の雰囲気づくり」が59.9%、「介護休業を取りやすい職場環境づくり」が59.4%、「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の導入」が56.7%、「企業の介護休業の制度の整備・充実」が55.9%などとなっている。

性別にみると、「パートナーなど家族の家事・介護などへの協力」は女性52.6%・男性33.9%で女性の方が18.7ポイント、また「介護のための施設やサービスの充実」は女性69.4%・男性56.1%と女性の方が13.3ポイント高くなっている。

図 性別 介護をしながらも働き続けやすい社会をつくるために必要なこと



年齢別にみると、女性では30歳代は「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の導入」、30歳以外の年齢層は「介護のための施設やサービスの充実」の割合が最も高くなっている。また、40・50歳代では「パートナーなど家族の家事・介護などへの協力」が他の年齢層よりも高く6割強となっている。

男性では、20歳代は「介護をしても働き続けられる、または、復帰しやすい職場の雰囲気づくり」(75.0%)、30歳代は「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の導入」(63.3%)、40歳代は「介護休業を取りやすい職場環境づくり」(70.6%)の割合が最も高くなっている。

表 性年齢別 介護をしながらでも働き続けやすい社会をつくるために必要なこと

	対象者数 (n)	在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の導入	企業の介護休業の制度の整備・充実	介護休業を取りやすい職場環境づくり	介護をしても働き続けられる、または、復帰しやすい職場の雰囲気づくり	介護のための施設やサービスの充実	パートナ-の労働時間の短縮	パートナ-など家族の理解	パートナ-など家族の協力	その他	特にない	無回答
全体	1,018	56.7	55.9	59.4	59.9	63.9	20.6	31.2	44.6	2.9	2.1	4.8
女性												
20歳代	46	58.7	65.2	67.4	54.3	69.6	13.0	45.7	52.2	6.5	-	2.2
30歳代	91	75.8	58.2	65.9	68.1	65.9	25.3	37.4	48.4	3.3	1.7	-
40歳代	119	70.6	53.8	57.1	58.8	73.9	24.4	41.2	60.5	3.4	1.7	2.5
50歳代	89	67.4	62.9	74.2	66.3	76.4	30.3	43.8	62.9	-	-	1.1
60歳代	110	49.1	55.5	56.4	70.0	73.6	16.4	22.7	43.6	-	-	4.5
70歳以上	115	33.9	45.2	52.2	54.8	57.4	15.7	27.0	47.8	2.6	3.5	14.8
男性												
20歳代	24	58.3	66.7	66.7	75.0	54.2	25.0	45.8	54.2	8.3	-	-
30歳代	60	63.3	58.3	58.3	58.3	55.0	28.3	35.0	35.0	3.3	-	1.7
40歳代	68	60.3	66.2	70.6	69.1	63.2	23.5	32.4	33.8	5.9	2.9	1.5
50歳代	72	59.7	59.7	59.7	56.9	56.9	22.2	29.2	36.1	1.4	1.4	2.8
60歳代	92	57.6	59.8	55.4	63.0	63.0	16.3	25.0	40.2	3.3	3.3	3.3
70歳以上	117	42.7	43.6	48.7	38.5	47.0	15.4	12.8	23.1	3.4	6.8	12.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

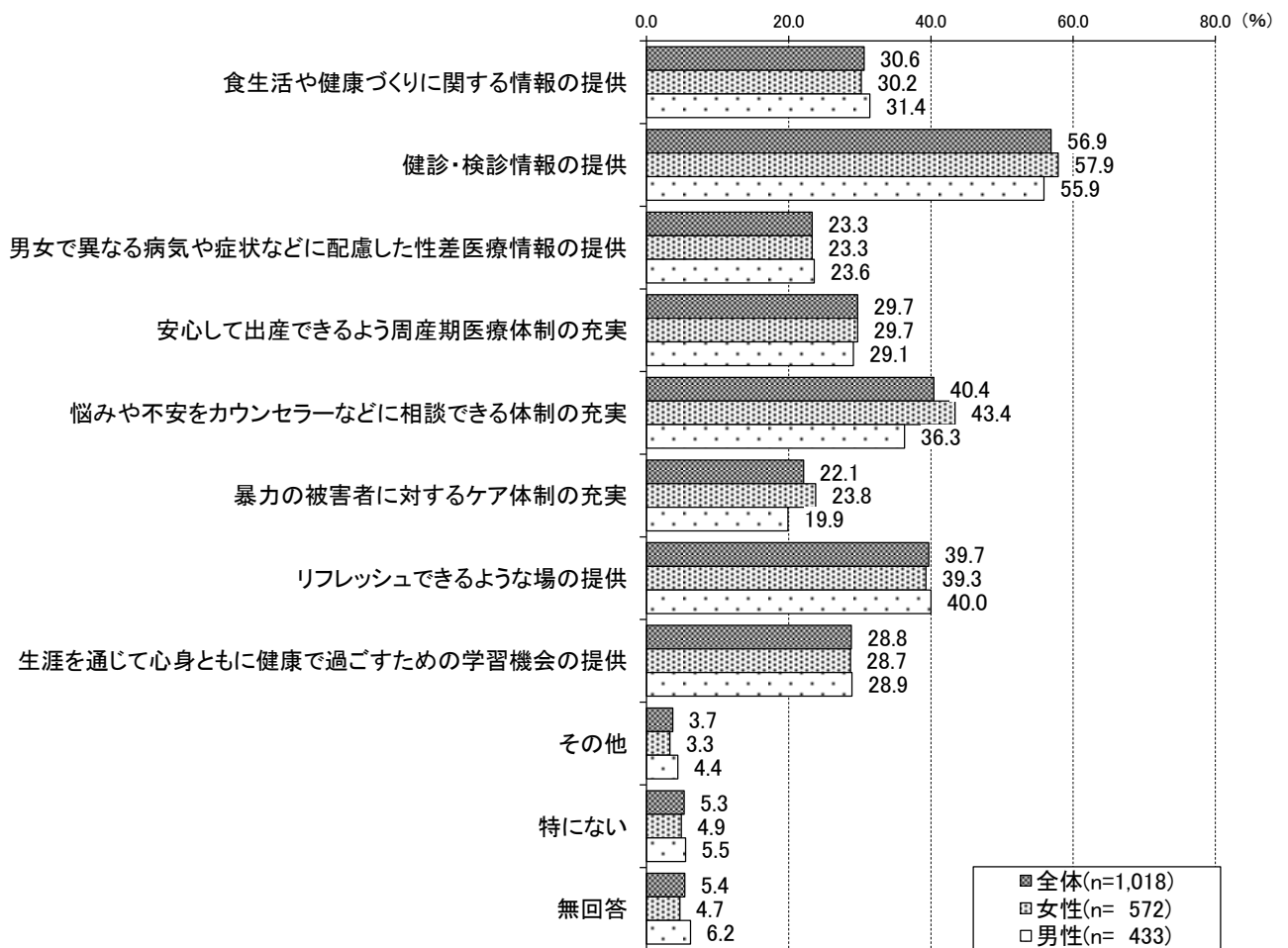
(9)心と体の健康を保つために必要な取組

問22 あなたは、心と体の健康を保つために、茨木市はどのような取組をする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

心と体の健康を保つために必要な取組についてたずねたところ、「健診・検診情報の提供」が56.9%で最も高く、次いで「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制の充実」が40.4%、「リフレッシュできるような場の提供」が39.7%となっている。

性別にみると、男女ともに「健診・検診情報の提供」が5割を超えて最も割合が高くなっているが、これに次いで女性では「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制の充実」(43.4%)、男性では「リフレッシュできるような場の提供」(40.0%)の割合が高くなっている。

図 性別 心と体の健康を保つために必要な取組



年齢別にみると、いずれの年齢層でも「健診・検診情報の提供」の割合が最も高くなっている。「健診・検診情報の提供」に次いで、女性では20・30歳代は「安心して出産できるような周産期医療体制の充実」、40～60歳代は「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制の充実」、70歳以上は「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会の提供」の割合が高くなっている。

表 性年齢別 心と体の健康を保つために必要な取組

	対象者数 (n)	食生活や健康づくりに関する情報の提供	健診・検診情報の提供	性差・医療情報提供	男女で異なる病気の発生や	安心した出産できる体制	不安や不安をカウンセ	できる体制の充実	悩みや不安をカウンセ	ケ暴力の被害者に対する	リフレクシユできる	生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会の提供	その他	特にな	無回答
全体	1,018	30.6	56.9	23.3	29.7	40.4	22.1	39.7	28.8	3.7	5.3	5.4			
女性	20歳代	46	19.6	<b>69.6</b>	26.1	<b>52.2</b>	50.0	28.3	<b>50.0</b>	15.2	4.3	2.2	-		
	30歳代	91	22.0	59.3	26.4	<b>48.4</b>	42.9	31.9	45.1	22.0	3.3	6.6	2.2		
	40歳代	119	28.6	61.3	31.9	27.7	42.9	21.0	41.2	29.4	5.0	5.0	-		
	50歳代	89	31.5	<b>69.7</b>	19.1	21.3	<b>50.6</b>	28.1	37.1	29.2	3.4	1.1	2.2		
	60歳代	110	35.5	52.7	22.7	22.7	43.6	22.7	39.1	28.2	0.9	2.7	2.7		
	70歳以上	115	37.4	43.5	13.9	20.9	34.8	15.7	30.4	<b>39.1</b>	3.5	9.6	<b>17.4</b>		
男性	20歳代	24	<b>50.0</b>	62.5	<b>33.3</b>	<b>50.0</b>	45.8	<b>33.3</b>	<b>54.2</b>	29.2	-	8.3	-		
	30歳代	60	25.0	<b>71.7</b>	23.3	35.0	36.7	25.0	40.0	16.7	5.0	5.0	-		
	40歳代	68	16.2	51.5	32.4	38.2	35.3	23.5	48.5	23.5	4.4	<b>10.3</b>	4.4		
	50歳代	72	31.9	61.1	29.2	27.8	36.1	18.1	<b>50.0</b>	30.6	2.8	1.4	2.8		
	60歳代	92	40.2	53.3	22.8	25.0	41.3	22.8	39.1	<b>38.0</b>	6.5	4.3	5.4		
	70歳以上	117	32.5	47.9	13.7	20.5	30.8	11.1	26.5	29.9	4.3	6.0	<b>14.5</b>		

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(10)ローズWAMの利用経験の有無

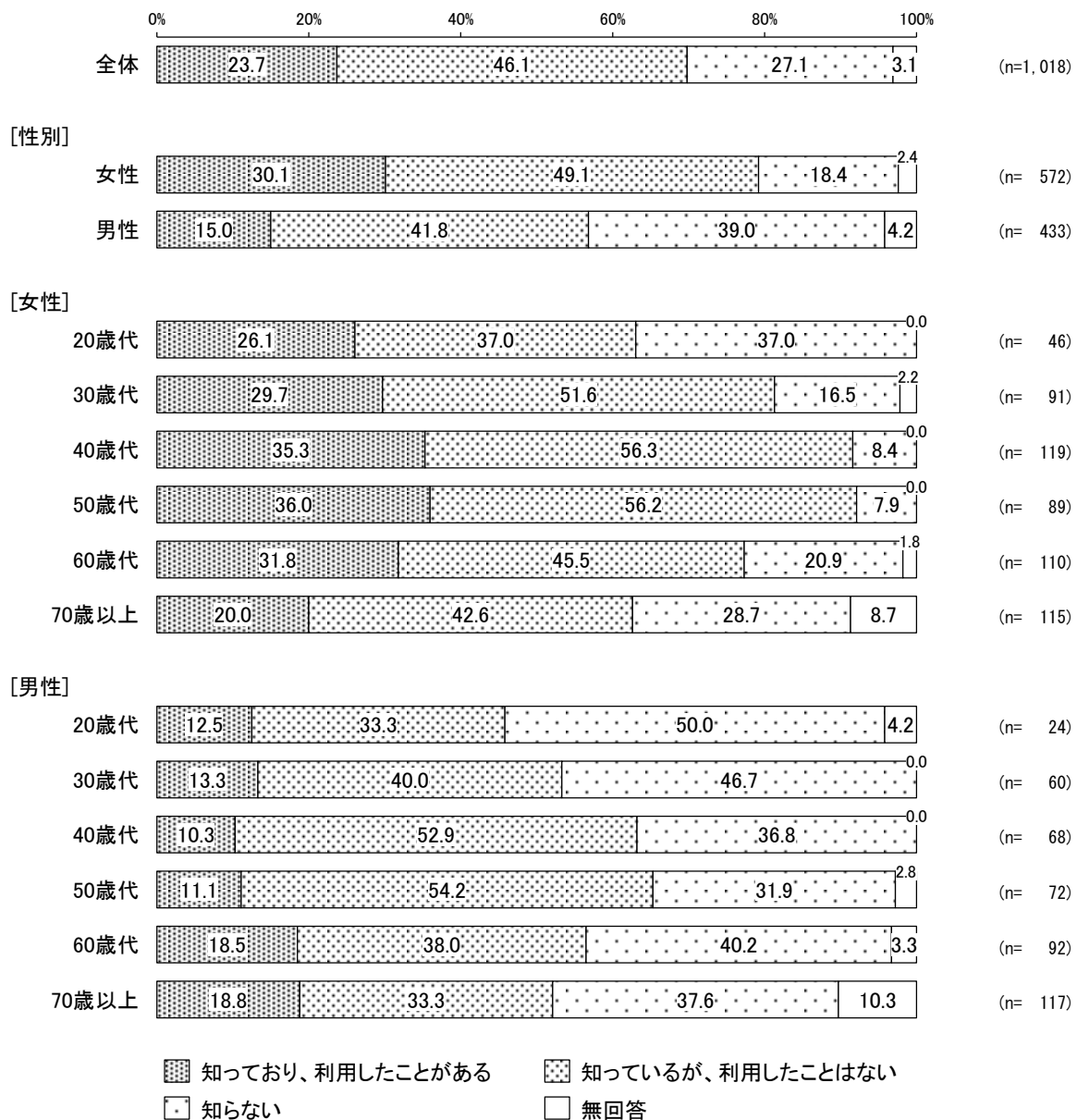
問23 あなたは、男女共生センター ローズWAMをご存じですか。(○は1つ)

男女共生センター ローズWAMの認知状況と利用経験をたずねたところ、「知っており、利用したことがある」が23.7%、「知っているが、利用したことはない」が46.1%、「知らない」が27.1%となっている。

性別にみると、「知っており、利用したことがある」の割合は女性30.1%・男性15.0%、『知っている』(「知っており、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)の割合は女性79.2%・男性56.8%となっており、いずれも女性で割合が高い。

年齢別にみると、『知っている』の割合は男女ともに40・50歳代で高くなっている。「知っており、利用したことがある」の割合は女性では40・50歳代、男性では60歳代と70歳以上で、他の年齢層と比べて割合が高くなっている。

図 性別、性年齢別 ローズWAMの利用経験の有無





(11)ローズWAMの利用内容

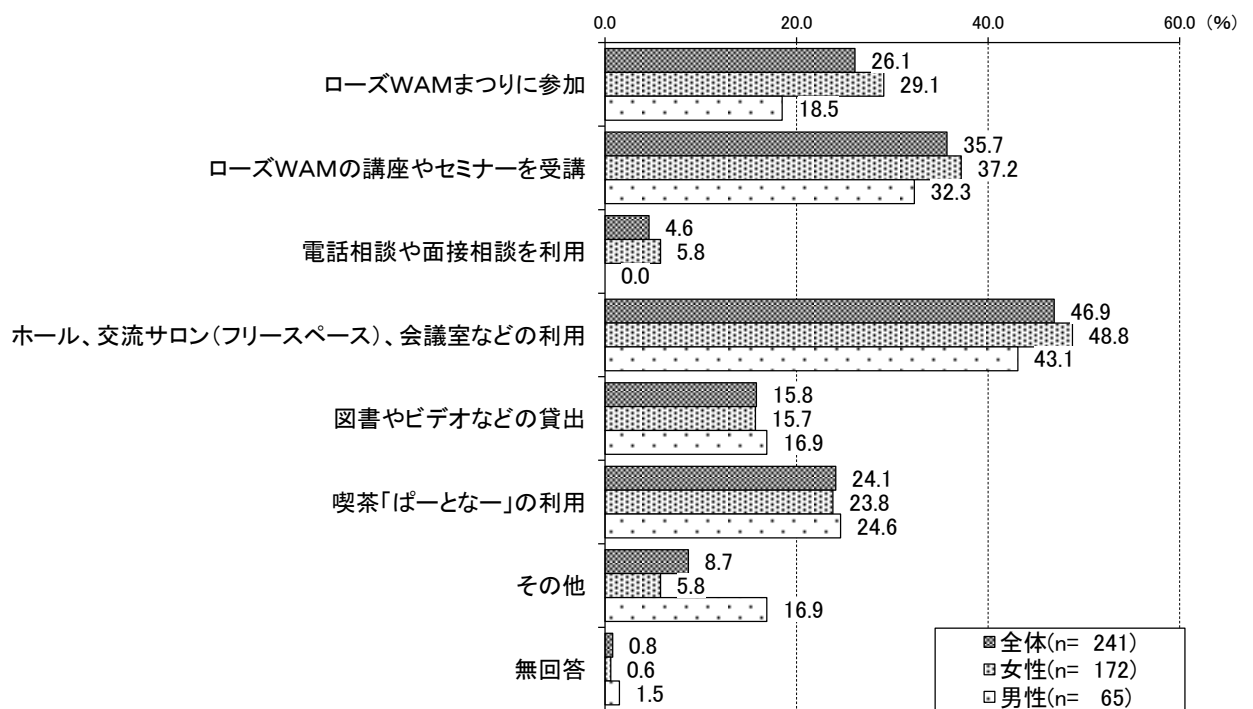
《問23で「1. 知っており、利用したことがある」と答えた方におたずねします。》

問23-1 どういったことで利用されましたか。(〇はいくつでも)

ローズWAMを利用したことがある人にその利用内容をたずねたところ、「ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用」が46.9%で最も高く、次いで「ローズWAMの講座やセミナーを受講」が35.7%、「ローズWAMまつりに参加」が26.1%、「喫茶『ぱーとなー』の利用」が24.1%となっている。

性別にみると、「ローズWAMまつりに参加」は女性29.1%・男性18.5%となっており、女性の方が10.6ポイント高い。

図 性別 ローズWAMの利用内容



年齢別にみると、女性の30歳代は「ローズWAMまつりに参加」が37.0%で最も高くなっている。女性の60歳以上の年齢層と男性の70歳以上では「喫茶『ぱーとなー』の利用」が3割を超えている。

表 性年齢別 ローズWAMの利用内容

	対象者数 (n)	ローズWAMまつりに参加	ローズWAMの講座やセミナーを受講	電話相談や面接相談を利用	ホール、交流サロン（フリースペース）、会議室などの利用	図書やビデオなどの貸出	喫茶「ぱーとなー」の利用	その他	無回答
全体	241	26.1	35.7	4.6	46.9	15.8	24.1	8.7	0.8
女性									
20歳代	12	33.3	-	-	58.3	41.7	-	8.3	-
30歳代	27	37.0	33.3	11.1	29.6	22.2	3.7	-	-
40歳代	42	28.6	45.2	7.1	50.0	14.3	21.4	-	-
50歳代	32	18.8	50.0	3.1	59.4	12.5	21.9	-	-
60歳代	35	28.6	40.0	8.6	45.7	14.3	45.7	11.4	-
70歳以上	23	34.8	26.1	-	52.2	4.3	34.8	21.7	4.3
男性									
20歳代	3	-	-	-	33.3	-	-	66.7	-
30歳代	8	12.5	25.0	-	25.0	12.5	-	37.5	-
40歳代	7	-	42.9	-	57.1	28.6	-	-	-
50歳代	8	-	12.5	-	50.0	12.5	25.0	37.5	-
60歳代	17	35.3	29.4	-	41.2	23.5	17.6	5.9	5.9
70歳以上	22	22.7	45.5	-	45.5	13.6	50.0	9.1	-

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、対象者数数(n)が10未満の属性については網掛けを除外している。

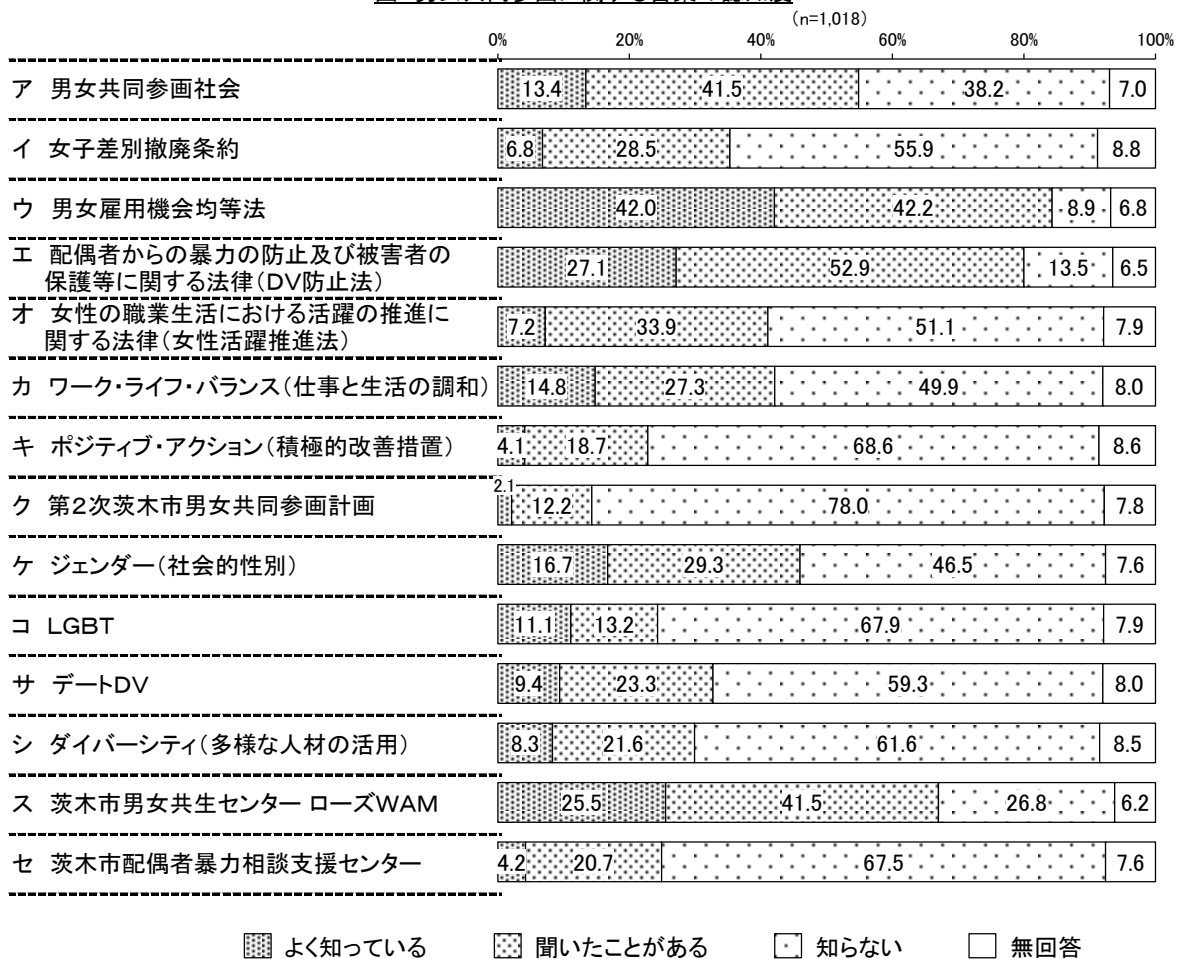
(12) 男女共同参画に関する言葉の認知度

問24 次の項目についてご存じのものはありますか。それぞれで、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

男女共同参画に関する言葉の認知状況についてたずねたところ、『聞いたことがある』(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)が高い順に、「ウ 男女雇用機会均等法」(84.2%)、「エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」(80.0%)、「ス 茨木市男女共生センター ローズWAM」(67.0%)、「ア 男女共同参画社会」(54.9%)となっている。

一方『聞いたことがある』の割合が低い項目は、順に「ク 第2次茨木市男女共同参画計画」(14.3%)、「キ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」(22.8%)、「コ LGBT」(24.3%)、「セ 茨木市配偶者暴力相談支援センター」(24.9%)となっている。

図 男女共同参画に関する言葉の認知度



性別にみると、「ケ ジェンダー(社会的性別)」「サ デートDV」「ス 茨木市男女共生センター ローズWAM」「セ 茨木市配偶者暴力相談支援センター」では女性の方が男性よりも『聞いたことがある』の割合が5ポイント以上高くなっている。対して、「ア 男女共同参画社会」「カ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」「シ ダイバーシティ(多様な人材の活用)」は男性の方が女性よりも『聞いたことがある』の割合が5ポイント以上高くなっている。

図 性別 男女共同参画に関する言葉の認知度



年齢別にみると、多くの言葉では年齢が若い層ほど認知度が高い傾向がみられ、特に「ク ジェンダー(社会的性別)」「サ デートDV」「カ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」「コ LGBT」でその傾向が強い。

表 性年齢別 男女共同参画に関する言葉の認知度  
「よく知っている」と「聞いたことがある」

	対象者数 (n)	ア 男女共同参画社会	イ 女子差別撤廃条約	ウ 男女雇用機会均等法	エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	オ 女性の職業生活における活躍の推進法	カ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	キ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	ク 第2次茨木市男女共同参画計画	ケ ジェンダー(社会的性別)	コ LGBT	サ デートDV	シ ダイバーシティ(多様な人材の活用)	ス 茨木市男女共生センター	セ 茨木市配偶者暴力相談支援センター	
全体	1,018	54.9	35.3	84.2	80.0	41.1	42.1	22.8	14.3	46.0	24.3	32.7	29.9	67.0	24.9	
女性	20歳代	46	89.1	54.3	95.7	80.4	56.5	63.1	32.6	6.5	87.0	39.1	43.5	47.8	65.2	32.6
	30歳代	91	50.6	37.4	89.0	84.6	51.7	45.1	19.8	17.6	64.9	34.1	46.2	34.1	79.1	17.6
	40歳代	119	47.0	30.2	89.9	84.8	37.0	37.0	26.9	10.9	54.7	22.7	49.6	31.1	87.4	24.3
	50歳代	89	60.7	41.6	93.2	83.2	44.9	46.1	28.1	18.0	60.7	28.1	43.8	34.8	86.5	34.9
	60歳代	110	49.1	29.1	80.0	85.5	40.0	33.6	16.4	10.0	35.5	21.8	26.4	11.8	74.6	33.6
	70歳以上	115	40.0	25.2	57.4	57.4	21.7	26.0	10.4	16.5	20.0	6.1	11.3	13.9	52.2	22.6
男性	20歳代	24	75.0	54.1	91.6	87.5	58.4	62.5	41.7	8.3	75.0	41.6	58.4	54.2	50.0	25.0
	30歳代	60	56.7	48.4	91.7	85.0	48.3	60.0	25.0	8.3	56.6	33.3	45.0	33.3	51.6	13.4
	40歳代	68	60.3	29.4	91.2	86.8	42.6	67.7	26.5	11.8	52.9	36.8	39.7	45.6	61.8	19.1
	50歳代	72	63.9	36.1	94.5	91.7	52.8	55.6	30.5	12.5	51.4	38.9	27.7	47.3	68.1	20.9
	60歳代	92	64.2	42.4	91.3	90.2	46.8	41.3	30.4	20.6	40.2	19.6	26.1	38.0	56.5	27.2
	70歳以上	117	47.0	28.2	73.5	64.1	28.2	22.3	12.0	17.1	15.4	9.4	13.7	15.4	50.5	23.1

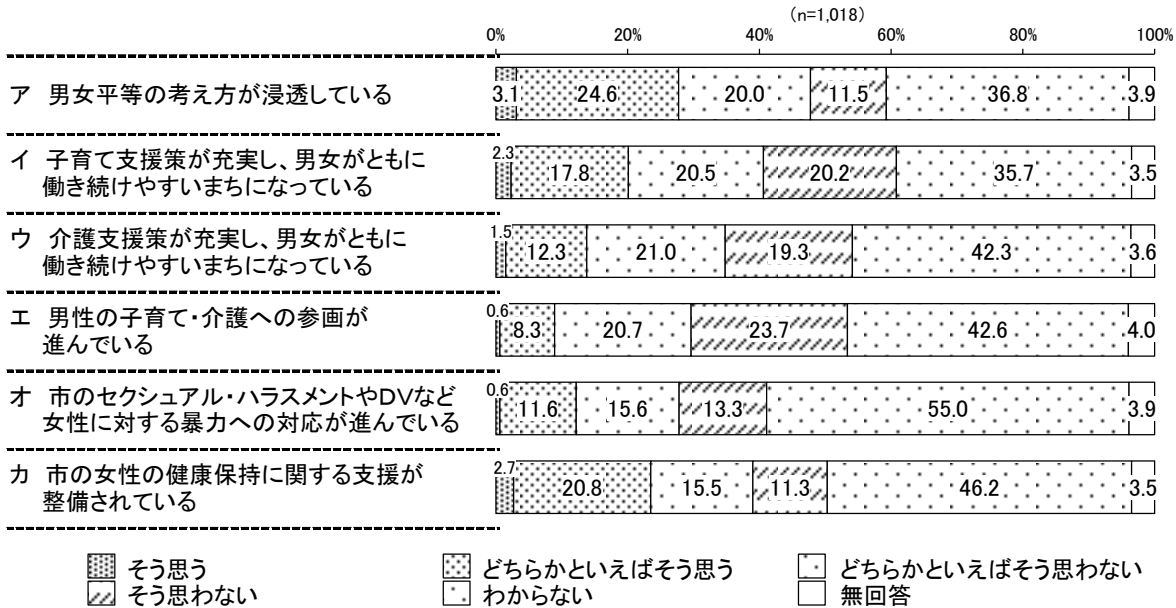
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(13) 男女共同参画の進展に関する認識

問25 現在の茨木市についておたずねします。あなたご自身の経験に照らして、あなたの考えに最も近いと思うものを選んでください。(○はそれぞれ1つ)

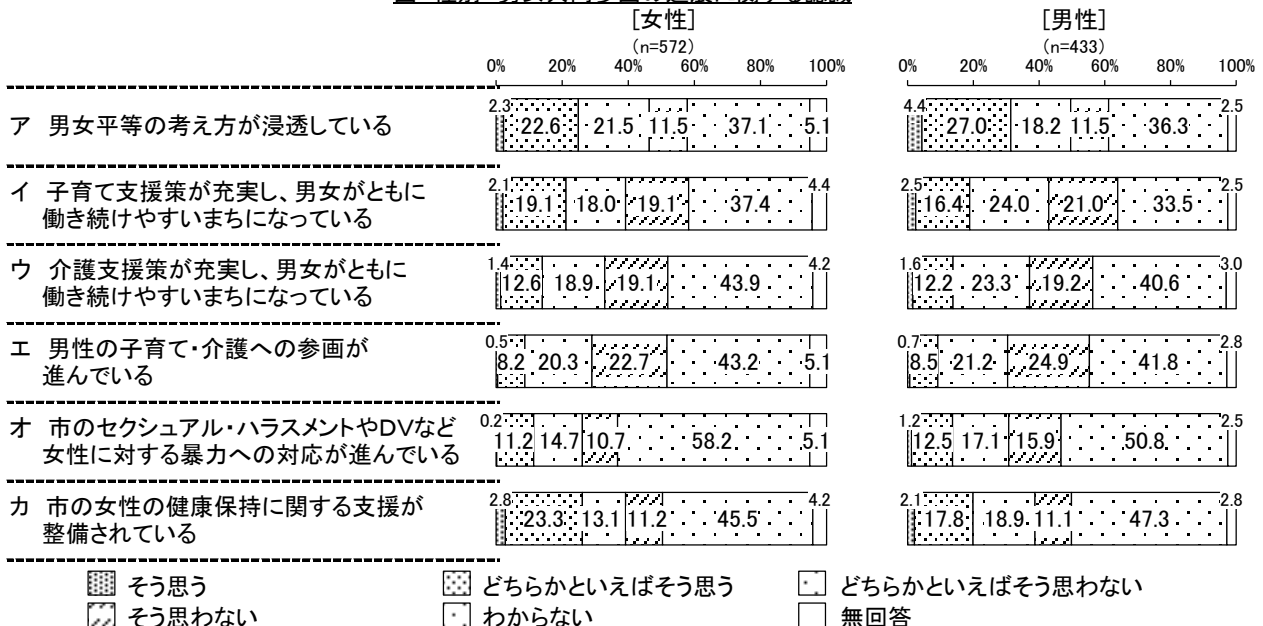
茨木市の男女共同参画の進展に関する認識についてたずねたところ、いずれの項目でも『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計)と「わからない」の割合が高くなっており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の割合は3割未満となっている。

図 男女共同参画の進展に関する認識



性別にみると、「ア 男女平等の考え方が浸透している」は男性で、「カ 市の女性の健康保持に関する支援が整備されている」は女性で、それぞれ『そう思う』の割合が高くなっている。女性では「オ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応が進んでいる」に対する「わからない」の割合が58.2%と高い。

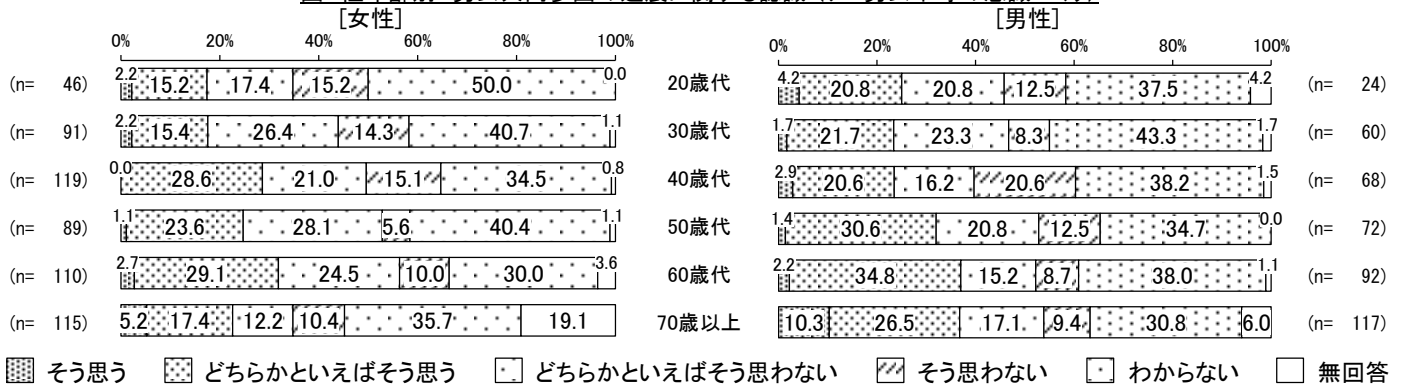
図 性別 男女共同参画の進展に関する認識



■ア 男女平等の考え方が浸透している

『そう思う』の割合は、女性の60歳代と男性の50歳以上の年齢層では3割を超えているが、女性の20・30歳代では2割未満となっている。

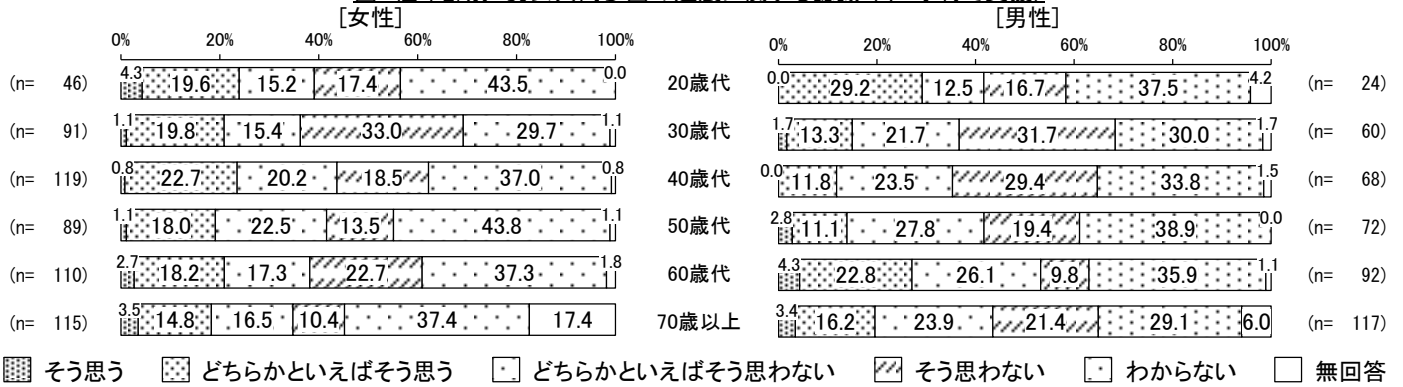
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 (ア 男女平等の意識づくり)



■イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

30歳代の男女と、40・50歳代の男性は『そう思わない』が約5割と高くなっている。

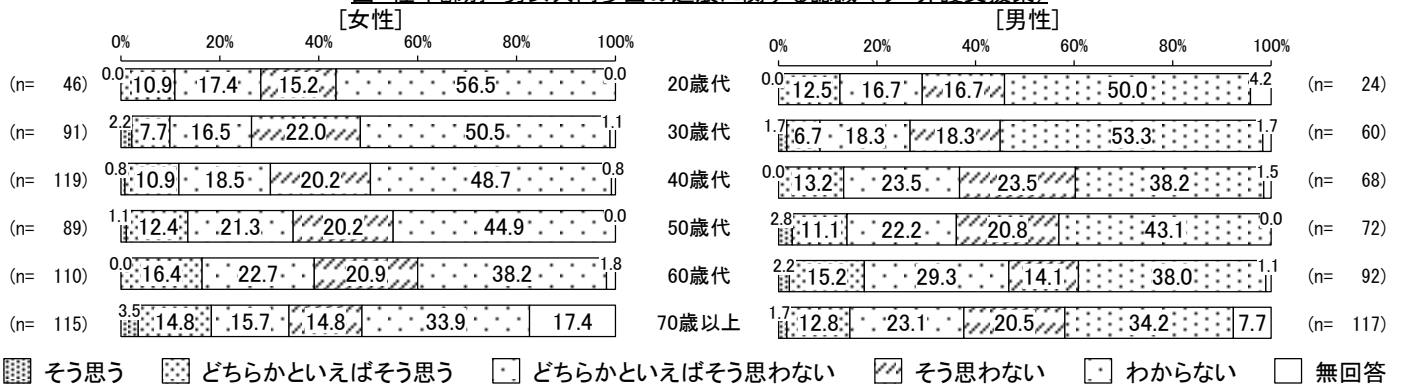
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 (イ 子育て支援)



■ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

20・30歳代の男女は「わからない」が5割以上となっている。男性の40歳代は『そう思わない』が47.0%と比較的高い。

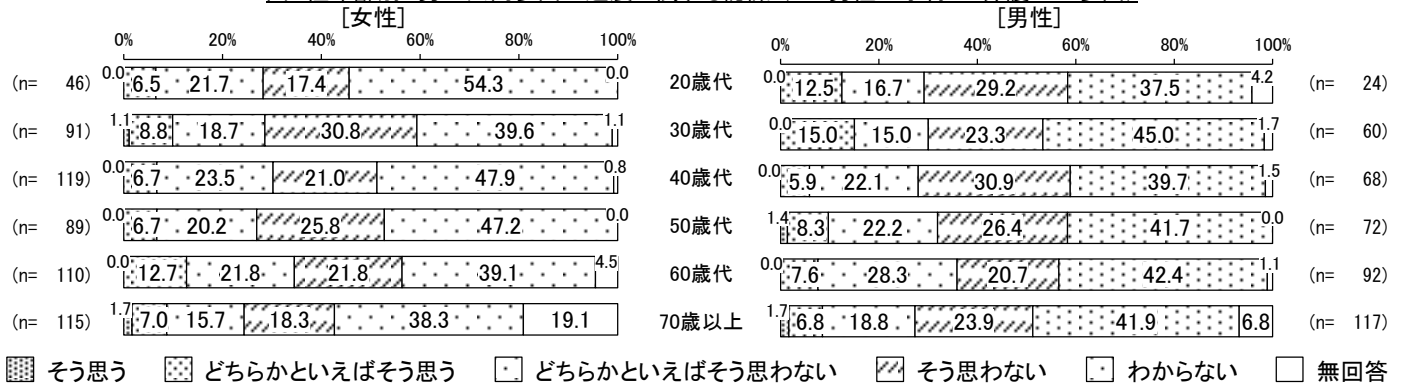
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 (ウ 介護支援策)



■エ 男性の子育て・介護への参画が進んでいる

女性の30歳代と、男性の40～60歳代では『そう思わない』が約5割となっている。

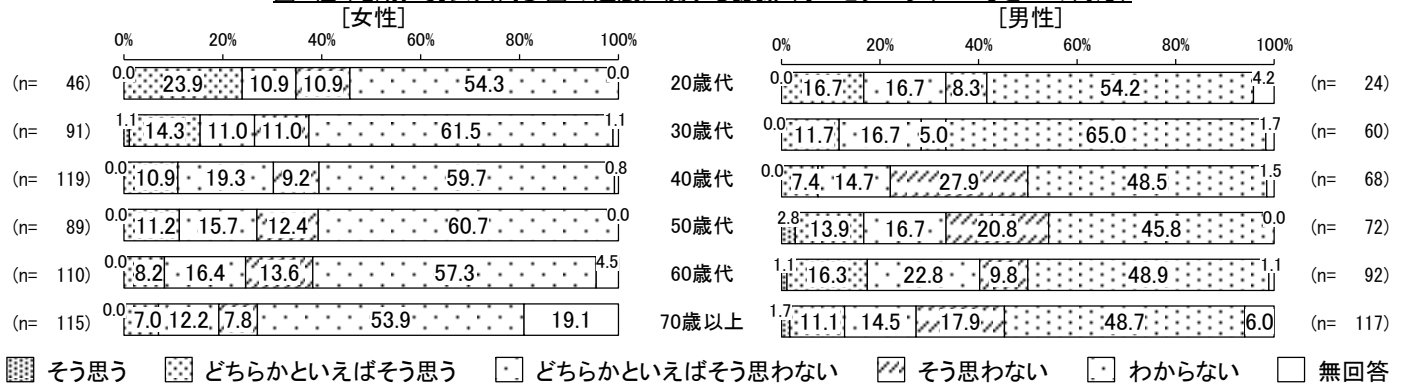
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 (エ 男性の子育て・介護への参画)



■オ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応が進んでいる

女性の20歳代は「どちらかといえばそう思う」(23.9%)が他の年齢層よりも高い。男性の40・50歳代は『そう思わない』が約4割となっている。

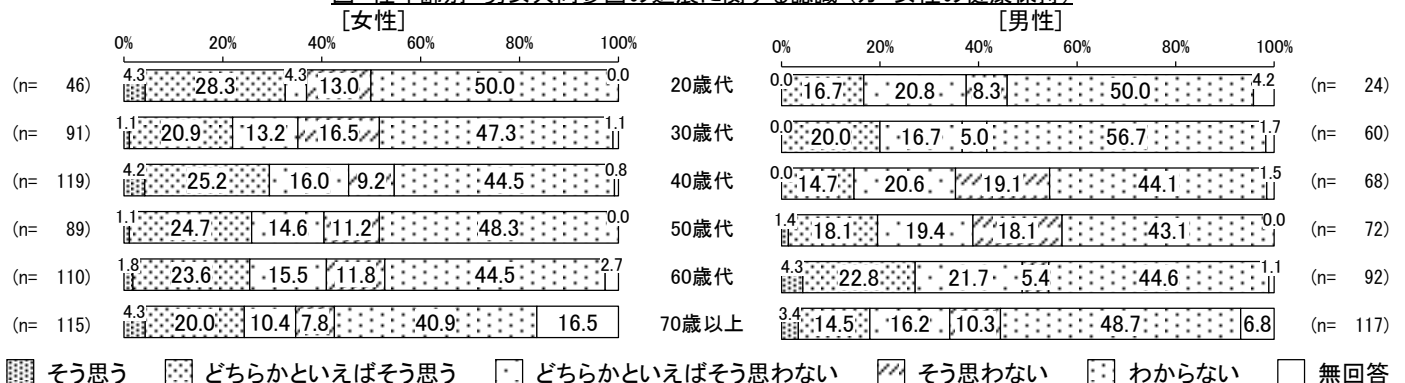
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 (オ セクハラやDVなどへの対応)



■カ 市の女性の健康保持に関する支援が整備されている

20歳代の男女と、30歳代の男性は他の年齢層よりも「わからない」の割合が高くなっている。男性の40・50歳代は『そう思わない』が4割弱となっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 (カ 女性の健康保持)







**茨木市男女がともにつくるまちづくり  
市民意識調査報告書**

平成29年(2017年)3月

---

発行 茨木市

編集 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号

TEL:072-620-1640 FAX:072-620-1725

E-mail [jinken@city.ibaraki.lg.jp](mailto:jinken@city.ibaraki.lg.jp)